佐久市文化財

年報 10

平成12年度

長野県佐久市教育委員会

佐久市文化財

年報 10

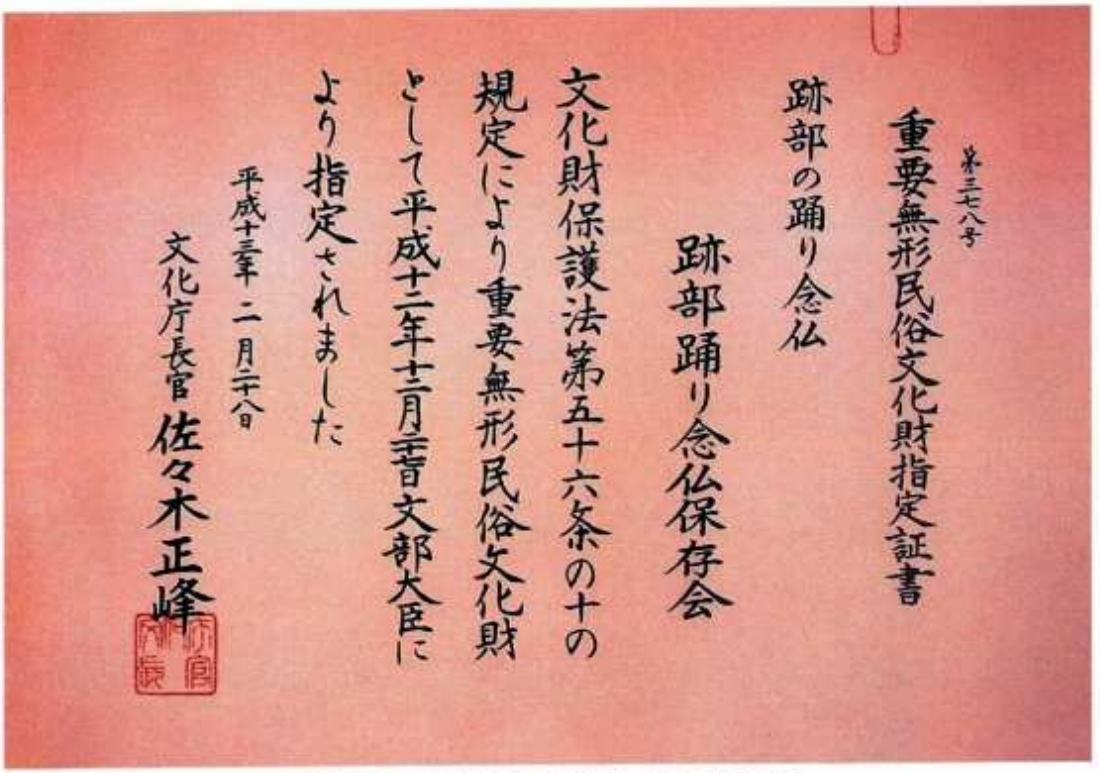
平成12年度

長野県佐久市教育委員会

佐久平全景　遠方に浅間山を望む。手前中央は千曲川

巻頭二

跡部の踊り念仏



「跡部の踊り念仏」重要無形民俗文化財指定証書

天神小根遺跡の細石刃石器群（S＝1/1）

巻頭四

八陵鏡（聖原・H615号住居址）

金銅製鈴（聖原・H203号住居址）

馬鈴（聖原・H499号住居址）

銅製鈴（西曽根Ⅳ・H１号住居址）

聖原遺跡・西曽根遺跡Ⅳ出土金銅製品（S＝1/1）

目　　次

Ⅰ 組 織

Ⅱ 埋蔵文化財事業

1．体　制……1
2．調査事業費……2
3．保護・保存事業
（1）現状及び保護・保存事業……3
（2）記録保存
1）概　要……3
2）発掘調査・整理作業……3
3）整理作業……4
4）試掘・立会調査……5
4．普及・公開事業
（1）第21回少年考古学教室……6
（2）埋蔵文化財資料展示室利用状況……7
5．分析・鑑定……7
6．刊行図書……8
7．調査概要
1．円正坊遺跡Ⅳ……9
2．西一本柳遺跡Ⅶ……12
3．辻の前Ⅱ・中仲田Ⅱ遺跡……15
4．内西浦遺跡Ⅱ……18
5．白岩城跡Ⅱ……20
6．内西浦遺跡Ⅲ……22
7．桶村遺跡Ⅱ……24
8．久襖添遺跡Ⅲ……26
9．天神小根遺跡……29
10．深堀遺跡群他Ⅲ・Ⅴ……31
11．深堀遺跡群他Ⅳ……34
12．鋳物師屋遺跡群　前田遺跡Ⅳ調査報告書……37
13．栗毛坂遺跡群　西曽根遺跡Ⅳ調査報告書……69
14．岩村田遺跡群　六供後遺跡Ⅱ調査報告書……85
15．桶橋遺跡調査報告書……97

Ⅲ一般文化財事業

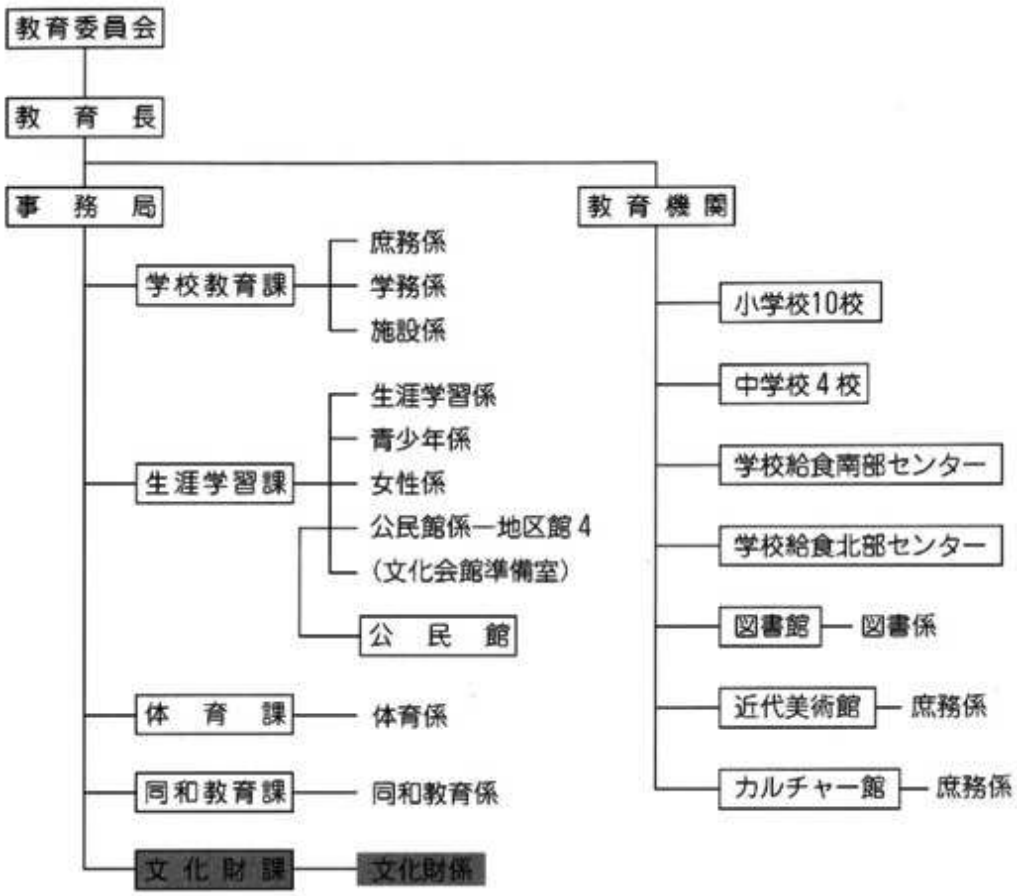
1．体　制……103
2．調査事業費……103
3．国・県・市指定文化財
1．跡部の踊り念仏国指定について……103
4．普及・公開事業……107

Ⅳ 庶務日誌……107

Ⅴ 施　設……109

平成12年４月

Ⅰ 組　織



Ⅱ 埋蔵文化財事業

1 体　制

佐久市教育委員会　文化財課

教　委　長	依田　英夫					
教育次長	小林　宏造					
文化財課長	草間　芳行					
文化財係長	荻原　一馬					
文化財係	林　幸彦	須藤　隆司	小林　眞寿	羽毛田卓也		
	冨沢　一明	上原　学	山本　秀典	出澤　力		

調査主任	佐々木宗昭	森泉かよ子			
調査副主任	堺　益子				
調査員	浅沼ノブ江	阿部　和人	荒井ふみ子	市川　昭	岩崎　靈子
	岩下　友子	上原　幸子	碓氷　知子	碓氷　英之	内堀　団
	梅澤　淳子	江原　富子	遠藤しづか	荻原千鶴子	小倉　智巳
	小田川　栄	小野沢健二	小幡　弘子	柏木　貞夫	柏木　三郎
	柏木　義雄	柏原　松枝	片山　祐介	金井　保夫	木内　明美
	木内　節夫	菊池　喜重	菊池　康一	倉見　渡	幸崎　眞理
	神津ツネヨ	小金沢たけみ	小須田サクエ	小林喜久子	小林　幸子
	小林　淳子	小林　妙子	小林　裕	小林まさ子	小林百合子
	小林よしみ	小山　功	斎藤　眞理	佐久本眞樹子	桜井　牧子
	櫻井　聖仁	佐々木　正	佐々木久子	佐藤　愛子	佐藤志げ子
	佐藤　剛	澤井　皐月	篠崎　清一	島田　幹子	清水佐知子
	須藤　瑞帆	関口　正	副島　充子	高見澤　綾	田中　章雄
	田中ひさ子	樋田　咲枝	中嶋　照夫	中島とも子	中嶋フクジ
	中嶋　良造	中条　悦子	成澤　富子	西田　豊	橋詰　勝子
	橋詰けさよ	橋詰　信子	花岡美津子	花里香代子	花里四之助
	花里三佐子	林　美智子	林　幸男	比田井久美子	平林　泰
	細萱ミスズ	細谷　秀子	堀籠　滋子	堀篭　因	堀籠みさと
	真嶋　保子	増野　深志	水間　雅義	宮川百合子	武者　幸彦
	森角　雅子	柳沢　孝子	柳澤千賀子	山浦　豊子	山村　容子
	依田　みち	若林　希	和久井義雄	渡邊久美子	渡辺　長子
	渡邊　倍男	中島　里佳			

2　調査事業費

平成12年度埋蔵文化財事業費

予　算　額　256,969,000
決　算　額　256,851,175
受託事業費　165,101,000

3　保護・保存事業

（1）現状及び指定保護・保存

なし

（2）記録保存

1）概要

開発原因者		調査実施数					報告書刊行
		発掘	試掘	立会	整理	計	
国県市等	国・県補助		1			1	1
	長野県土地開発公社				1	1	1
	佐久建設事務所	3	1	1	2	7	2
	長野県土地改良課	1				1	
	佐久市土地開発公社	1			3	4	2
	佐久市	8	4	3	2	17	2
個人・民間企業		2	26	2	2	32	2
合　計		15	32	6	10	63	10
原因者負担		14		6	10	30	9
国・県補助		1	32			33	1

2）発掘調査・整理作業

No	遺跡名 調査面積	所在地 事　業	備　考
1	杜和坂遺跡群　円正坊遺跡Ⅳ 4,200㎡	大字岩村田字円正坊 都市計画道路改築工事	住居址 8軒　掘立柱建物址 4棟 方形周溝　円形周溝
2	一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅶ 2,300㎡	大字岩村田字下横町 市道整備	住居址51軒　掘立柱建物址14棟 溝　土坑
3	辻の前Ⅰ・中仲田Ⅱ遺跡 730㎡	大字長土呂 道路改良	住居址 3軒　土坑 溝状遺構
4	内西浦遺跡Ⅱ 1,200㎡	大字岩村田字内西浦 こども未来館駐車場建設	中世溝状遺構　土坑　柱穴址 墓地
5	白岩城跡Ⅱ 1,200㎡	大字上平尾字古城跡 平根児童館建設	中世土坑　柱穴址 溝状遺構
6	内西浦遺跡Ⅲ 526㎡	大字岩村田字内西浦 区画整理事業	住居 9軒　掘立柱建物址 1棟 井戸址　溝状遺構
7	楯村遺跡Ⅱ 6,880㎡	大字平賀字楯村 道路改良事業	住居址 6軒　掘立柱建物址 5棟 溝状遺構 4本
8	久保添遺跡Ⅱ 1,250㎡	大字太田部字入江 道路改良事業	住居址30軒　土坑 溝状遺構　井戸址
9	天神小根遺跡 636㎡	大字志賀字天神小根 緊急地方道路整備事業	旧石器ブロック 2箇所

No	遺跡名 調査面積	所在地 事　業	備　考
10	深堀遺跡群Ⅲ・Ⅴ 2,600㎡	大字瀬戸 農村活性化住環境整備	住居址2軒　土坑 溝状遺構
11	深堀遺跡群Ⅳ 471,184㎡	大字瀬戸 住宅団地造成	住居址59軒　土坑　落とし穴 鍛冶址　溝状遺構
12	前田遺跡Ⅳ 863㎡	大字小田井字前田 道路改良事業	住居址5軒　土坑 溝状遺構
13	西曽根遺跡Ⅳ 286㎡	大字岩村田字西曽根 営業所建設	住居址2軒　溝状遺構
14	六供後遺跡Ⅱ 174㎡	大字岩村田字六供後 集合住宅建設	住居址1軒　溝状遺構
15	橋橋遺跡 370㎡	大字岩村田字橋橋 道路改良事業	土坑1基

3）整理作業

No	遺跡名 調査面積	所在地 事　業	備　考
1	枇杷坂遺跡群	大字長土呂 佐久平駅周辺区画整理	平成7年度より調査
2	下曽根遺跡	大字小田井 市道改良・曽根線	佐久市埋蔵文化財調査報告書第88集
3	檪名平遺跡	大字根岸字檪名平 厚生年金福祉施設建設	佐久市埋蔵文化財調査報告書第84集
4	中原遺跡群　梨の木遺跡Ⅱ	大字原 R141バイパス	佐久市埋蔵文化財調査報告書第90集
5	西一・松・中長塚遺跡	大字岩村田 R141バイパス	佐久市埋蔵文化財調査報告書第90集
6	長土呂遺跡群　聖原遺跡	佐久市大字長土呂 佐久流通業務団地造成	平成元年～平成7年度調査
7	川原端遺跡	佐久市大字大和田 住宅団地造成	佐久市埋蔵文化財調査報告書第89集
8	岩村田遺跡群　柳堂遺跡	佐久市大字岩村田 子供未来館建設	佐久市埋蔵文化財調査報告書第85集
9	入高山遺跡	大字長土呂 工場建設	佐久市埋蔵文化財調査報告書第93集
10	三千束遺跡群　宮添遺跡	佐久市大字三塚 事務所建設	佐久市埋蔵文化財調査報告書第87集

4）試掘・立会い調査

No	遺跡名	所在地	開発面積(㎡)	調査期間	調査方法
1	（1）鵜久遺跡 （2）後久保遺跡 （3）上野B遺跡	根岸 東立科 前山	169 196 256	H12.4.17～28他 H12.4.13・14他 H12.8.1～12	試掘
2	尾垂遺跡	前山	19,281	H12.4.12～18	試掘
3	芝宮遺跡群12	長土呂	2,554	H12.4.26・27	試掘
4	中原遺跡群24	中込	2,124	H12.5.11	試掘
5	金山遺跡4	跡部	3,235	H12.5.26・29	試掘
6	岩村田遺跡群25	岩村田	216	H12.6.5～22	立会
7	蛇塚B遺跡3	新子田	1,834	H12.6.13・14	試掘
8	一本柳遺跡群9	岩村田	2,891	H12.6.16	試掘
9	東内池遺跡4	新子田	1,129	H12.6.21・22	試掘
10	芝宮遺跡群13	長土呂	900	H12.6.22	試掘
11	辻遺跡5	野沢	1,135	H12.6.30	試掘
12	一本柳遺跡群10	岩村田	3,441	H12.7.4～6	試掘
13	寺畑遺跡群7	猿久保	2,644	H12.7.6	試掘
14	枇杷坂遺跡群18	岩村田	1,780	H12.7.10・11	試掘
15	楢村遺跡群2	平賀	8,114	H12.7.21～25	試掘
16	寺畑遺跡群8	猿久保	1,514	H12.9.4	試掘
17	岩村田遺跡群26	岩村田	540	H12.9.6	試掘
18	番屋前遺跡群13	猿久保	675	H12.9.8	試掘
19	中原遺跡群25	三河田	540	H12.10.16	立会
20	枇杷坂遺跡群19	岩村田	286	H12.10.18	試掘
21	岩村田遺跡群27	岩村田	2,641	H12.11.24	試掘
22	芝宮遺跡群14	長土呂	536	H12.12.5	試掘
23	西近津遺跡群4	常田	3,823	H12.12.6～8	試掘
24	濱石遺跡3	上平尾	545	H12.12.12	試掘
25	中久保田遺跡6	岩村田	1,088	H12.12.19	試掘
26	白山遺跡群3	鳴瀬	1,003	H12.12.19	試掘
27	長土呂遺跡群4	長土呂	1,995	H12.12.25～28	試掘
28	野馬窪遺跡群2	猿久保	1,268	H13.1.9～15	試掘
29	岩村田遺跡群28	岩村田	2,786	H13.1.16・17	試掘
30	常田居屋敷遺跡群7	塚原	2,078	H13.1.24	試掘
31	橋橋遺跡	岩村田	1,000	H13.1.24～2.9	試掘
32	久禰添遺跡2	太田部	45	H13.2.1	立会
33	上の城遺跡群7	岩村田	5	H13.2.16	立会
34	周防畑遺跡群11	長土呂	150	H13.2.26	試掘
35	東大久保遺跡群2	上平尾	48	H13.2.26	立会
36	円正坊遺跡群3	岩村田	3,613	H13.3.7～16	試掘
37	白山遺跡群4	鳴瀬	38	H13.3.14	立会
38	宮田遺跡	瀬戸	15,000	H13.3.19～27	試掘

4　普及・公開事業

（1）第21回少年考古学教室

開催遺跡　西一本柳遺跡Ⅶ

開催日　平成12年8月4・7・8日

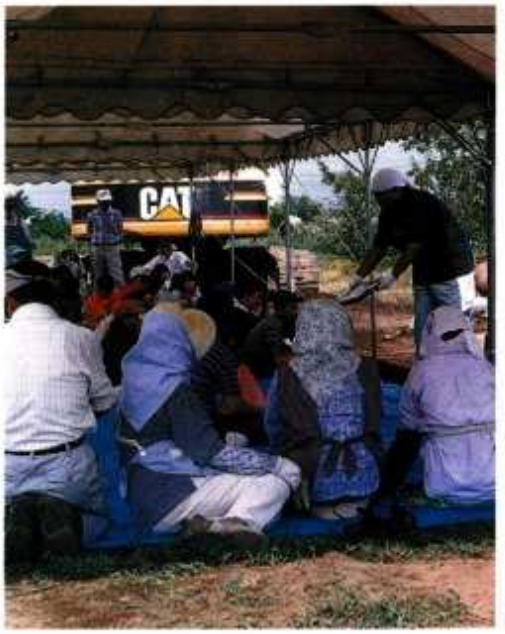
対象・参加者　市内小中学生　111名

内容　講話「佐久地方における発掘調査の成果」

実技　古代竪穴住居址の発掘調査

見学　弥生時代から平安時代の竪穴住居等

県こども新聞コンクール　地区入賞作品から



（2）埋蔵文化財資料展示室利用状況

入室者数　324名

5　分析・鑑定

（1）梨の木遺跡	炭化種子・樹種鑑定	パリノ・サーヴェイ株式会社
（2）深堀遺跡群他Ⅱ・Ⅴ	出土人骨鑑定	長野県看護大学社会経済学研究室教授 理学博士　多賀谷　昭氏
	土器胎土分析	株式会社　第四紀地質研究所
	炭化種子・炭化材鑑定	株式会社　古環境研究所
（3）深堀遺跡群他Ⅳ	鉄製品及び鉄製関連遺物の分析	川崎テクノリサーチ株式会社
（4）辻の前Ⅱ・中仲田Ⅱ遺跡	リン・炭素分析・材同定	パリノ・サーヴェイ株式会社
（5）天神小根遺跡	火山灰分析及び年代測定	株式会社　古環境研究所
（6）川原端遺跡	炭化材　炭化物同定	パリノ・サーヴェイ株式会社
（7）上芝宮・下曽根遺跡	土器胎土分析	株式会社　第四紀地質研究所

6　刊行図書

第84集　『榛名平遺跡』
第85集　『柳堂遺跡』
第86集　『市内遺跡発掘調査報告書1999』
第87集　『宮添遺跡』
第88集　『下曽根遺跡』
第89集　『川原端遺跡』
第90集　『梨の木遺跡』
第91集　『西一本柳・中長塚・松ノ木』
第92集　『辻の前Ⅱ・中仲田Ⅱ遺跡』
第93集　『入高山遺跡』

調査スナップ

1. 枇杷坂遺跡群　円正坊遺跡Ⅳ

所　在　地　佐久市大字岩村田字円正坊
1282－1他

調査委託者　佐久市都市計画課

開発事業　都市計画道路佐久平駅蓼科口線
道路改築工事

調査期間　平成11年5月13日～
平成13年3月31日

調査面積　4,200㎡

調査担当者　森泉かよ子

円正坊遺跡Ⅳ位置図

経過と立地

円正坊遺跡は佐久市岩村田地籍にあり、小海線岩村田駅の西にある。この遺跡は考古学的に由緒のある遺跡で、昭和9年刊行の八幡一郎著『北佐久郡の考古学的調査』（P131－先史時代後期の遺跡－岩村田駅付近の竪穴）において、すでに登場している。

「岩村田町付近一帯の地が遺跡に富むことはすでに知った所である。佐久鉄道の敷設、中学校及女学校の地均等の大工事に際してはもとより、土地開サクにあたって暴露される竪穴の数は極めて多く、その都度多数の土器が発見された。佐久鉄道株式会社岩村田駅付近にも再三斯かる機会があった。 神津猛氏の注意に基づき、本教育会郷土研究部委員は、昭和5年6月該所の調査を行い、その一部を調査した。」とこのように述べられ、昭和5年に発掘調査が行われた地である。

また、昭和59年には長野県高速道事務所の建物建築に伴い浄化槽部分として円正坊遺跡Ⅰ地点が発掘調査され、竪穴住居址、円形周溝が検出されている。今回、都市計画課により都市計画道路佐久平駅蓼科口線道路改築工事が着工されることとなり、遺跡の破壊が余儀なく、発掘調査を行い記録保存する運びとなった。

遺跡は岩村田台地の西縁に位置し、浅間火山の噴出物である浅間第1軽石流の堆積地域である。ここは河川に浸食され形成された田切り地形が発達している地点でもある。本遺跡の西はその田切りが消滅し、広く低地になるところであり、遺跡は隣接地にある。低地に望むため地崩れ現象があったのか、西の低地に向かって～100cmほど水平方向の地盤のズレが確認された。

調査概要（平成12年度調査分）

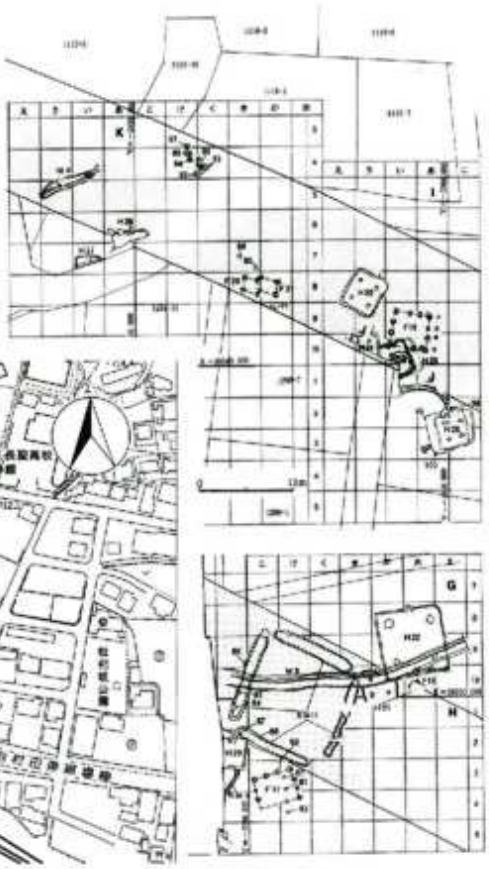
検出遺構

古墳時代中期・後期	竪穴住居址	8棟
古墳時代	掘立柱建物址	4棟
単独ピット		18個
弥生時代末～古墳時代初頭	方形周溝	1基
〃	円形周溝	1基
中世～近代	溝（道路址含む）	2本
古墳時代・不明	土坑	1基

主な出土遺物

弥生式土器	壺・甕・杯
土師器	杯・高杯・鉢・丸胴甕・長胴甕・甑
須恵器	杯・瓶・甕
陶磁器片	青磁碗
鉄製品	刀子・鎌・鉄滓
石製品	石製模造品（剣・鏡）・臼玉・勾玉・スリ石・編物石・石鏃
炭化物	柱材・カヤ状炭化物・木の実
古銭	寛永通寶・半銭

SM11周溝出土遺物



枇杷坂遺跡群円正坊遺跡Ⅳ平成12年度調査区設定図・全体図

M3・SM11・H20・F17地点全景（西より）

H23・H24・H25・F19地点全景（北西より）

M3調査風景

スナップ

2. 一本柳遺跡群　西一本柳遺跡Ⅷ

所 在 地　佐久市大字岩村田字下橘田
1773－1　他

調査委託者　佐久市土木課

開 発 事 業　市道11－1号線緊急地方道路整備事業

調 査 期 間　平成12年5月28日～
平成13年3月31日

調 査 面 積　2,983.6㎡（内2000㎡）

調査担当者　森泉かよ子

西一本柳遺跡Ⅷ位置図（1：50,000）

経過と立地

一本柳遺跡群は佐久市大字岩村田地籍に所在し、湯川の右岸、岩村田市街地南部のＪＲ小海線から西方に約1㎞地点に展開している。西の西ノ久保・東原遺跡まで含めて、本遺跡群全体が低地に囲まれた環濠集落状の台地だったようである。南は湯川を望み、北は川が流れる低地をもつ自然条件に恵まれた所であった。南側の一段下がった中西の久保遺跡群には古墳時代初頭の集落もみられる。この地域は市街地に近いため宅地化が進んでおり、東一本柳遺跡をはじめとして発掘調査が実施され、ついで東一本柳古墳、北一本柳遺跡、西一本柳遺跡Ⅰ、さらに北西ノ久保遺跡の発掘調査が行われ、弥生中期～平安時代の集落や弥生～近世の墳墓等が数多く検出された。

東一本柳古墳は昭和46年に調査され、金銅製の杏葉・辻金具、鉄製轡をはじめとする馬具、鉄鏃、刀装具、玉類などの豊富な副葬品で知られている。平成3・4年度に発掘調査された西一本柳遺跡Ⅰ・Ⅱでは壺口縁部に弥生人の顔を造作した人面土器が出土し注目された。北西ノ久保遺跡の調査では、台地上から弥生時代中期・後期、古墳時代中期、平安時代の集落や弥生時代の方形周溝墓・木棺墓群、多量の埴輪が出土した古墳時代中期～後期の古墳群、近世の土壙墓群が調査され、北西の久保遺跡の東斜面からは中世の五輪塔等の石塔婆群が検出されている。

ここの遺跡の地質は西では塚原泥流の残丘が地盤をなし、東は塚原泥流の上にのった浅間第1軽石流が地盤をなすところと、その上に二次堆積した砂質の浅間第1軽石流が基盤をなすところがある。大半は、砂質土が遺構構築面であるため、壁・床ともに崩壊しやすい所である。

今回市道11－1号線改良工事が行われることになり、遺跡の破壊が余儀なくされ、記録保存するため発掘調査をおこなう運びとなった。

調査概要（平成12年度調査分）

検出遺構

弥生時代中期	竪穴住居址	3棟、	溝2本
古墳時代中期～後期	竪穴住居址	36棟	
奈良～平安時代	竪穴住居址	12棟	
古墳時代～平安時代	掘立柱建物址	14棟	
単独ピット		200個	
中　世	土　坑	2基、	溝（道路址含む）　1本
	（竪穴状遺構含む）		

主な出土遺物

弥生式土器	壺・甕・杯
土師器	杯・高杯・鉢・丸胴甕・長胴甕・甑
須恵器	杯・瓶・甕
陶磁器片	青磁碗
鉄製品	刀子・鎌・鉄滓
石製品	石製模造品（剣・鏡）・白玉・ スリ石・編物石・石鏃
炭化物	柱材・カヤ状炭化物・木の実

西一本柳遺跡Ⅵ調査区全景(西より)

西一本柳遺跡Ⅶ全体図（1：500）

3. 周防畑遺跡群　辻の前遺跡Ⅱ・中仲田遺跡Ⅱ

所在地　佐久市大字長土呂字辻の前1534－4（辻の前遺跡Ⅱ）
佐久市大字長土呂字中仲田1561－4（中仲田遺跡Ⅱ）

調査委託者　佐久市建設部土木課

開発事業名　道路改良

調査期間　平成12年11月13日～12月1日

調査面積　辻の前遺跡Ⅱ　240㎡
中仲田遺跡Ⅱ　490㎡

調査担当者　佐々木　宗昭

A辻の前遺跡Ⅱ・B中仲田遺跡Ⅱ位置図

経過と立地

周防畑遺跡群は佐久市の北方にあって、浅間山麓の南端にあたる。当地点は浅間山から南西・西方に向けて「田切り」の地形が放射状に伸びる台地の東端部に位置する。この田切り地形は今回調査が行われた辻の前遺跡Ⅱ・中仲田遺跡Ⅱ付近でみかけじょう消滅し、隣接した南西側は低湿地となる。現在は水田地帯が広がるこの位置に近年、新幹線及び小海線の「佐久平駅」が建設された。辻の前遺跡Ⅱ・中仲田遺跡Ⅱはこの佐久平駅の西側約150mの水田地帯に所在し、当地点には市道1－125号線が南北に縦断している。平成11年区画整理事業に伴い、辻の前遺跡・中仲田遺跡が調査され、その際に辻の前遺跡Ⅱ・中仲田遺跡Ⅱが所在する市道1－125号線下に弥生時代の住居址が広がって存在していることが明らかとなった。このため今回、佐久市建設部土木課による市道1－125号線の道路改良が行われることとなり、記録保存を目的として発掘調査を行う運びとなった。尚、小海線を挟み、南側に辻の前遺跡が、北側に中仲田遺跡が所在する。

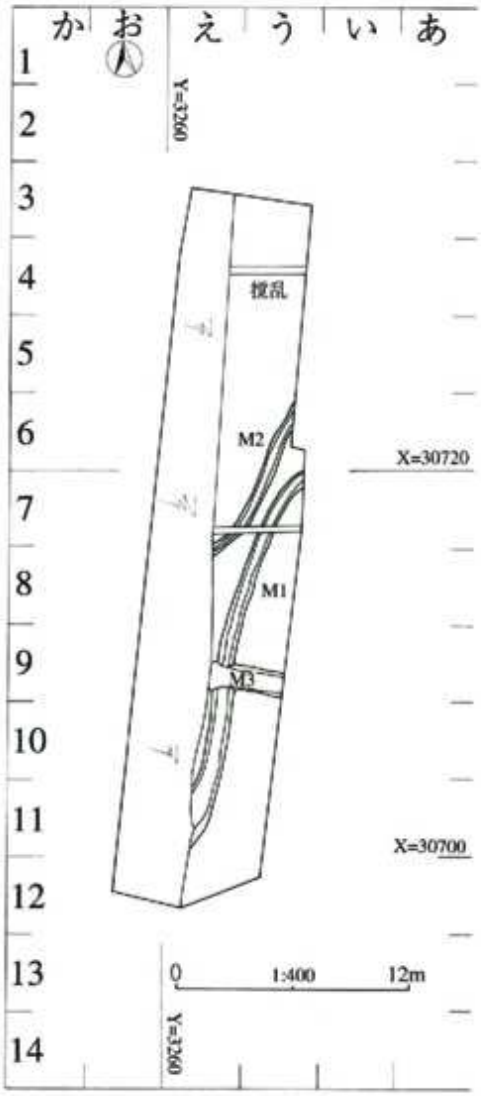
調査概要

今回に発掘調査により検出された遺構は以下のとおりである。

〈辻の前遺跡Ⅱ〉　竪穴住居址　3軒　弥生時代後期後半～古墳時代前期前葉
土　　坑　1基　古墳時代前期前葉
溝状遺構　1基　時代不明

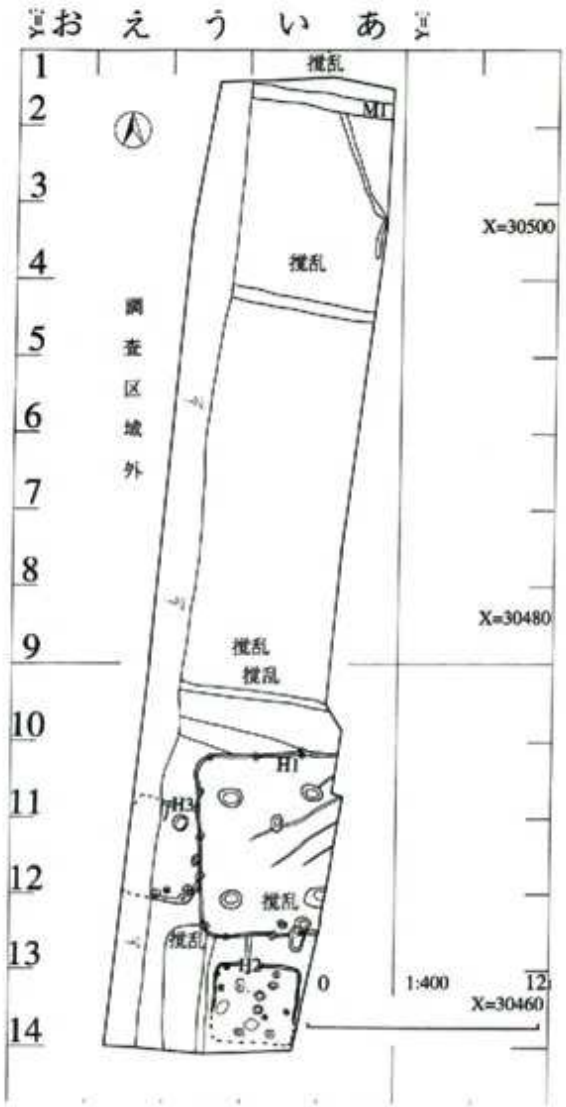
〈中仲田遺跡Ⅱ〉　溝　　址　3基　M1号溝址－近世以前　M2号溝址－近世以後
M3号溝址－近世以後

H１号住居址　残存する西壁・北壁・南壁の各壁体部にピットが配されている



中仲田遺跡Ⅱ全体図

中仲田遺跡Ⅱ近景
水田地帯を北に向かう市道１－125号線



辻の前遺跡Ⅱ全体図

辻の前遺跡Ⅱ近景
小海線を挟み浅間山を望む

H３号住居址

H３号住居址遺物出土状況

4. 岩村田遺跡群　内西浦遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字岩村田字内西浦
1201－1・12

開発主体者　佐久市児童課

開発事業名　こども未来館駐車場建設

調査期間　平成12年9月27日～11月21日

面　　積　約1,200㎡

調査担当者　羽毛田卓也

内西浦遺跡Ⅱ位置図（1：50,000）

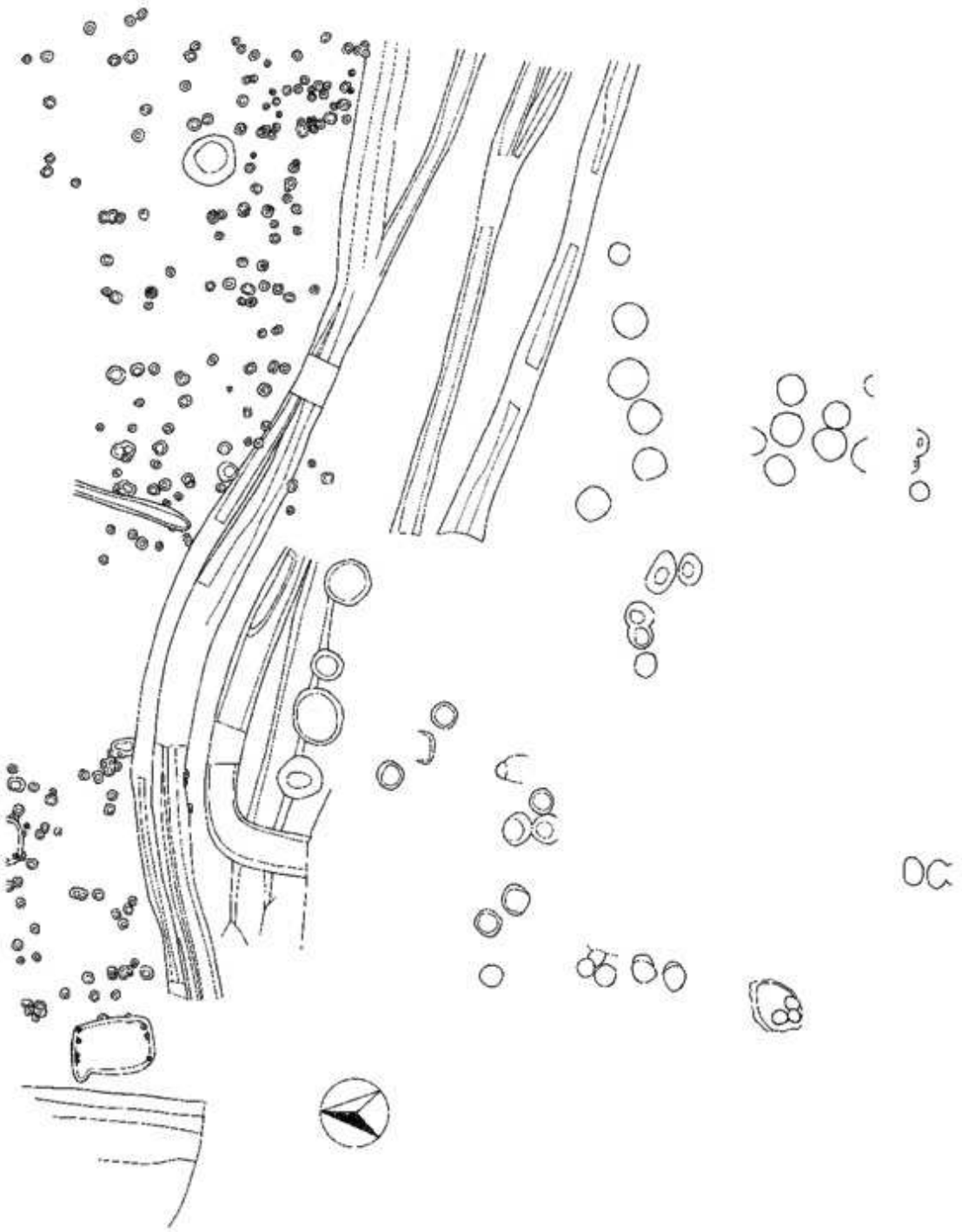
立地と経過

岩村田遺跡群は佐久市の北方に展開する弥生時代から近世にかけての大複合遺跡である。今回の調査地点は、遺跡群の南西端に位置する。北接する内西浦遺跡（平成元年度調査）と南接する柳堂遺跡（平成11年度調査）では、中世を主体とする集落が高密度で検出されている。今回佐久市児童課によるこども未来館駐車場建設が計画されたため、本調査することとなった。

調査概要

調査の結果、柳堂遺跡に接続すると考えられる弥生時代の溝址、中世と考えられる土坑・溝址・柱穴址、近世から近代にかけての墓地包含層などを検出した。

西浦遺跡Ⅱ調査風景



内西浦遺跡Ⅱ調査全体図（1：200）

5. 白岩城跡Ⅱ

所 在 地 佐久市大字上平尾字古城跡953－1
開発主体者 佐久市児童課
開発事業名 平根児童館建設
調 査 期 間 平成12年5月17日～5月30日
面　　積 約1,200㎡
調査担当者 羽毛田卓也

白岩城跡Ⅱ位置図（1：50,000）

立地と経過

白岩城跡は佐久市北東部の上平尾地籍に所在する中世の居館跡である。昭和63年度の調査では、館跡を巡る堀と門跡が検出された。今回の調査地点は、館跡の中心を巡る堀の南側に位置する。今回佐久市児童課による平根児童館建設が計画されたため試掘調査を行った。その結果遺構が検出されたため、建物部分を中心に調査することとなった。

調査概要

調査の結果、中世と考えられる土坑・溝址・柱穴址などを検出した。特に調査区西端では、南北方向に直列する建物址群が検出された。また南端では、東西方向にはしる大堀を確認した。

西端建物址群（北方より）

調査全体写真、後方は平尾山（西方より）

検出遺構

中世の土坑	32基	中世の柱穴址	179基
中世の溝状遺構	5条	近世の大型土坑	1基

検出遺構

中世の陶磁器類、角釘	近世の陶磁器類

白岩城跡Ⅰ調査全体図（1：200）

6. 岩村田遺跡群　内西浦遺跡Ⅲ

所　在　地　佐久市大字岩村田字内西浦他
調査委託者　佐久市区画整理課
開発事業名　区画整理事業
調 査 期 間　平成12年９月13日～10月２日
調 査 面 積　526㎡
調査担当者　冨沢一明

内西浦遺跡Ⅲ位置図（１：50,000）

経過と立地

岩村田遺跡群は岩村田市街地北半から仙禄湖東方まで展開する弥生時代から中世にかけての大遺跡である。遺跡群の標高は702～737ｍを測り、南北に走る大小の田切に挟まれた台地上に遺跡が点在する。今回の調査地点は遺跡群の西端にあたり、地形は南西方向に緩やかに傾斜している。過去、遺跡群内で調査された遺跡としては六供後遺跡、柳堂遺跡、菅田遺跡、内西浦遺跡、中宿遺跡等があり、大井城との関連か中世所産の遺構が数多く調査されている。

今回、遺跡群内で佐久市都市計画課により区画整理事業が計画され、当教育委員会で試掘調査を行った。その結果遺構が確認され、保護協議を行い道路部分のみ記録保存を目的とする発掘調査を行うこととなった。

調査概要

調査結果は調査区全体から遺構が確認され、検出遺構は竪穴住居址９軒（弥生時代後期４軒・古墳時代中期～後期４軒・平安時代１軒）、掘立柱建物址１棟、中世竪穴状遺構２棟、井戸址１基、溝状遺構２本、土坑６基、ピット多数である。

調査遺構の内特に注目されるものとしては、弥生後期のＨ１号住居址と古墳中期後半のＨ６号住居址があげられる。まずＨ１号住居址はその規模が大きく9.7×６ｍを測る。佐久平最大の住居址は上直路遺跡の10×７ｍの竪穴住居であるがそれに匹敵する。田切を挟んで近接する遺跡でこの様な特別な規模の住居址が検出されたことは地域色という点も踏まえ今後問題としていかなければいけない課題である。またもう一点は古墳時代中期後半のＨ６号住居址からの一括出土資料である。写真にも示したとおり、これらの土器はその出土状態より住居址が埋没していく過程において住居址北東コーナー付近より投げ込まれたことが予想できる。近年周辺の調査された遺跡からは当該期の住居址から同じ様な土器の一括廃棄、或いは焼失といった遺構が調査されている。

このことは、地域の特徴なのか或いは時代の特徴なのか今後検討していく必要がある。また、今回の調査によって古墳時代中期の集落が認識されていた範囲よりも広がることが判明し、周辺の調査事例も含め検討課題となつた。

H１号住居址全景

調査区南側全景

H６号住居址全景

7. 樋村遺跡Ⅱ

所 在 地 佐久市大字平賀字樋村
調査委託者 佐久建設事務所
開発事業名 道路改良
調 査 期 間 平成12年5月29日～8月24日
調 査 面 積 6,880㎡
調査担当者 上原学

樋村遺跡Ⅱ位置図（1：50,000）

経過と立地

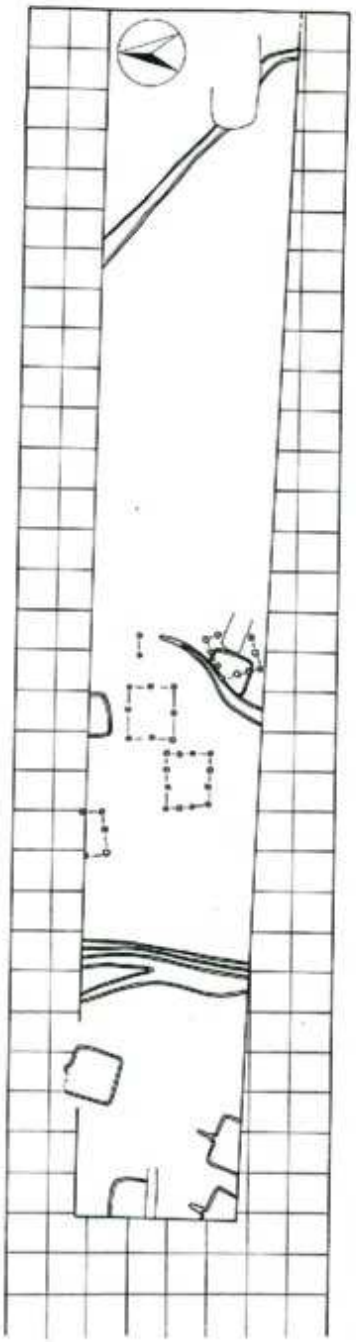
樋村遺跡は千曲川右岸の南東、平賀地籍にあり、広く水田として利用されている地域に展開し、昭和57･58年に行われた土地改良事業に伴う発掘調査では、300軒にも及ぶ住居址が確認されている。また、平成11年度に佐久建設事務所による道路改良工事に先立ち、今回調査区の西側部分が調査され、古墳時代後期の竪穴住居址29軒などが確認されている。本年度は平成11年度道路改良工事に先立つ調査の継続で、東側の残り部分を調査した。

調査概要

調査により、竪穴住居址6軒、掘立柱建物址5棟、溝4条が確認された。竪穴住居址は6軒中5軒が古墳時代後期で4軒が調査区西に位置し、1軒は調査区中央の北に存在していた。残りの一軒はカマドを持たない古墳時代前期の住居址で、調査区中央の南に位置し、掘立柱建物址に切られていた。また調査区西寄りには南北方向に走る3本の溝が認められ、弥生時代から古墳時代の土器が多数出土した。この溝を境に東には掘立柱建物址群が集中し、掘立柱建物址の東方は遺構の存在がほぼ消滅する。よって本調査区の東に展開する掘立柱建物址群は集落の東端に近い地域であると考えられる。

樋村遺跡Ⅱ調査区全景（西から）

樋村遺跡Ⅱ調査風景



樋村遺跡Ⅱ調査全体図
（1：750）

住居址全景（南から）

溝跡全景（南から）

掘立柱建物跡（南から）

8. 久禰添遺跡Ⅲ

所 在 地 佐久市大字太田部字入江
1575－5外31筆

調査委託者 佐久建設事務所

開発事業名 道路改良

調 査 期 間 平成12年5月23日～8月24日

調 査 面 積 1,250㎡

調査担当者 林幸彦　須藤隆司　上原学

久禰添遺跡位置図（1：50,000）

経過と立地

久禰添遺跡は佐久市南端の臼田町境に位置し、千曲川右岸の氾濫源沖積地上に展開する。南には通称「離れ山」と称する独立丘陵が認められる。

遺跡内では平成9年から県道川上佐久線の道路改良事業に伴う発掘調査が行われ、弥生時代から中・近世に至る遺構・遺物が調査されている。今回は、この道路改良事業に先立ち行われた調査の継続で、遺構が確認された臼田町境から北側約350m、幅5mの調査を行った。標高は688m内外を測る。

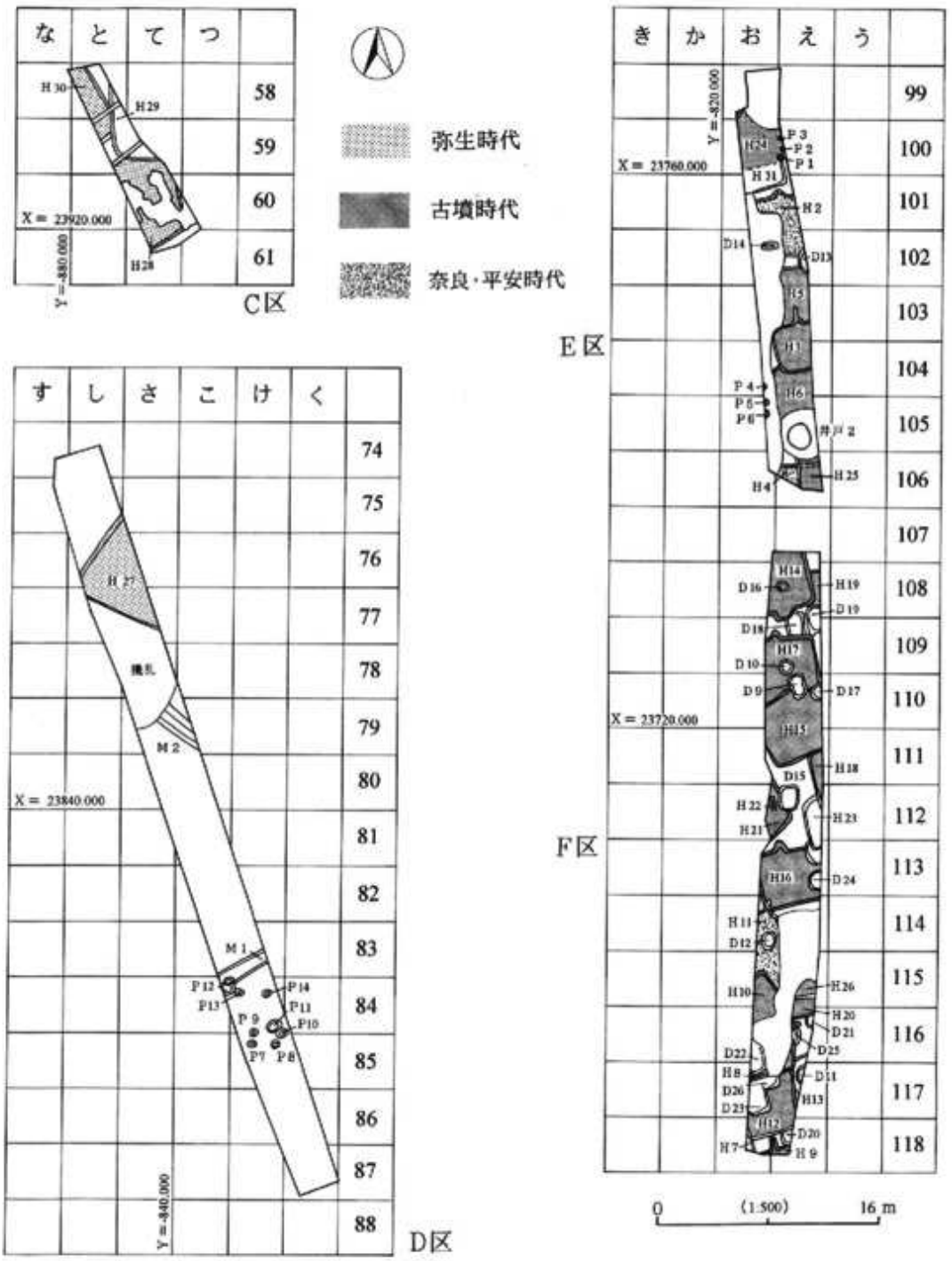
調査概要

調査によって、弥生時代の住居跡3軒、古墳時代の住居址19軒、奈良・平安時代の住居址3軒、不明5軒の計30軒及び土坑16基、溝跡2条、近世または近代の井戸跡が確認された。遺構は、調査区南の離れ山北裾付近に集中し、北方向ではまばらであった。検出された遺構は調査区の幅が5mと狭く、重複も激しいこと

井戸跡全景（西から）

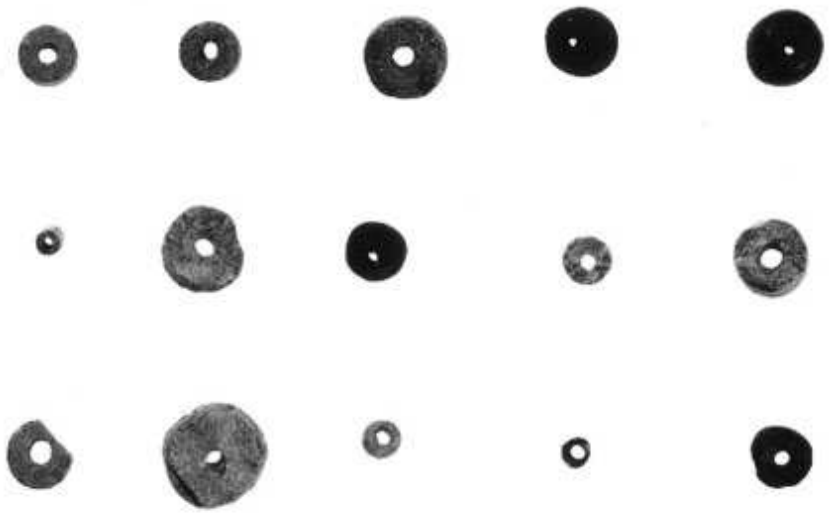
から部分的な調査にとどまる遺構が大半を占めた。

遺物は弥生式土器、土師器、須恵器、土製品、石製品、石器、陶磁器などが出土した。



久禰添遺跡調査全体図（1：500）

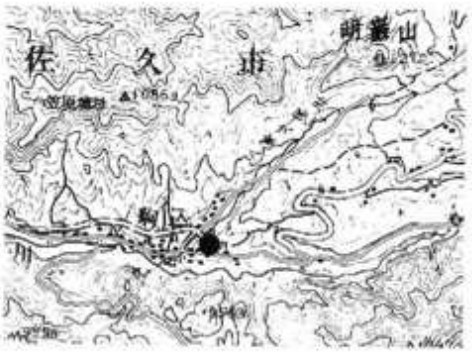
久襧添遺跡航空写真（南から）



久襧添遺跡出土玉類

9. 天神小根

所 在 地 佐久市大字志賀字天神小根666－1他
調査委託者 佐久建設事務所
開発事業名 緊急地方道路整備事業
調 査 期 間 平成12年9月13日～同年12月14日
調 査 面 積 636㎡
調査担当者 須藤隆司



天神小根遺跡位置図（1：50,000）

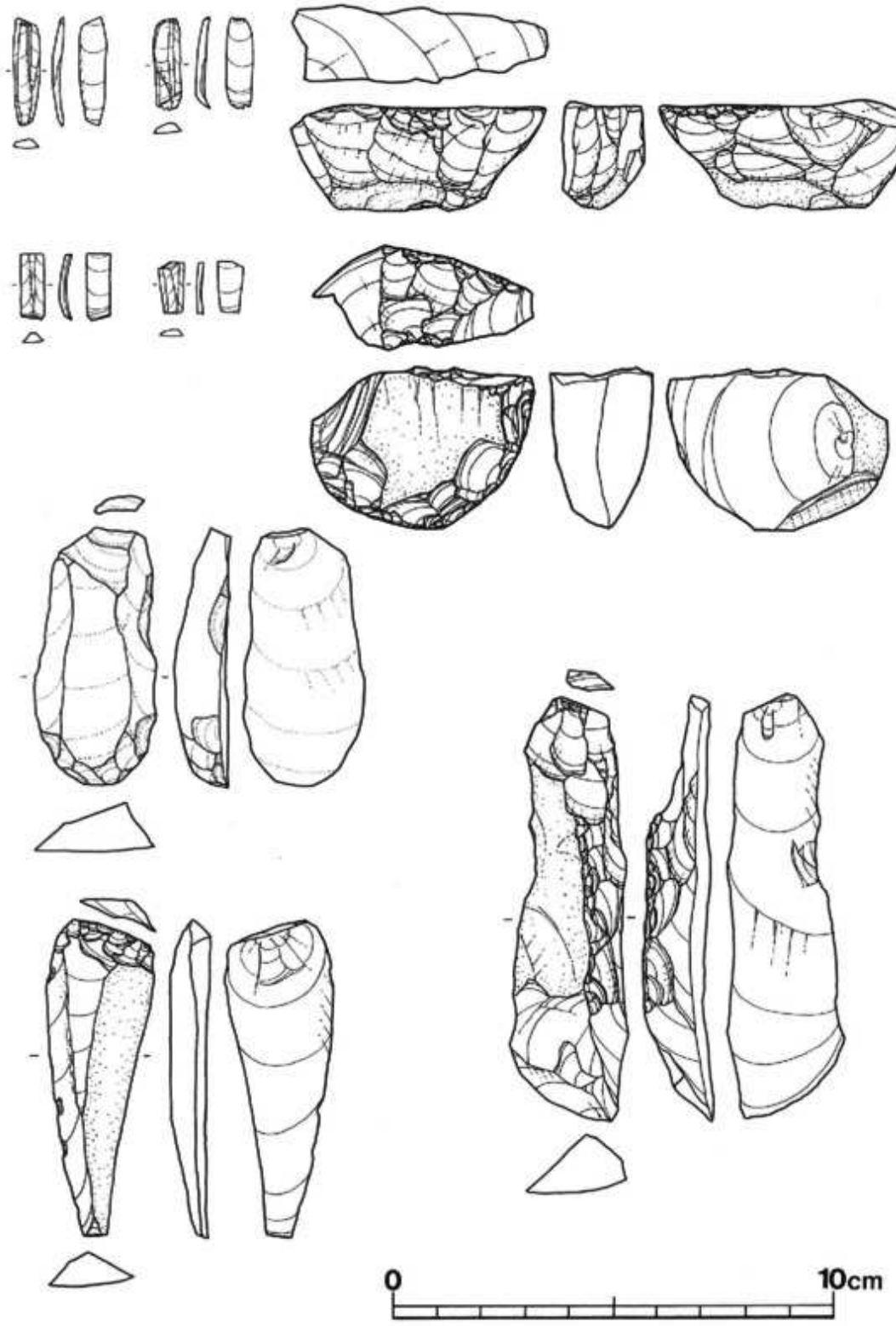
経過と立地

天神小根遺跡は佐久市東部山地の志賀川と八重久保川合流部に位置し、志賀川に面した標高847m前後の山麓段丘面に立地する。本遺跡は未周知の遺跡であったが、佐久建設事務所による緊急地方道路整備事業（駒込バイパス）に伴い試掘調査を実施した結果、新たに発見された旧石器時代の遺跡である。

調査概要

約1,000点の石器群が2カ所のブロックとして発見された。石器群の内容は細石刃石器群である。明確な細石刃核は検出されなかったが、ホロカ技法を示唆する資料がある。細石刃は搬入品が多く、遺跡での主要な石器製作作業は石刃剥離作業である。石材は在地の珪質頁岩を主体とする。出土層位はソフトローム層であり、浅間ー大窪沢第2軽石上位・浅間ー板鼻黄色軽石下位に位置する。

天神小根遺跡調査状況（東から）



天神小根遺跡の細石刃石器群（S＝2／3）

10. 深堀Ⅴ

所 在 地 佐久市大字瀬戸
調査委託者 佐久地方事務所
開発事業名 農村活性化住環境整備事業
調 査 期 間 平成12年5月29日～平成13年3月30日
調 査 面 積 2,600㎡
調査担当者 小林眞寿

深堀遺跡Ⅴ位置図（1：50,000）

経過と立地

深堀遺跡群は佐久市大字瀬戸に所在し、東方は志賀川、西方は田切り地形に挟まれる標高670～690mを測る台地上に展開する。台地の南側には狐塚古墳群、東端部には八反田城跡が所在し、南に隣接した河岸段丘上には東千石平遺跡群が存在する。

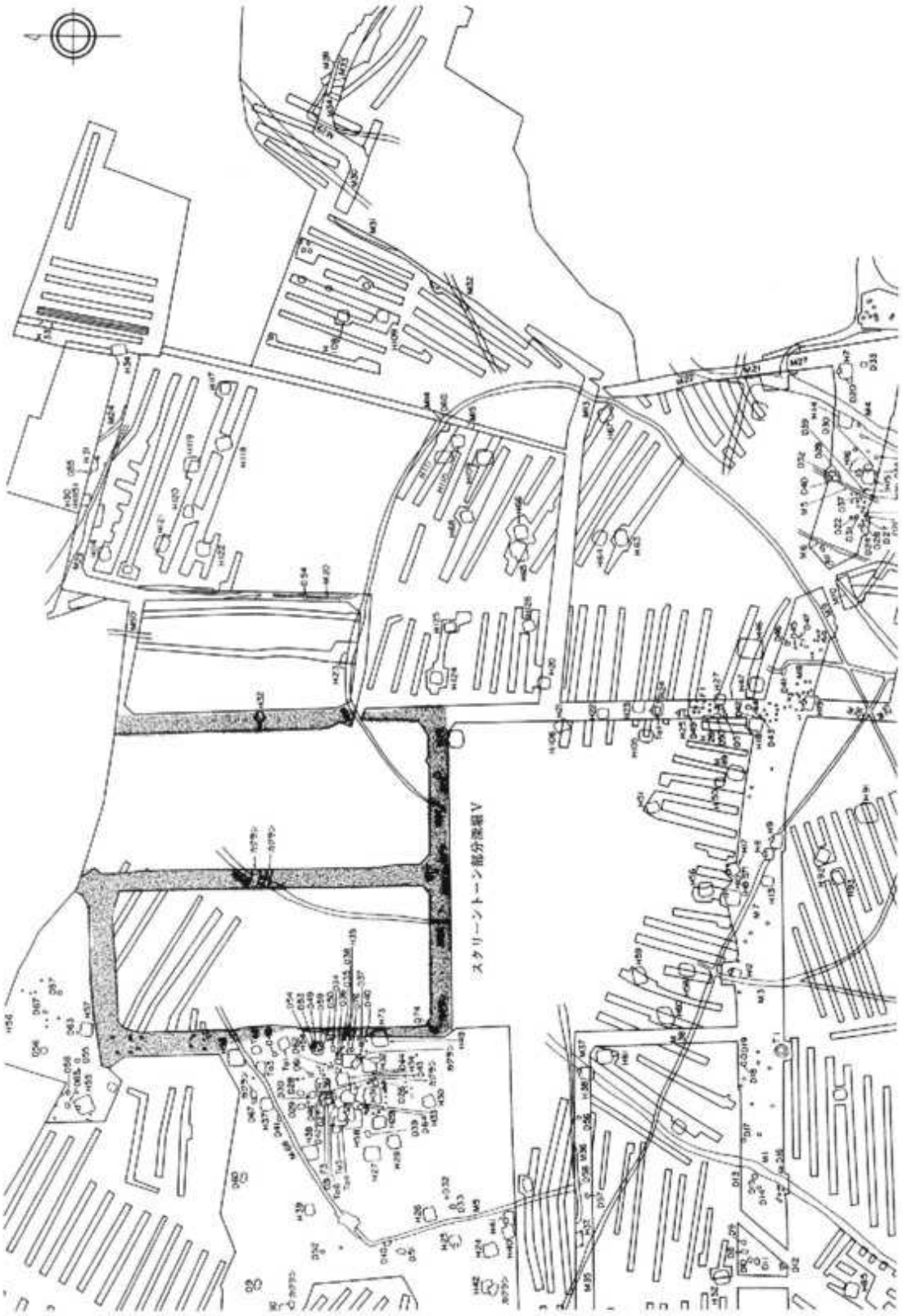
当遺跡群内では、昭和40年度にR141号バイパス工事に伴う深堀遺跡の発掘が行われ、弥生時代中期の竪穴住居址2軒が調査されている。また、今回の調査に先立つ試掘調査が平成9・10年度に実施された。この試掘調査の結果をふまえ、平成10年度に集落道1号と2号の一部分、平成11年度にその他の道路部分、平成12年度に住宅地計画区域の道路部分の調査を実施した。

調査概要

道路部分に限定された調査あったため、検出された遺構・遺物は少なかった。未調査部分には深堀Ⅳで調査された集落の続きが残されており、宅地化に際しての破壊には注意が必要である。

調査した遺構・遺物の概要は以下のとおりである。

遺構		遺物	
竪穴住居址	2軒（平安時代）	土器	縄文土器
土坑	7基		弥生土器
溝址	4条		土師器（墨書有り）
Pit	41基		須恵器
			灰釉陶器
			石器
			鉄器



深堀V全体図（1：2,000）

東千石平出土帯金具

東千石平出土緑釉陶器

深堀Ⅱ　H33号住居址出土
「蛙」線刻画

深堀Ⅰ　H11号住居址出土
「三累環頭太刀柄頭」

11. 深堀遺跡群　深堀遺跡Ⅳ

所在地　佐久市大字瀬戸1398－1　外55筆

調査委託者　佐久市土地開発公社

開発事業名　瀬戸原住宅団地造成事業

調査期間　平成12年3月27日～8月7日

調査面積　47,184㎡

調査担当者　出澤力　佐々木宗昭

深堀遺跡Ⅳ　位置図（1：50,000）

立地と経過

深堀遺跡群は佐久市大字瀬戸に所在し、東から南を志賀川、西を田切りの谷によって挟まれた台地上に展開し、複数の遺跡によって構成されている。標高は660～690m内外を測る。

本遺跡群内では、平成9・10年度に試掘調査、同10年に深堀Ⅰ・Ⅱ、平成12年度には深堀Ⅲの発掘調査が行われている。12年度の深堀Ⅲでは台地上の集落址の外に狐塚古墳群350－4・5号墳、そして台地南東端に位置する八反田城の外堀の調査なども行われた。

今回佐久市土地開発公社により瀬戸原住宅団地造成事業が計画されたため、遺跡の記録保存を目的として発掘調査が行われることとなった。

調査概要

調査の結果、以下の遺構が確認された。

竪穴住居址	59軒
古墳時代住居址	12軒
平安時代住居址	47軒
土　　坑	68基
竪穴状遺構	7基
落とし穴	5基
溝状遺構	7条
鍛冶址	4基
ピット	198基

深堀遺跡Ⅳ　全景（西方から）

平安時代の竪穴住居址は調査区東側の微高地上になった部分を中心に分布し、調査区北西側では炉を有する古墳時代前期のものと思われる竪穴住居址群を確認した。また調査区を縦断する古い河川の跡が認められ、その周辺に縄文時代の物と思われる落とし穴が点在する。旧河川の西側では集中して鍛冶址が確認され、その中の1基は小鍛冶の前段階である精錬に用いられた鍛冶址の可能性がある。また、調査区東側の最も住居址の密集する部分に存在するH58号住居址の住居内からも鍛冶址を1基確認している。

出土遺物は古墳時代前期の壷・甕・鉢・高坏、平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品、鉄製品など。平安時代の住居址から出土した遺物は土師器の坏が最も多量で、須恵器のそれの出土量を大きく上回り、調整などから見ると9世紀後葉以降のものが多い。また墨書土器も多く確認され、鉄製品の出土量も豊富である。鍛冶址からは大量の鉄滓や羽口などが検出されている。鍛冶址からは外に須恵器の高台付坏が出土しており、9世紀前葉頃のものと思われる。

深堀遺跡Ⅳ　1号鍛冶址

深堀遺跡Ⅳ　H３号住居址

深堀遺跡Ⅳ　H52号住居址出土墨書土器（「志」）

前田遺跡Ⅳ
調査報告書

12. 前田遺跡Ⅳ

所 在 地 佐久市大字小田井字前田
3281－1外2筆

調査委託者 佐久市高速交通課

開発事業名 道路改良

調 査 期 間 平成12年11月28～12月15日（現場）

調 査 面 積 863㎡

調査担当者 冨沢一明　上原学

前田遺跡Ⅳ位置図（1：50,000）

例言・凡例

1．本書は平成12年度に調査を行った長野県佐久市大字小田井に所在する前田遺跡Ⅳの発掘調査報告書である。

2．作成・執筆は上原が行った。

3．本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

4．遺跡の略称（01MⅣ）

5．遺構の略称　竪穴住居址－H　　土坑－D　　溝跡－M　　ピット－P

6．スクリーントーンの表示は以下のとおりである。

遺　構

地山断面　焼　土　床　下

遺　物

須恵器断面　黒色処理

7．挿図の縮尺　遺構　住居址・土坑・溝跡－1／80　カマド－1：40　　遺物　土器－1／4

8．調査グリッドは公共座標に基づき4×4mに設定。

9．写真図版中の番号と同一遺構の実測図番号は一致する。

10．遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。

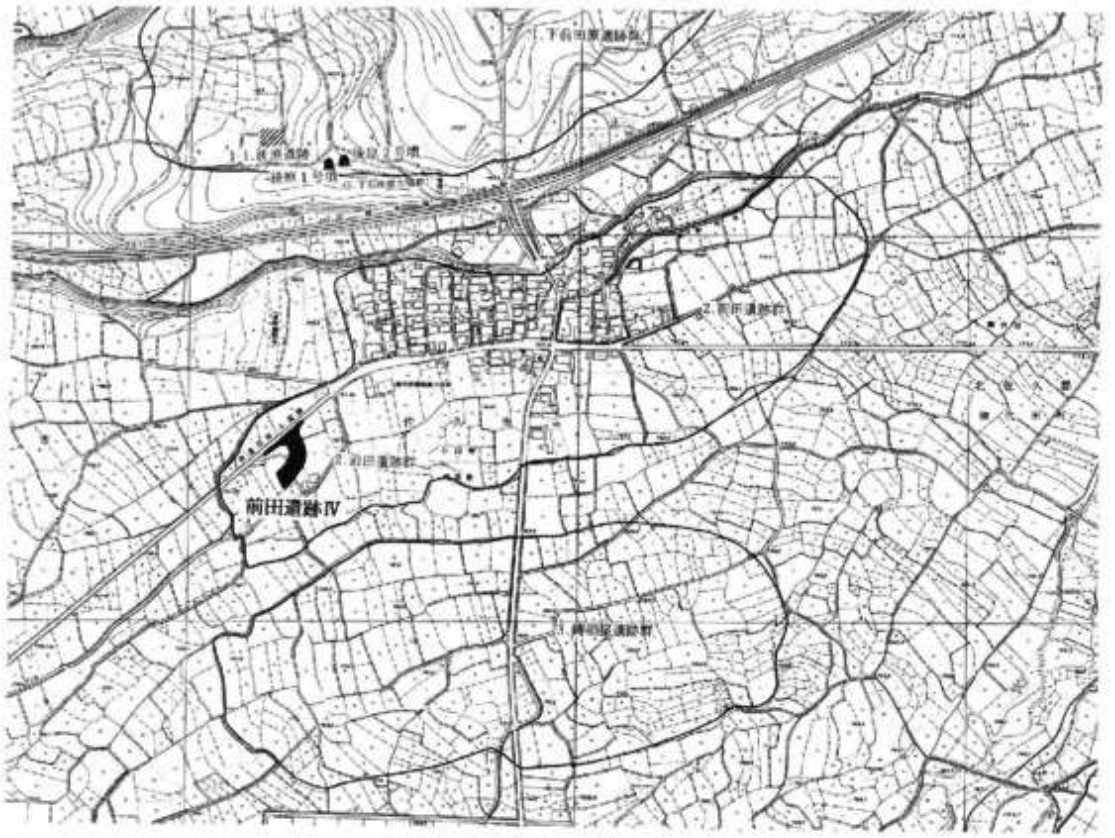
11．土説・土器色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1987年度版『新版標準土色帖』の表示に基づいた。

立地と経過

前田遺跡群は佐久市北端の小田井地籍に展開し、小諸市、御代田町に接している。標高は760～770mを測る。付近一帯は北方の浅間山（黒斑山・前掛山・中央釜山からなる三重式成層火山）の山麓末端部の平坦な台地で、この表面に堆積した軽石流は雨水による浸食に弱く、長い年月の間に深く削り取られ、浅間の麓から放射状に幾筋にも浸食谷（田切り地形）を形成し、切り立った断崖により台地を分断している。この分断された台地上はいずれも遺跡の密集地帯として知られており、これまでに多くの発掘調査が行われている。

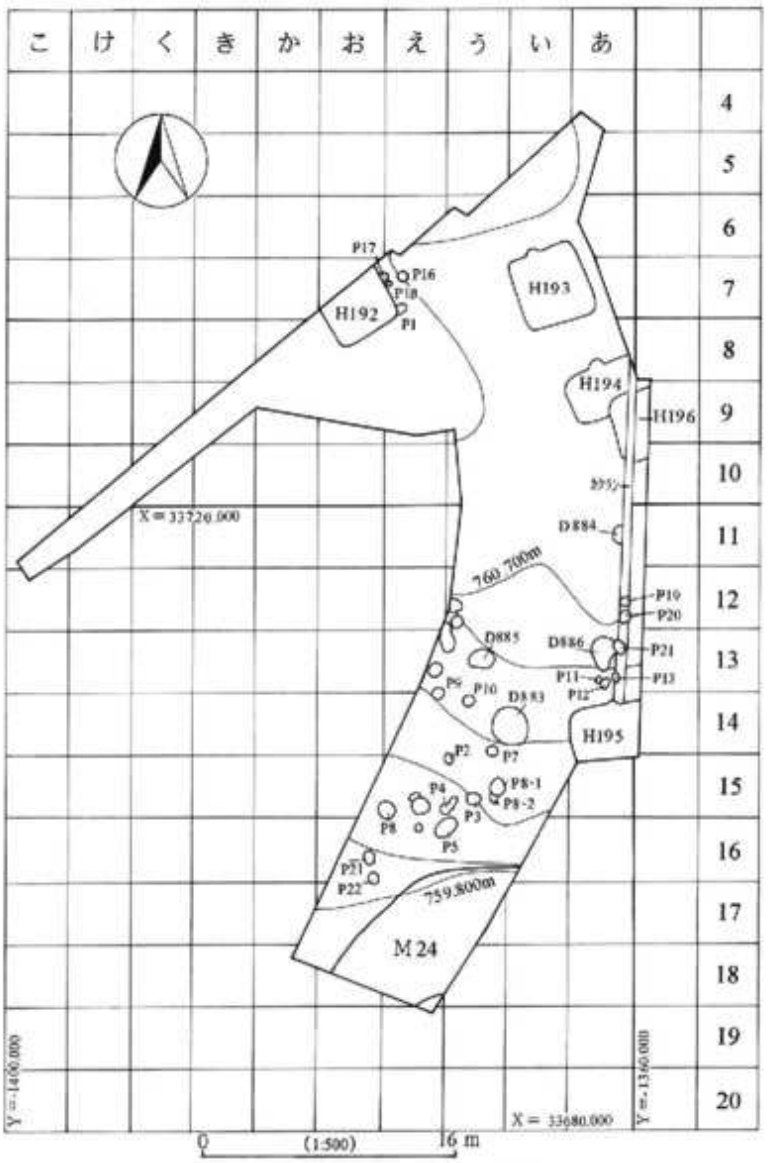
前田遺跡周辺では昭和60～62年にかけて周辺の圃場整備事業に先立つ前田遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ次、前田遺跡南の鋳師屋遺跡Ⅰ・Ⅱ合わせて48,000㎡の発掘調査が行われ、古墳時代から中近世の遺構（住居址191軒、掘立柱建物址196棟、井戸跡21基、土坑882基、墓壙９基、竪穴状遺構40基、溝状遺構36条）が確認されている。

今回、佐久市による前田遺跡群西端を南北に通過する上信越道東の側道改良工事が行われることとなり、協議の結果、佐久市教育委員会が遺構の記録保存を目的として開発地域の発掘調査を行う運びとなった。



前田遺跡Ⅳ位置図（１：10,000）

調査概要



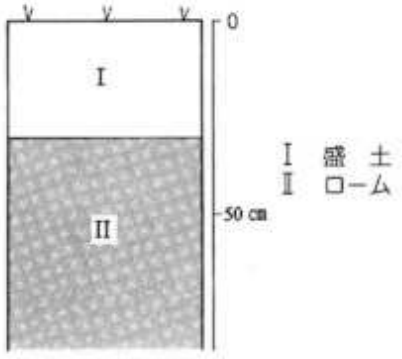
前田遺跡Ⅳ遺構配置図（1：500）

遺跡内は周辺の圃場整備の際に行われたものか既に旧地表面及び遺構確認面となるローム土上層が削り取られており、遺構は掘り込みの深いもののみかろうじて確認できた。検出された遺構は竪穴住居址5軒（古墳時代1軒、奈良・平安時代3軒、不明1軒）、土坑4基、溝跡1条、ピットである。住居址は全体像を把握できるものはなく、すべて部分的調査または掘削により破壊された住居址の掘方調査といった状況であった。

遺物は遺構内から土師器（坏・甕）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・甕・壺）が出土した。

基本層序

調査区は、旧地表面及び遺構確認面となるローム土上面は既に削り取られ、その上は盛土され畑として利用されていた。よって基本層序は上から盛り土、厚く堆積したローム層である。遺構は掘り込みの深い遺構のみかろうじてローム上面にて検出可能であった。

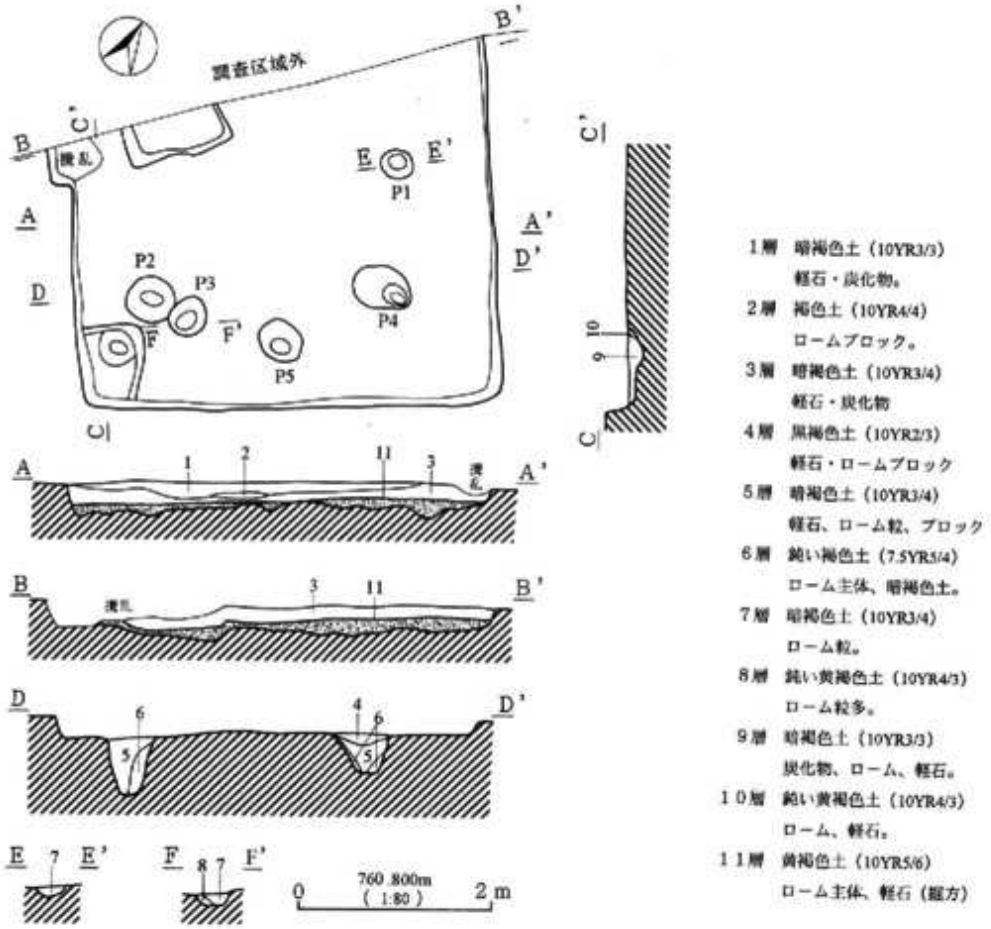


基本層序模式図

遺構と遺物

第１節　竪穴住居址

H192号住居址



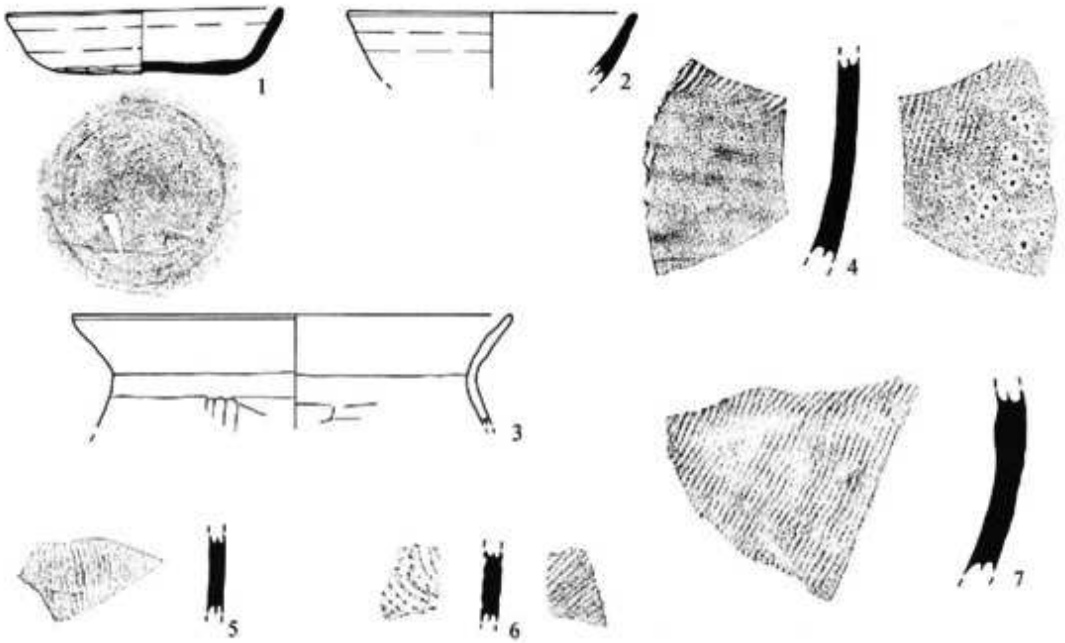
1層　暗褐色土（10YR3/3）
　　軽石・炭化物。
2層　褐色土（10YR4/4）
　　ロームブロック。
3層　暗褐色土（10YR3/4）
　　軽石・炭化物
4層　黒褐色土（10YR2/3）
　　軽石・ロームブロック
5層　暗褐色土（10YR3/4）
　　軽石、ローム粒、ブロック
6層　鈍い褐色土（7.5YR5/4）
　　ローム主体、暗褐色土。
7層　暗褐色土（10YR3/4）
　　ローム粒。
8層　鈍い黄褐色土（10YR4/3）
　　ローム粒多。
9層　暗褐色土（10YR3/3）
　　炭化物、ローム、軽石。
10層　鈍い黄褐色土（10YR4/3）
　　ローム、軽石。
11層　黄褐色土（10YR5/6）
　　ローム主体、軽石（掘方）

H192号住居址遺物実測図

遺構はお－７グリッドに位置し、北側３分の１は調査区外となる。規模は確認できた最大で南北3.8m、東西4.4m、床面までの深さは25cm を測る。平面形は方形と考えられる。床面は中央付近は固く締まり、壁際はやや柔らかい。ピットは床面上で５個、掘方で１個認められ、Ｐ２、４が４本柱中南側２本の主柱穴である。掘方は３～10cm の厚みで凹凸があり、ローム主体の黄褐色土が埋め込まれ上面を床面として利用していた。

遺物は須恵器の坏・甕、土師器の甕が出土したが、１の床面直上で出土した須恵器坏の他は小破片である。１は須恵器の坏でほぼ平らに回転ヘラ削りされた広い底部からやや外傾し立ち上が

り口縁部に至る。2は須恵器坏の口縁破片である。3は土師器甕の口縁から頸部にかけての破片である。4～7は須恵器甕の体部破片と思われ外面平行叩き、内面4は一部に当て具痕、5・7はナデ、6は同心円の当て具痕を施す。本遺跡は8世紀第二四半期、奈良時代と考えられる。



H192号住居址遺物実測図

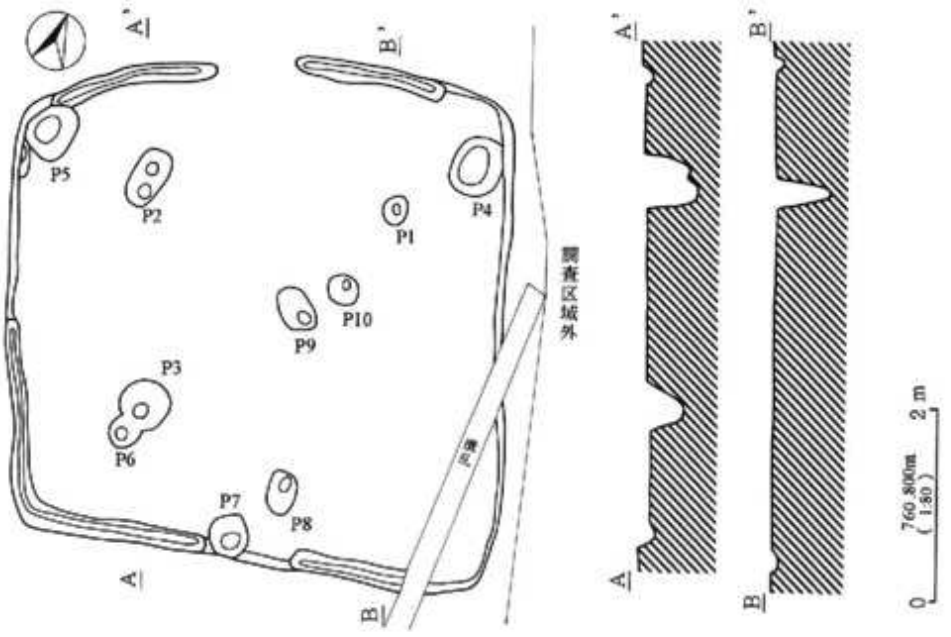
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調（外面）（内面）
1	須恵器	坏	14.2	8.9	3.1	ロクロ横ナデ　底部回転ヘラ削り	85	良好	灰　色 灰　色
2	須恵器	坏	[14.9]	—	—	ロクロ横ナデ	口縁破片	良好	明灰色 明灰色
3	土師器	甕	[22.7]	—	—	口辺横ナデ　外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	口縁破片	良	橙　色 橙　色
4	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き　内面ロクロナデ　一部叩き　外面自然釉	体部破片	良好	灰　色 灰　色
5	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き	体部破片	良好	暗灰色 灰　色
6	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き　内面同心円叩き　細棒状工具によるナデ	体部破片	良好	灰　色 灰白色
7	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き　内面ヘラナデ	体部破片	良好	灰白色 灰白色

H192号住居址遺物観察表

H193号住居址

遺構はい－7グリッドに位置し、遺構の大半は削り取られ掘方のみの調査となった。規模は東西5.04m、南北5.28mを測り平面径はやや隅丸の方形である。北・南・西壁際には一部周溝と考えられる掘り込みが確認できた。ピットは10個あり、P1～3が主柱穴である。住居址南東存在すると思われる主柱穴は確認できなかった。掘方にはローム主体の黄褐色土が埋め込まれていた。

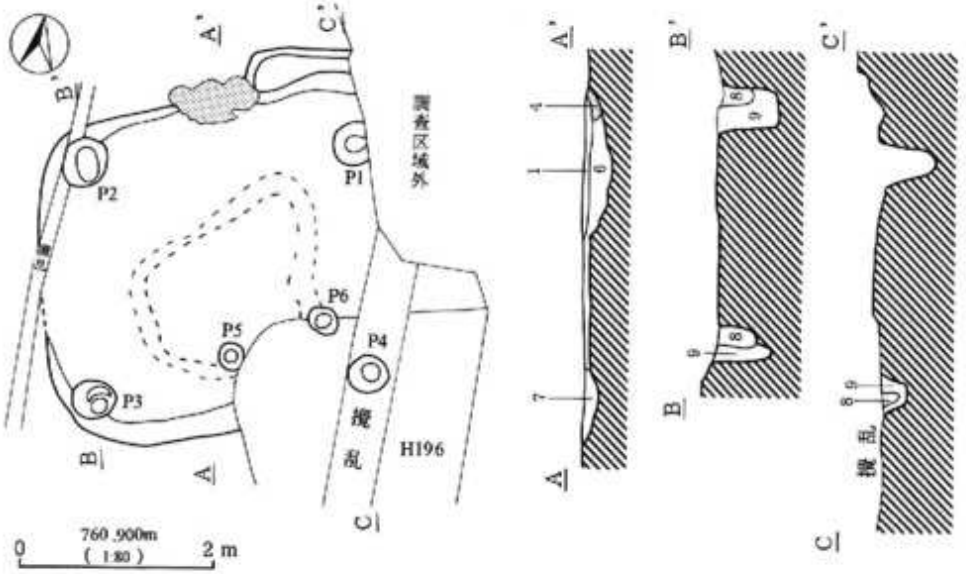
遺物は出土しなかった。時期は不明である。



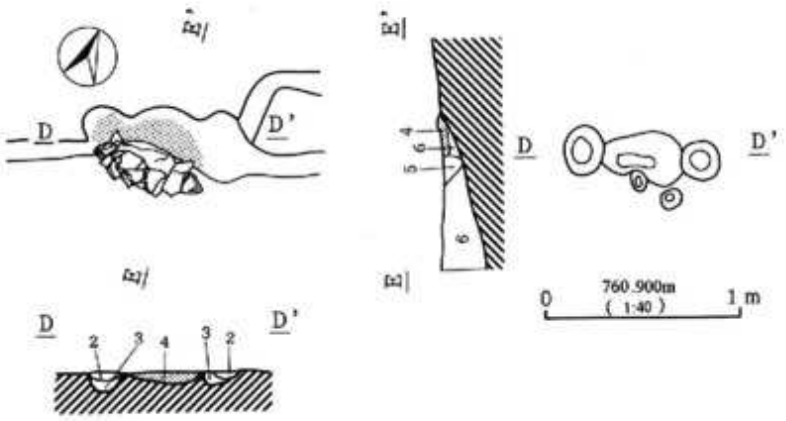
H193号住居址実測図

H194号住居址

遺構はあー9グリッドに位置し、南東コーナーはH196に切られ東端は調査区外となる。遺構の上部は削り取られ、床面の大半は既に露出していた。規模は南北3.4m、東西は確認規模で3.24mを測り、平面形は隅丸の方形と考えられる。床面は全体に固く締まり、ピットは6個確認できた。主柱穴はコーナーに掘り込まれたP1～4である。カマドは北壁の中央付近に構築されているが

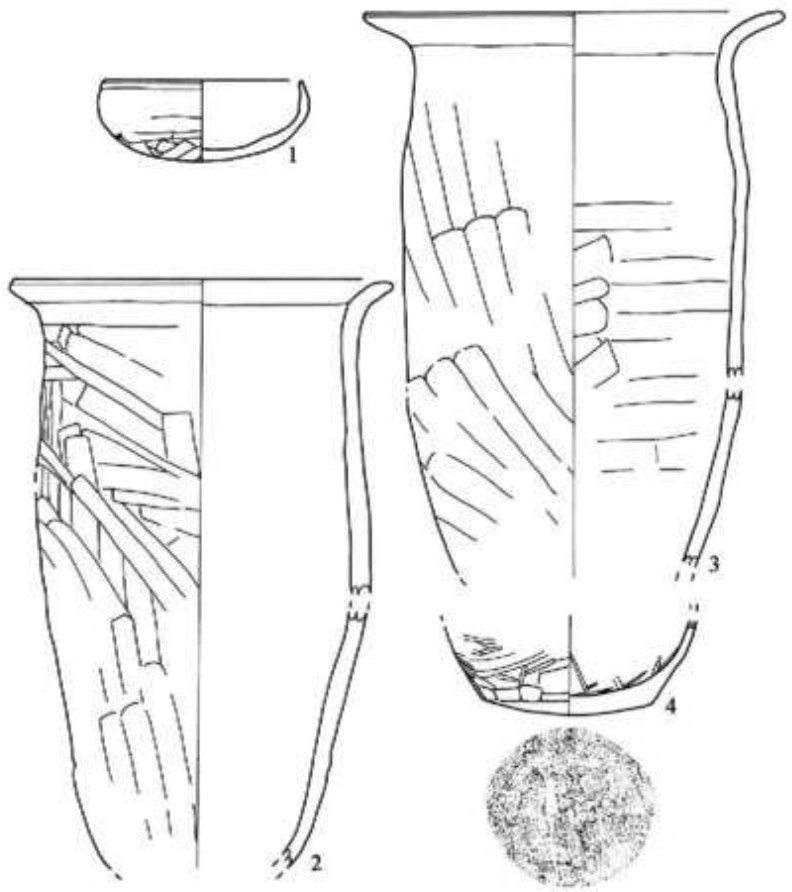


H194号住居址実測図



1層　暗褐色土（10YR3/4）炭化物、軽石。　6層　褐色土（10YR4/4）ローム主体。軽石、暗褐色土。
2層　暗褐色土（10YR3/3）砂、焼土。　7層　暗褐色土（10YR3/4）ローム主体。黒褐色土。
3層　褐色土（10YR4/4」）軽石小、暗褐色土。8層　暗褐色土（10YR3/4）ローム多。しまりなし。
4層　明赤褐色土（2.5YR5/8）焼土層（火床）　9層　褐色土（10YR4/4）ローム主体。
5層　黒褐色土（10YR3/2）焼土。

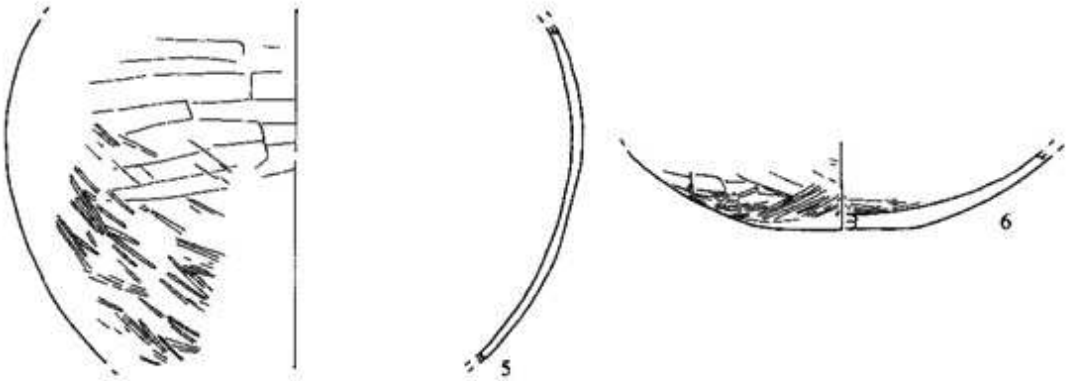
H194号住居址カマド実測図



H194号住居址遺物実測図（1）

破壊が激しく、火床に堆積した焼土及び焚き口部の天井に使用したと考えられる土師器甕が残存する程度であった。掘方は中央付近は高くドーナツ状に掘り込まれ、ローム主体の褐色土、暗褐色土が埋め込まれ上面を床面として利用していた。

遺物は土師器の坏·甕·鉢が出土した。図示したのは6点である。1は丸底の土師器坏である。2、3は土師器の長胴甕でカマド焚き口の天井材に転用されたと考えられる土器である。小型甕は底部から体部にかけての破損品で外面·底部ヘラ削り、内面ヘラナデを施す。5、6は胴丸の甕で同一個体と考えられる。5は胴部破片、6は底部から胴下半部の破片で、外面はヘラナデ後ナデを施し光沢がある。内面はともにナデを施し、その後5は磨き状の調整を施す。本住居址は6世紀中葉～7世紀初頭、古墳時代後期と考えられる。



H194号住居址遺物実測図（2）

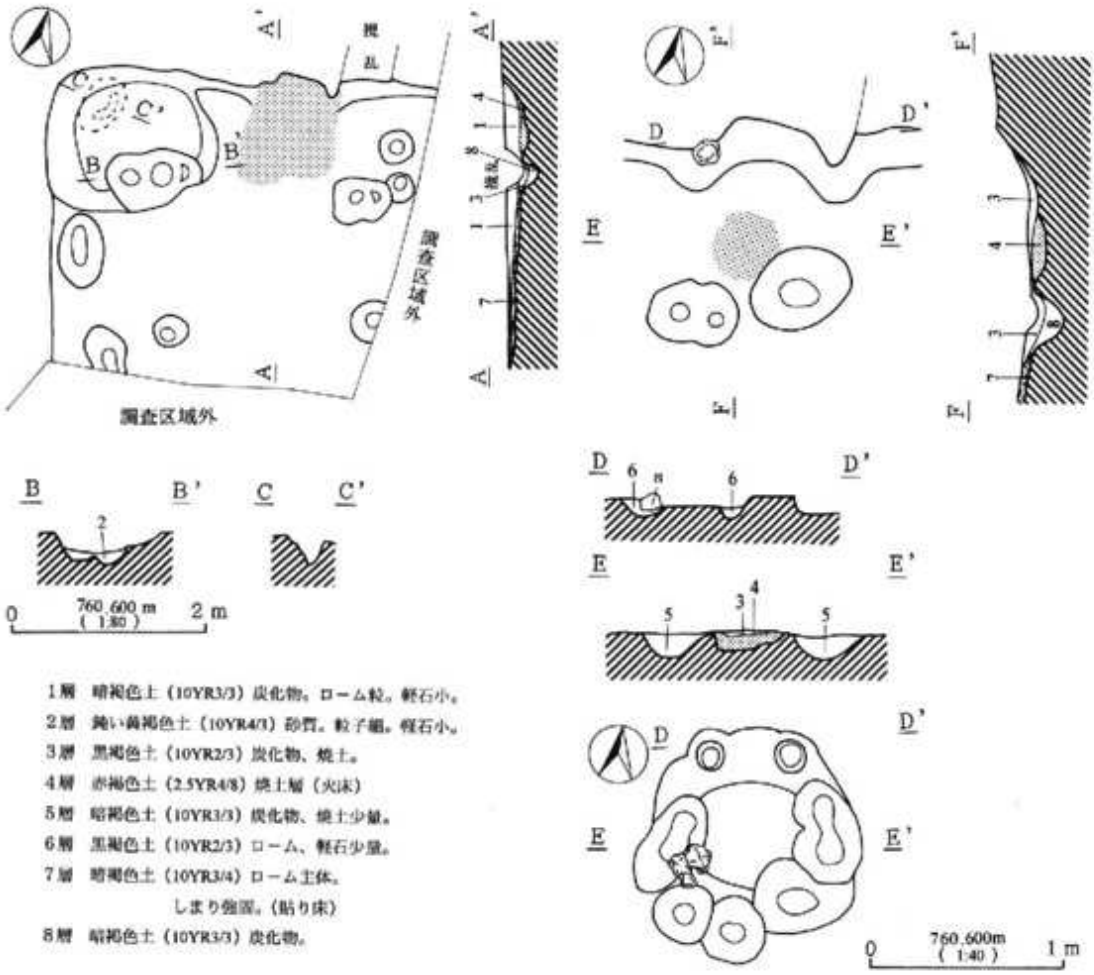
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調（外面）（内面）
1	土師器	坏	10.2	丸底	4	口辺横ナデ 外面ヘラ削り 内面みこみ部ヘラナデ 他横ナデ	50	良好	鈍い橙色 鈍い橙色
2	土師器	甕	19.8	—	—	口辺横ナデ 外面縦ヘラ削り 内面横ヘラナデ	30	良	鈍い赤褐色 暗赤褐色
3	土師器	甕	21.6	—	—	口辺横ナデ 外面縦ヘラ削り 内面横ヘラナデ	35	良	鈍い赤褐色 暗赤褐色
4	土師器	甕	—	—	—	底部・胴部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	底部～胴部破片	良好	浅黄橙色 浅黄橙色
5	土師器	甕	—	—	—	外面ヘラ削り後篦ミガキ 内面ヘラナデ後篦ミガキ 6と同一個体	胴部破片	良好	浅黄橙色 浅黄橙色
6	土師器	甕	—	8.6	—	外面ヘラ削り後篦ミガキ 内面ヘラナデ後篦ミガキ 5と同一個体	底部～胴部破片	良好	浅黄橙色 浅黄橙色

H194号住居址遺物観察表

H195号住居址

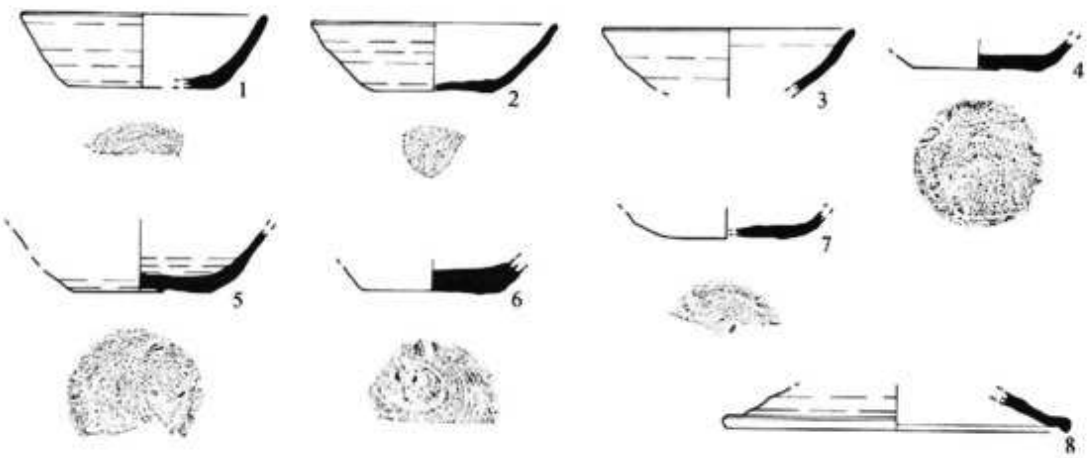
遺構はあ－14グリッドに位置し、東・南は調査区外となる。遺構の上部は削り取られ南側の一部は既に床面が露出していた。規模は確認規模で東西3.88m、南北3.28m、床面までの深さは北壁の最深部で15cmを測る。平面形はやや隅丸の方形と考えられる。確認できた範囲の床面はほぼ平坦で固く、ピットは床面上で7個、掘方で4個確認できた。P1、2が北側2本の主柱穴である。南側2本は確認できなかった。北西コーナーに径160cm、深さ16cmの土坑が掘り込まれている。周溝は存在しない。カマドは北壁中央付近に構築されているが破壊が激しく、僅かな袖の痕跡とほぼ円形に焼土が堆積した火床のみ確認できた。掘方はなく貼り床と思われる厚さ3cm内外の非常に固く締まった暗褐色土が存在した。

遺物は須恵器の坏・甕・蓋、土師器の甕が出土したが、すべて破損品で小破片が大半を占める。図示したのは13点である。1～7は須恵器坏でロクロ横ナデされ、底部は回転糸切りである。8は須恵器蓋の破片である。9～13は土師器甕の口縁付近の破片である。本住居址は8世第Ⅳ四半期～9世紀初頭、奈良末～平安時代初頭と考えられる。

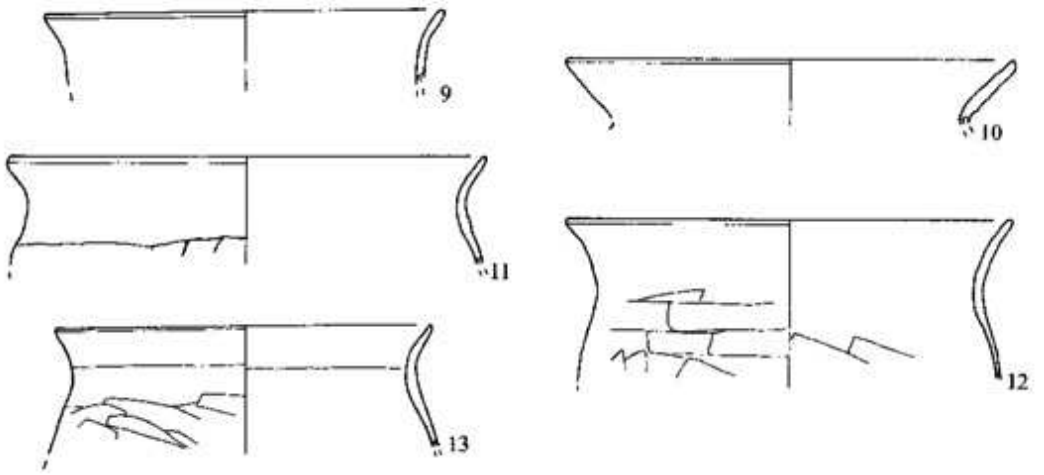


1層　暗褐色土（10YR3/3）炭化物。ローム粒。軽石小。
2層　鈍い黄褐色土（10YR4/3）砂質。粒子細。軽石小。
3層　黒褐色土（10YR2/3）炭化物、焼土。
4層　赤褐色土（2.5YR4/8）焼土層（火床）
5層　暗褐色土（10YR3/3）炭化物、焼土少量。
6層　黒褐色土（10YR2/3）ローム、軽石少量。
7層　暗褐色土（10YR3/4）ローム主体。
しまり強固。（貼り床）
8層　暗褐色土（10YR3/3）炭化物。

H195号住居址測図



H195号住居址遺物実測図（1）



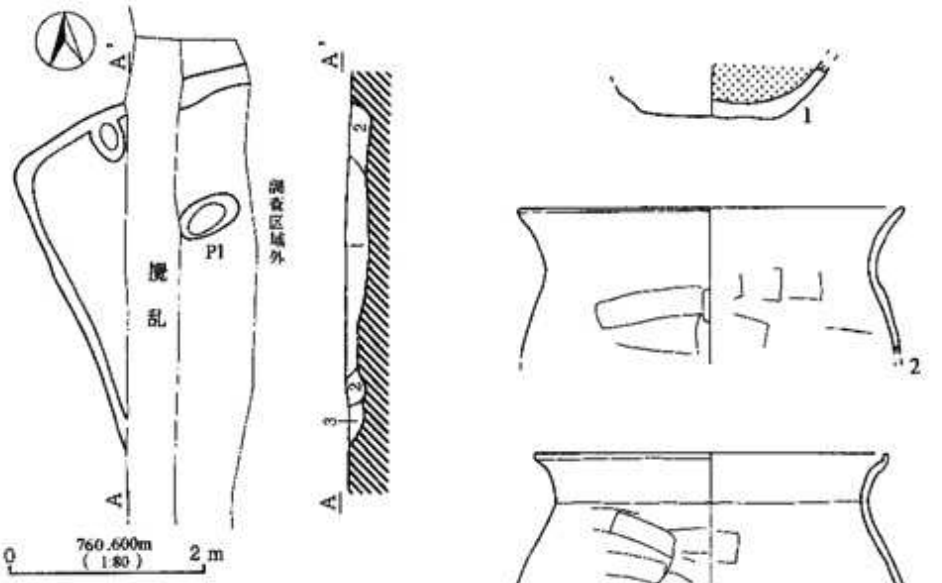
H195号住居址遺物実測図（2）

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調（外面）（内面）
1	須恵器	坏	[12.7]	[7.5]	3.8	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り未調整　火だすき	底部～口縁破片	良好	灰黄褐色 暗灰黄色
2	須恵器	坏	[12.7]	[6.0]	3.5	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り未調整　火だすき	底部～口縁破片	良好	灰赤色 灰赤色
3	須恵器	坏	—	—	—	ロクロ横ナデ	口縁～体部破片	良好	黄灰色 黄灰色
4	須恵器	坏	—	6.5	—	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り未調整	底部～体部破片	良好	灰色 暗オリーブ灰色
5	須恵器	坏	—	7.1	—	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り未調整	底部～体部破片	良好	灰色 鈍い褐色
6	須恵器	坏	—	[7.2]	—	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り未調整　火だすき	底部破片	良好	灰色 灰色
7	須恵器	坏	—	[6]	—	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り未調整　火だすき	底部～体部破片	良好	黄灰色 黄灰色
8	須恵器	蓋	18	—	—	ロクロ横ナデ	返り部破片	良好	灰色 灰色
9	土師器	甕	[20.5]	—	—	口辺横ナデ	口縁破片	良	鈍い赤褐色 赤褐色
10	土師器	甕	[23.3]	—	—	口辺横ナデ	口縁破片	良	橙色 明赤褐色
11	土師器	甕	[24.5]	—	—	口辺横ナデ　外面ヘラ削り	口縁～頸部破片	良	灰赤色 鈍い橙色
12	土師器	甕	[23.2]	—	—	口辺横ナデ　外面横ヘラ削り　内面斜めヘラナデ	口縁～胴部破片	良	淡赤橙色 鈍い橙色
13	土師器	甕	[19.3]	—	—	口辺横ナデ　外面横ヘラ削り　内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	良	橙色 橙色

H195号住居址遺物観察表

H196号住居址

遺構はあー9グリッドに位置する。H194の南東隅を切り、東側3分の2近くは調査区外となる。床面は既に削り取られ掘方の調査となった。規模は確認規模で南北3.2m、東西2.44mを測り、ピットは2個確認できた。P1は主柱穴の1本と思われる。カマドは確認できなかった。掘方には暗褐色土及びローム主体の鈍い黄褐色土等が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏・甕が出土した。図示したのは3点である。1は坏と思われ内面黒色処理を施す。2、3は土師器甕で口縁から頸部付近の破片である。8世紀後葉～9世紀初頭、奈良～平安時代初頭と考えられる。



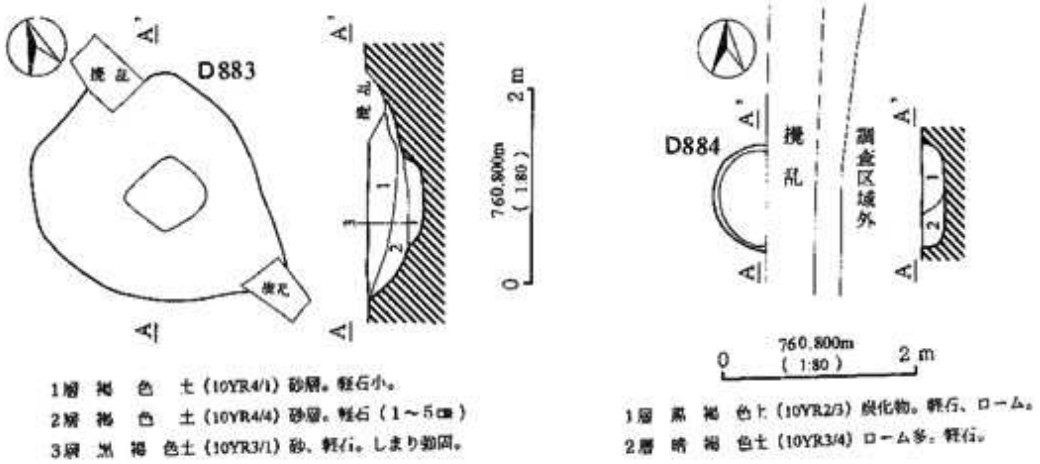
1層 暗 褐 色土 (10YR3/3) 軽石、ローム、砂。
2層 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) ローム多。軽石。
3層 褐 色 土 (10YR4/4) ローム多。軽石。

H196号住居址・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調 (外面) (内面)
1	土師器	坏	—	7.2	—	底部へラ削り 内面黒色処理	底部～体部破片	良	明赤褐色 黒色
2	土師器	甕	[20]	—	—	口辺横ナデ 外面横へラ削り 内面横へラナデ	口縁～胴部破片	良	明赤褐色 赤褐色
3	土師器	甕	[18.4]	—	—	口辺横ナデ 外面横へラ削り 内面横へラナデ	口縁～胴部破片	良	明赤褐色 赤褐色

H196号住居址遺物観察表

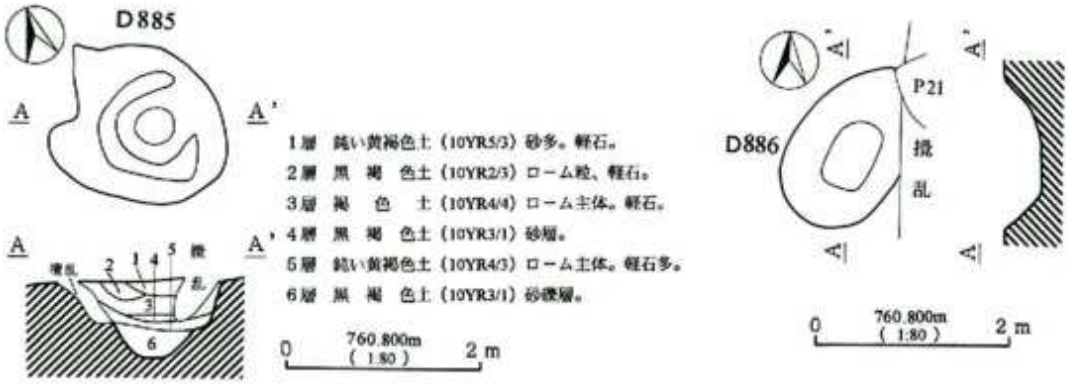
第2節 土坑



1層 褐 色 土 (10YR4/1) 砂層。軽石小。
2層 褐 色 土 (10YR4/4) 砂層。軽石 (1～5cm)
3層 黒 褐 色土 (10YR3/1) 砂、軽石。しまり弱い。

1層 黒 褐 色土 (10YR2/3) 炭化物。軽石、ローム。
2層 暗 褐 色土 (10YR3/4) ローム多。軽石。

D883、884号土坑実測図



D885、886号土坑実測図

遺構名	検出位置	平面形	東西(cm)	南北(cm)	深さ(cm)	遺物	重複遺構
D 883	い－14	不整円形	225	248	57.6	－	北・南一部撹乱
D 884	あ－11	[円形]	40	58	14	－	西撹乱
D 885	う－13	不整円形	184	160	80	－	東撹乱
D 886	あ－13	[楕円形]	120	187	34	－	西ピット、撹乱

土坑観察表

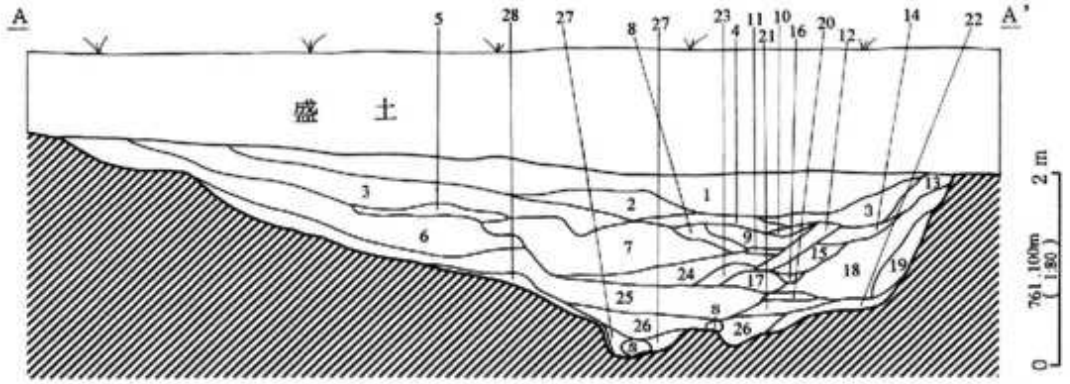
第3節　溝跡

遺構はえ－17グリッド付近に位置し、形態はL状を呈し、西及び南方向の調査区外にのびる。規模は確認面上での幅4.5～8.75m、底幅2.8m内外を示し、この底面には幅60cm程度の水流にえぐられた細い流路が数本認められた。深さは2.0m内外、全長は確認できた範囲で13.5mを測る。下層には砂・砂礫が堆積し、遺物の大半はここから出土した。図示したのは土師器1点、須恵器35点である。1は古墳時代後期の土師器坏、他はすべて須恵器で奈良～平安時代初頭の特徴を持つ遺物が大半を占める。2～16は須恵器坏・高台付坏である。17は蓋、18～23は甕・壺の口縁破片、24～37は甕・壺の破片である。以上、遺構内からは古墳時代から平安時代の遺物が出土し、これ

M24号溝跡全景

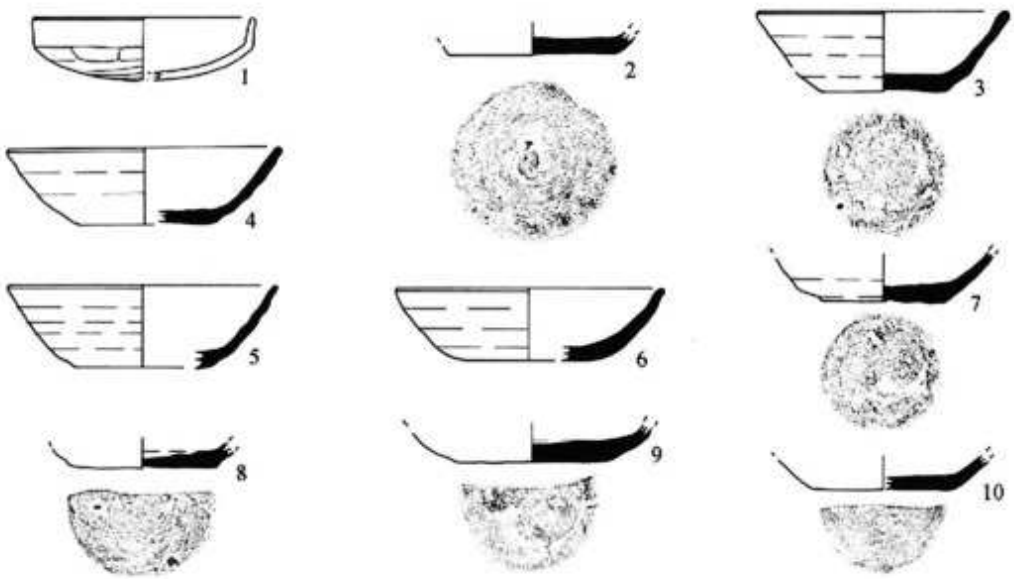
M24号溝跡土層断面

らは新旧関係なく入り乱れ、底付近の砂礫層に埋もれていた。時期は奈良時代から平安時代にかけて存在した溝と考えられる。

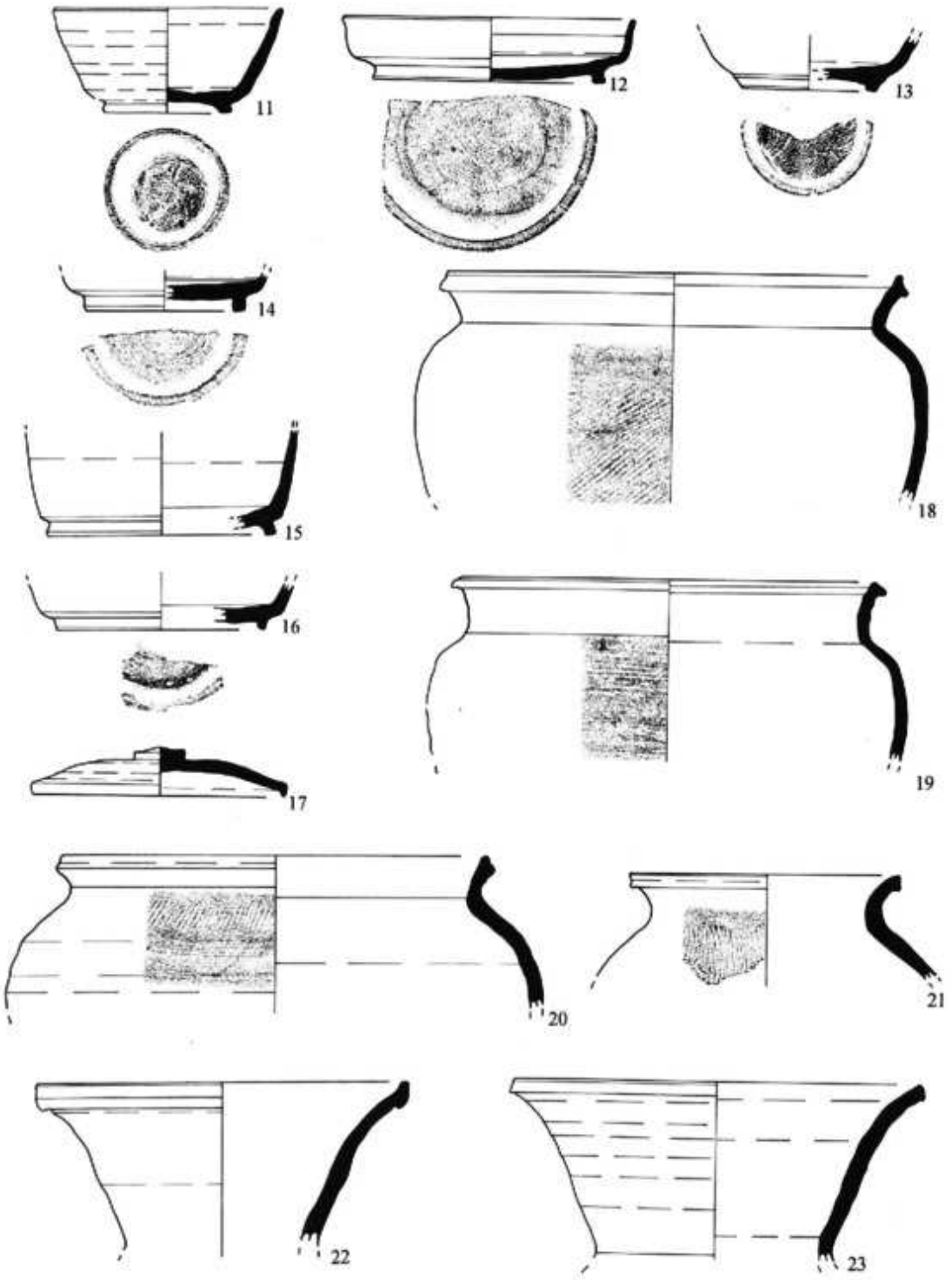


1層　黒　褐　色土（10YR2/2）ローム粒、軽石小少量。
2層　暗　褐　色土（10YR3/4）シルト質。
3層　鈍い黄褐色土（10YR4/3）シルト質。
4層　褐　色　土（10YR4/6）シルト、砂礫小の混合土。
5層　褐　灰　色土（10YR6/1）シルト質。極細粒。
6層　褐　灰　色土（10YR5/1）シルト質。砂、ローム粒少量。
7層　暗　褐　色土（10YR3/3）シルト質。砂、ローム粒少量。
8層　黒　褐　色土（10YR2/3）シルト質。砂、ローム粒少量。
9層　暗　褐　色土（10YR3/4）シルト質。砂少量。
10層　暗　褐　色土（10YR3/3）シルト質。砂少量。
11層　暗　褐　色土（10YR3/3）シルト質。軽石少量。
12層　暗　褐　色土（10YR3/4）シルト質。軽石少量。
13層　黄　褐　色土（10YR5/6）ローム、暗褐色土の混合土。
14層　鈍い黄褐色土（10YR4/3）砂、軽石小多。
15層　褐　灰　色土（10YR4/1）シルト質。ロームブロック多。
16層　黄　褐　色土（10YR5/6）ロームブロック。
17層　灰黄褐色土（10YR4/2）シルト質。砂、軽石少量。
18層　明黄褐色土（10YR6/6）ローム主体。軽石。
19層　鈍い黄橙色土（10YR6/4）ローム主体。軽石。
20層　鈍い黄褐色土（10YR4/3）シルト質。砂。
21層　灰黄褐色土（10YR4/2）シルト質。砂、軽石。
22層　褐　灰　色土（10YR4/1）シルト質。砂、軽石少量。
23層　暗　褐　色土（10YR3/4）シルト質。
24層　褐　色　土（10YR4/6）砂礫層。ローム。
25層　褐　色　土（10YR4/4）砂礫層。ローム。
26層　褐　灰　色土（10YR4/1）砂礫層。礫やや大。
27層　褐　色　土（10YR4/6）砂礫層。礫やや大。ローム少量。
28層　褐　色　土（10YR4/4）砂礫層。礫やや大。ローム少量。

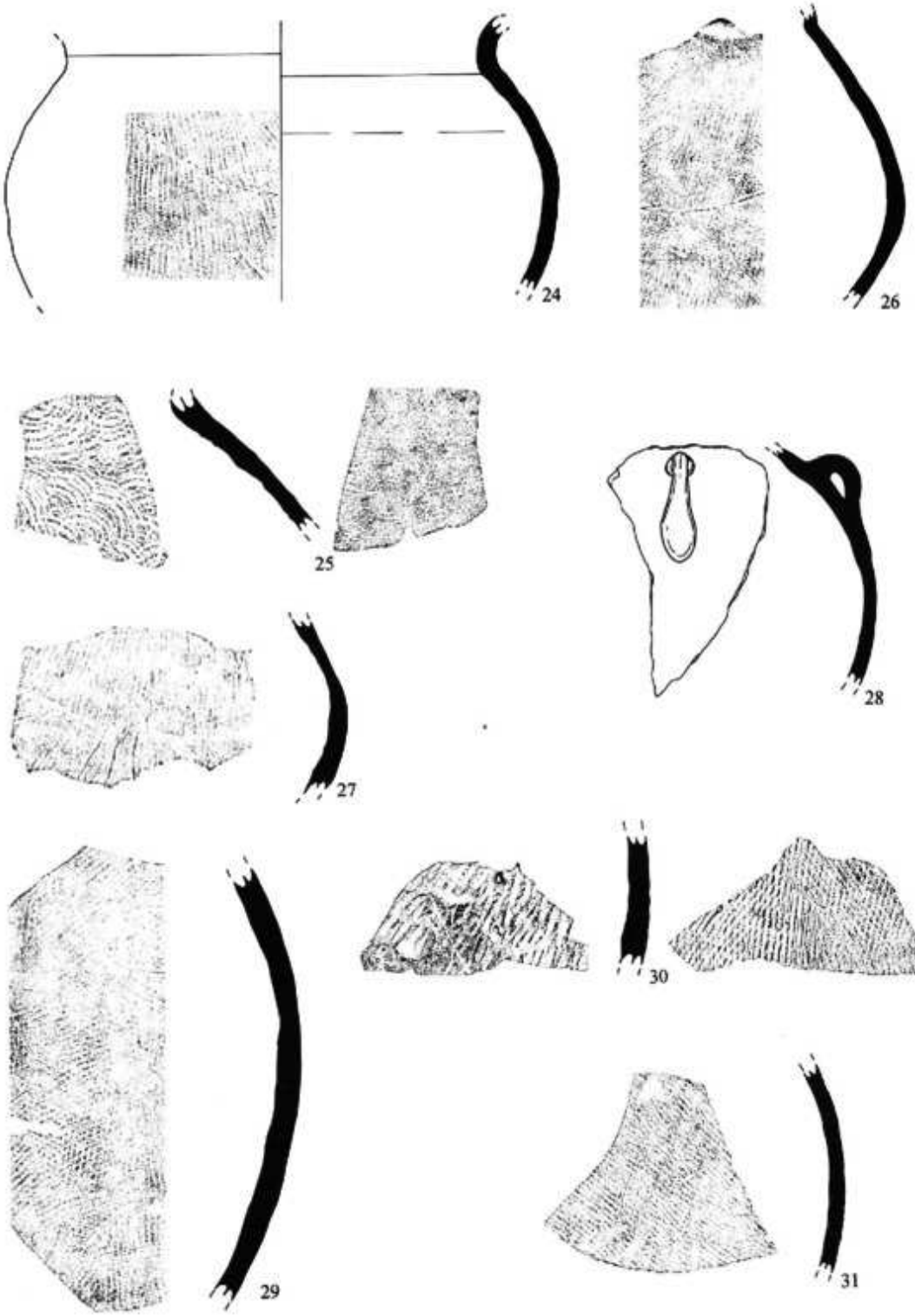
M24号溝跡土層断面図



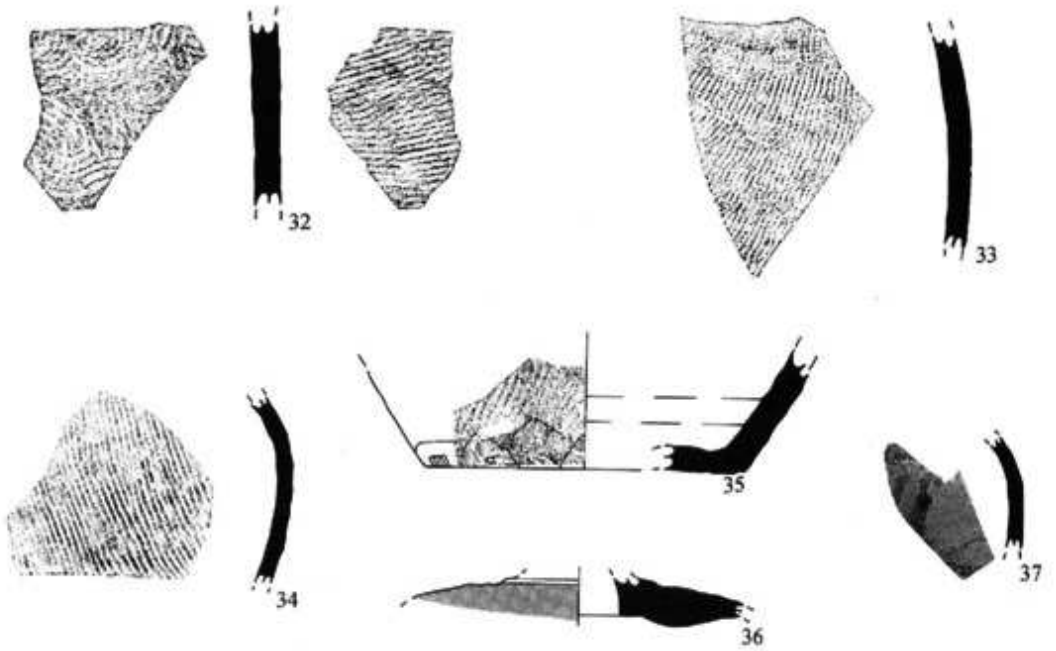
M24号溝跡遺物実測図（1）



M24号溝跡遺物実測図（2）



M24号溝跡遺物実測図（3）



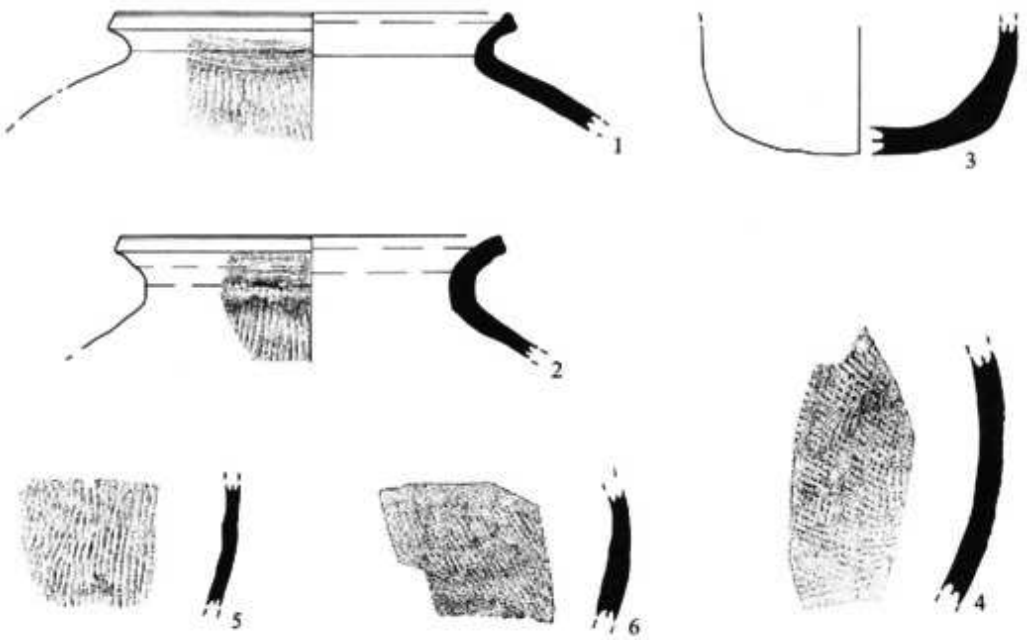
M24号溝跡遺物実測図（4）

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調（外面）（内面）
1	土師器	坏	[11.5]	丸底	3.2	口辺横ナデ　外面ヘラ削り　内面ナデ	口縁～底部破片	良	鈍い橙色 橙色
2	須恵器	坏	—	8.6	—	底部回転ヘラ切り　火だすき	底部のみ完存	良	灰黄褐色 灰黄褐色
3	須恵器	坏	[13.0]	6.2	4.1	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り	40	良	黒色 黒色
4	須恵器	坏	[14.2]	[6.7]	3.9	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り未調整　火だすき	30	良	灰色 灰色
5	須恵器	坏	[14.0]	[7.0]	4.2	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り未調整　火だすき	口縁～底部破片	良	灰色 黒色
6	須恵器	坏	[13.8]	[7.2]	3.7	ロクロ横ナデ　火だすき	口縁～底部破片	良	鈍い黄橙色 灰黄褐色
7	須恵器	坏	—	6.4	—	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り未調整	30	良	灰オリーブ色 オリーブ褐色
8	須恵器	坏	—	7.7	—	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り未調整	底部～胴部破片	良	黄灰色 灰色
9	須恵器	坏	—	[8.1]	—	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り未調整	底部～胴部破片	良	灰オリーブ色 黒色
10	須恵器	坏	—	[7.2]	—	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り未調整　火だすき	底部～胴部破片	良	灰オリーブ色 灰オリーブ色
11	須恵器	高台付坏	[13.5]	7.6	6.2	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り後高台貼り付け	45	良	灰色 灰色
12	須恵器	盤	[17.4]	[13.8]	3.8	ロクロ横ナデ　底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	40	良	灰色 灰オリーブ色
13	須恵器	高台付坏	—	[8.1]	—	ロクロ横ナデ　底部回転糸切り後高台貼り付け	底部 50	良	灰褐色 褐色
14	須恵器	高台付坏	—	[9.4]	—	ロクロ横ナデ　底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	底部 50	良好	灰色 灰色
15	須恵器	高台付坏	—	[13.4]	—	ロクロ横ナデ　底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	底部～胴部破片	良	灰オリーブ色 黒色

M24号溝跡遺物観察表（1）

16	須恵器	高台付坏	―	[12.1]	―	ロクロ横ナデ　底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	底部25	良	褐灰色 黄褐色
17	須恵器	蓋	[14.8]	―	―	ロクロ横ナデ　天井部回転ヘラ削り　火だすき　自然釉	30	良好	暗灰色 灰色
18	須恵器	甕	[27.0]	―	―	ロクロ横ナデ　平行外面叩き	口縁～胴部破片	良好	暗緑灰色 褐色
19	須恵器	甕	[24.5]	―	―	ロクロ横ナデ	口縁～胴部破片	良好	暗青灰色 青灰色
20	須恵器	甕	[25.3]	―	―	ロクロ横ナデ　肩部叩き	口縁～胴部破片	良好	暗オリーブ灰色 褐色
21	須恵器	甕	16.1	―	―	外面平行叩き	口縁～胴部破片	良好	オリーブ灰色 鈍い黄褐色
22	須恵器	甕	22	―	―	ロクロ横ナデ　内外面自然釉	口辺破片	良好	黒褐色 灰白色
23	須恵器	甕	[24.2]	―	―	ロクロ横ナデ	口辺破片	良好	暗青灰色 暗青灰色

M24号溝跡遺物観察表（2）



遺構外遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調（外面） （内面）
1	須恵器	甕	[20.3]	―	―	頸部横ナデ　外面叩き	口縁～頸部破片	良好	灰色 灰色
2	須恵器	甕	[19.6]	―	―	口縁横ナデ　外面叩き　内面ヘラナデ	口縁～頸部破片	良好	暗青灰色 暗青灰色
3	須恵器	甕	―	9.6	―	外面灰釉付着	底部～胴部破片	良好	灰色 灰色

遺構外遺物観察表

図　　版

調査区全景（南から）

調査風景（南西から）

H192号住居址全景（南西から）

H192号住居址検出状況（南東から）

H192号住居址全景（南東から）

H192号住居址遺物出土状況

H192号住居址掘方（南から）

H193号住居址検出状況（西から）

H193号住居址掘方（西から）

H194号住居址掘方（南から）

H194号住居址調査状況

H194号住居址カマド

H194号住居址カマド遺物出土状況

H194号住居址カマド掘方

H195号住居址検出状況（西から）

H195号住居址全景（南から）

H195号住居址掘方（南から）

H195号住居址カマド

H195号住居址カマド掘方

H195号住居址調査風景

H195号住居址調査風景

H196号住居址掘方

D883号土坑

D884号土坑

D885号土坑

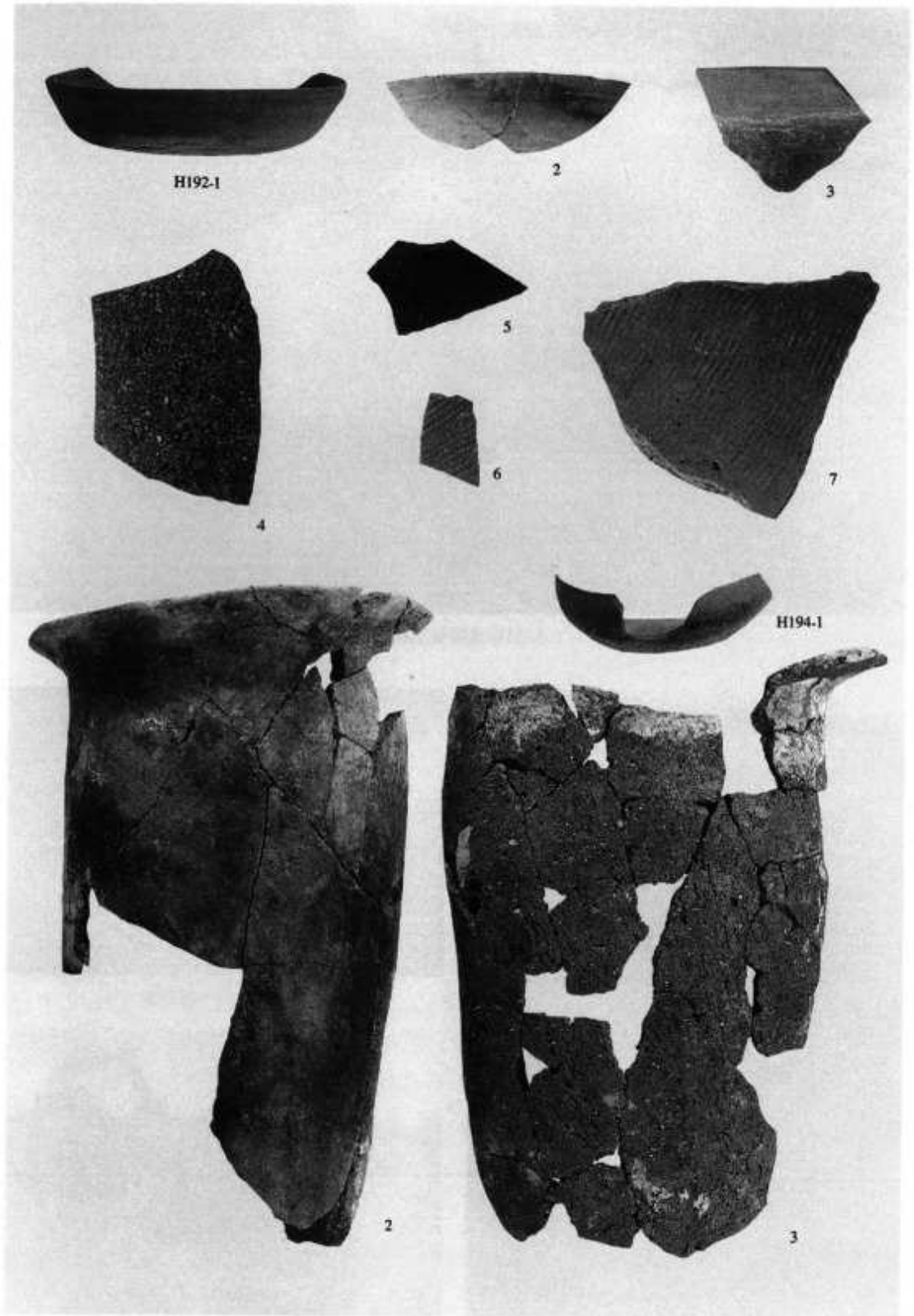
D886号土坑

M24号溝跡検出状況

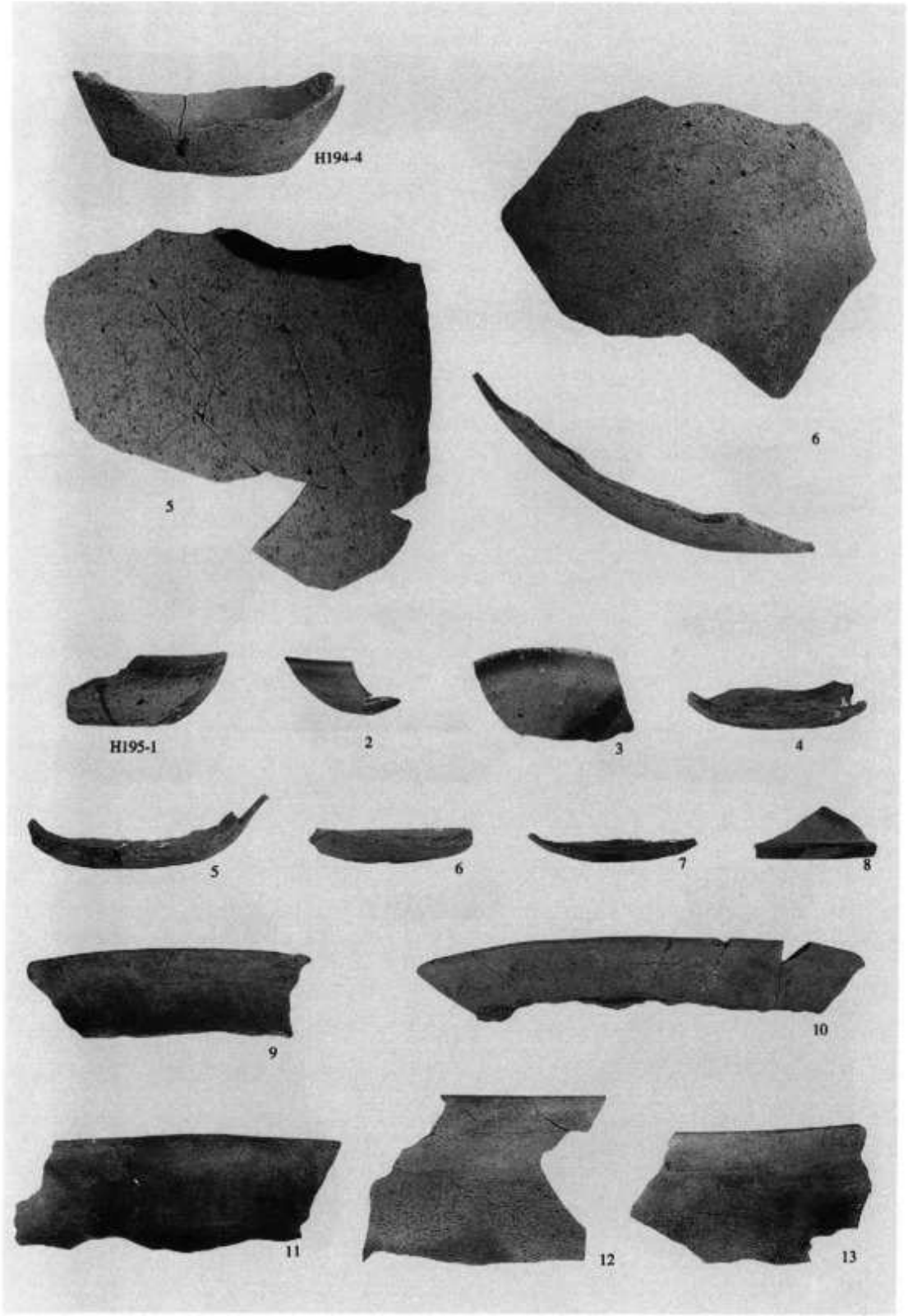
M24号溝跡トレンチ

M24号溝跡土層断面

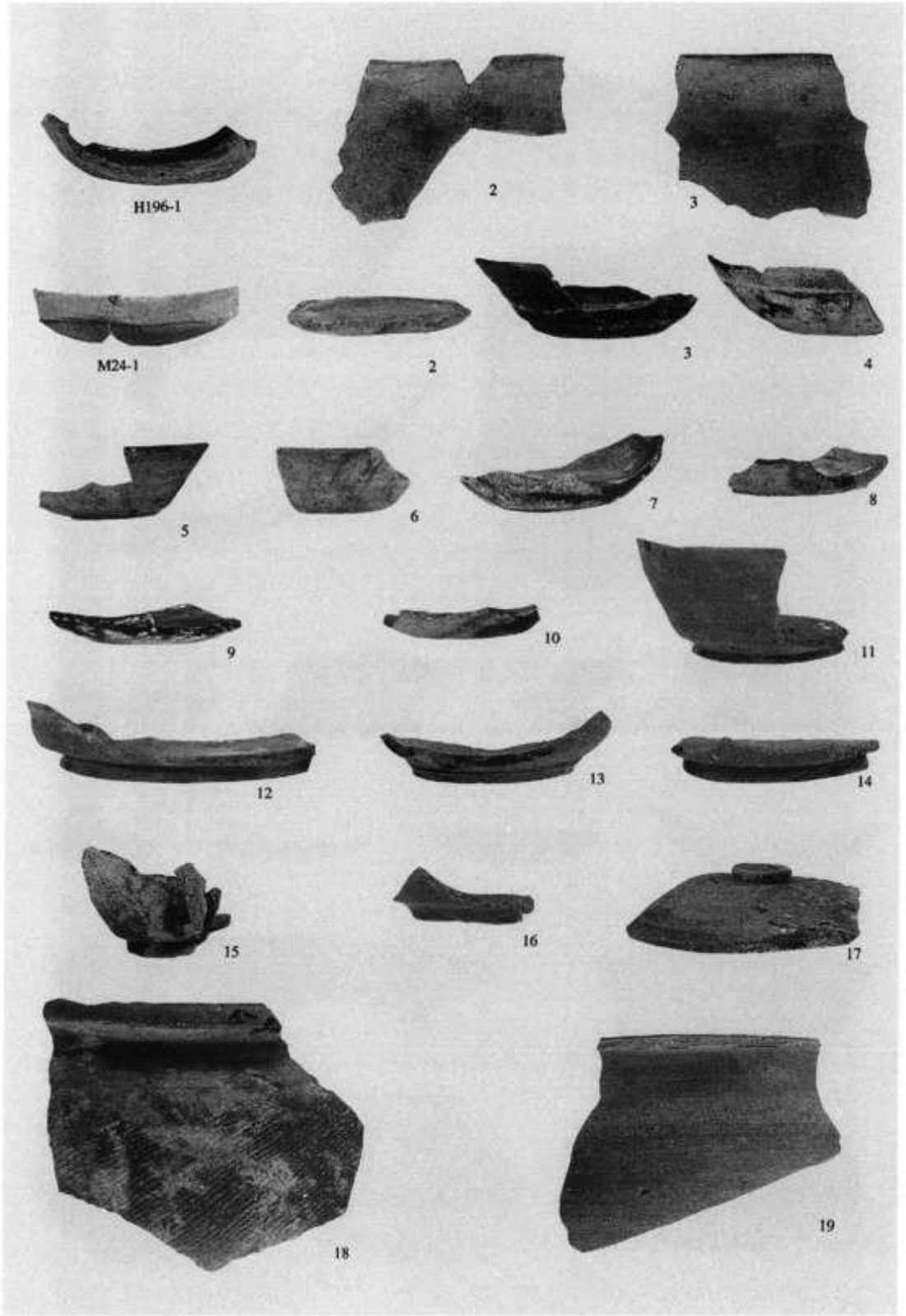
M24号溝跡調査状況



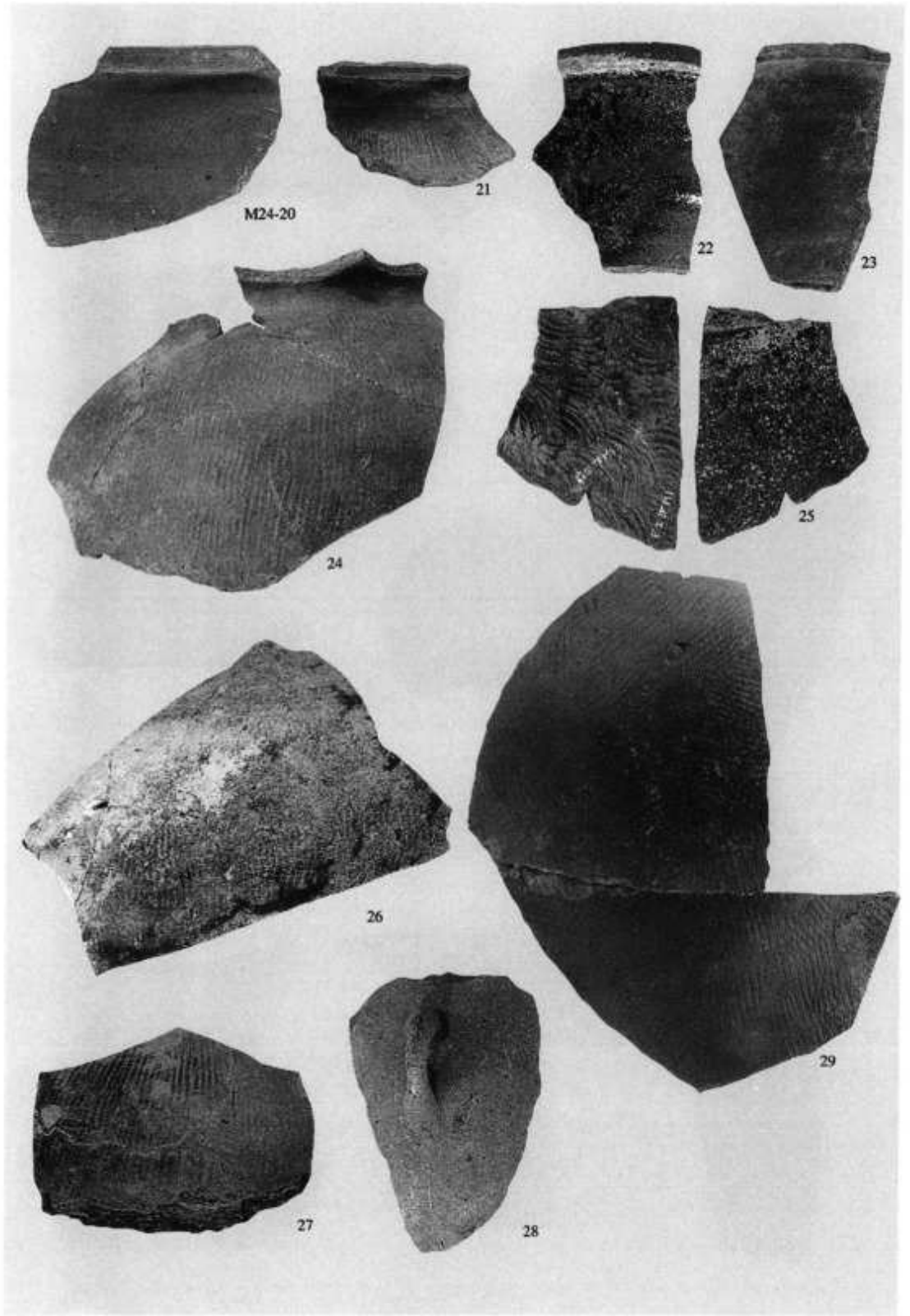
H192・194号住居址遺物



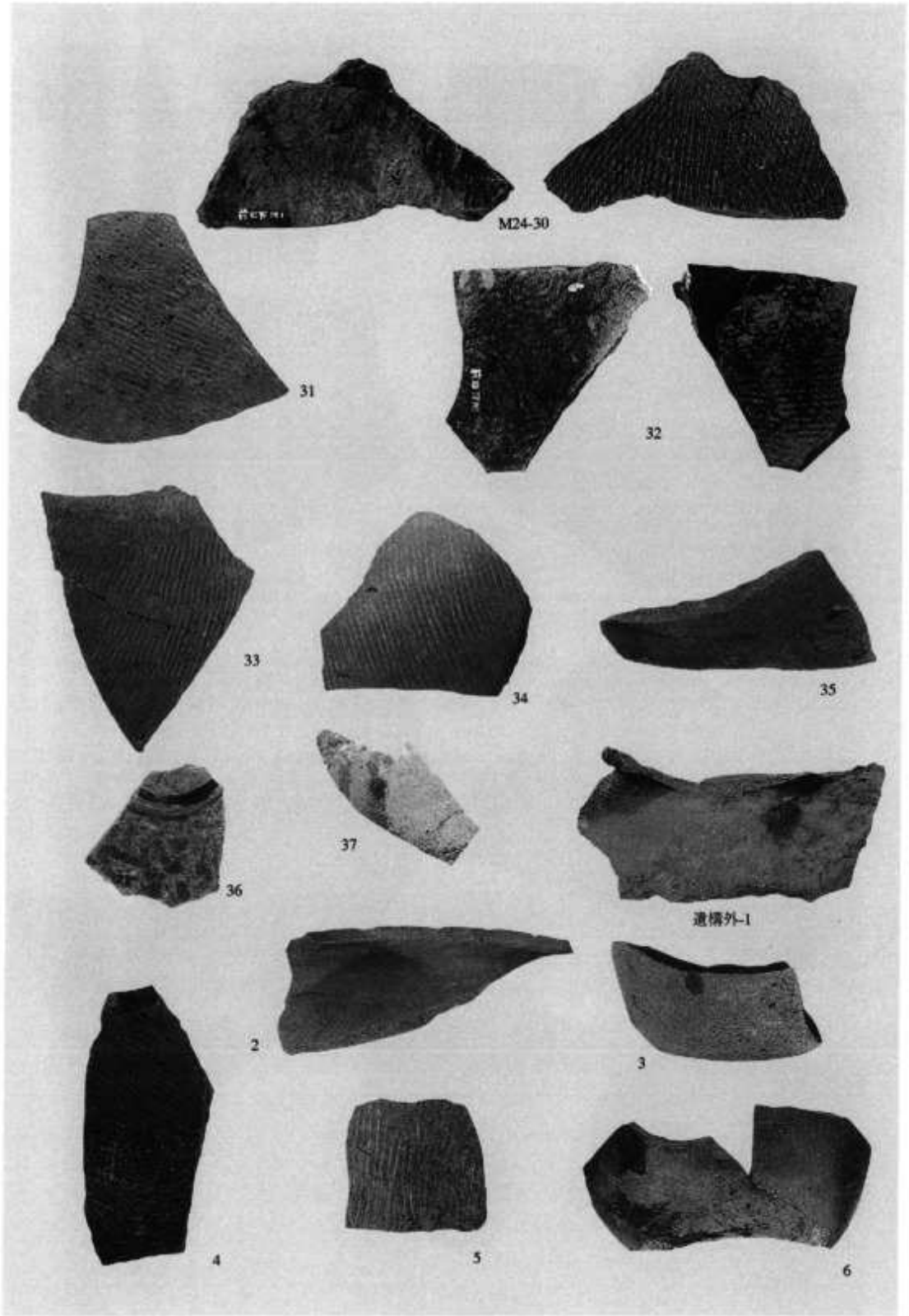
H194号住居址遺物



H194号住居址、M24号溝跡遺物



M24号洞窟遺物



M24号溝跡、遺構外遺物

西曽根遺跡Ⅳ
調査報告

13. 栗毛坂遺跡群　西曽根遺跡Ⅳ

所 在 地　佐久市大字岩村田字西曽根53－5
調査委託者　進和商事株式会社
開発事業名　営業所建設
調 査 期 間　平成12年11月27日～平成13年３月16日
調 査 面 積　286㎡
調査担当者　冨沢一明

西曽根遺跡Ⅳ位置図（１：50,000）

例言・凡例

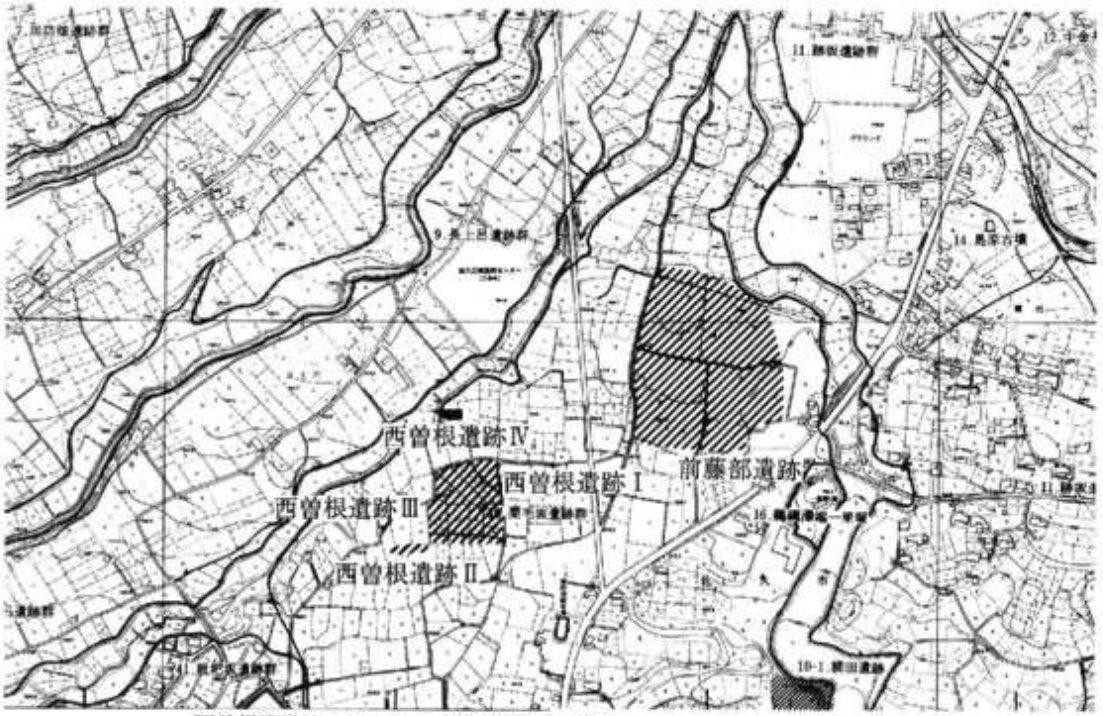
1．本報告は平成12年度に行った栗毛坂遺跡群西曽根遺跡Ⅳの調査報告である。
2．遺構・遺物の縮尺は本文中に個々に記載した。
3．遺構図の海抜標高は水糸標高を「標高」として示した。
4．土層・土器の色調は1988年『新版標準土色帖』に基づいた。
5．挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

6．出土遺物は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
7．本報告の執筆は冨沢が行った。

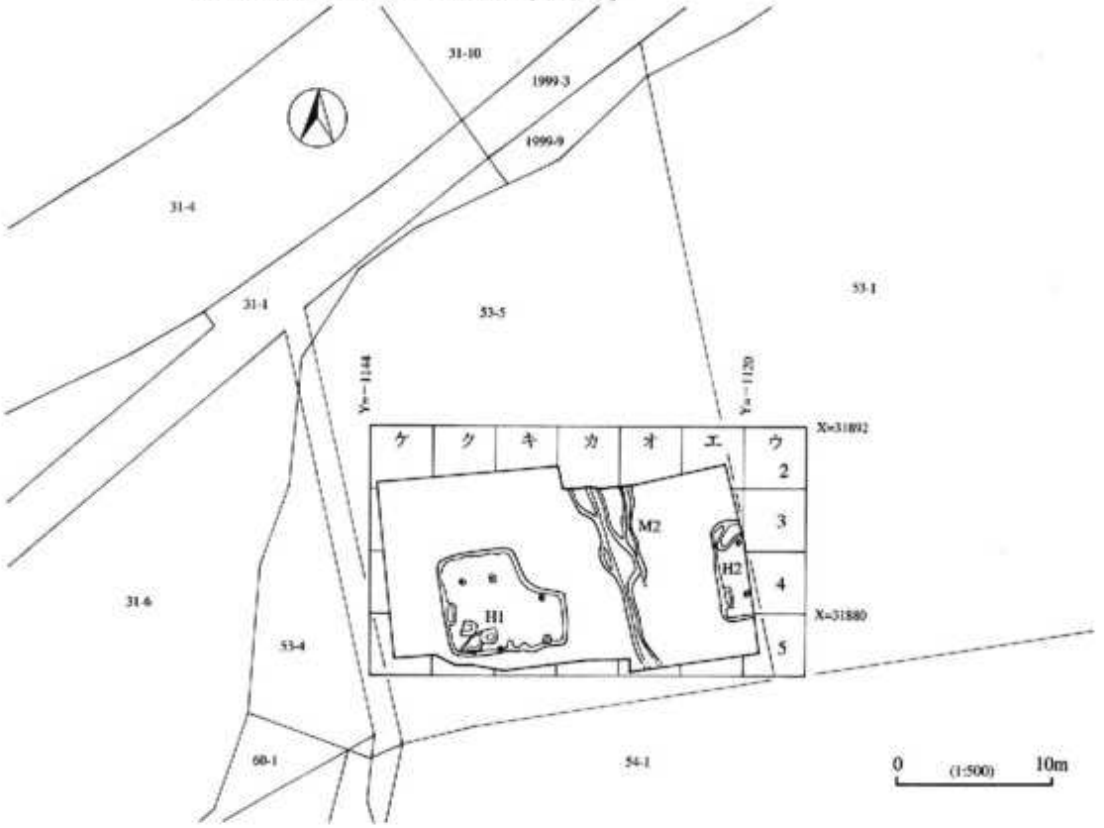
経過と立地

西曽根遺跡Ⅳは佐久市大字岩村田に所在し、今回の調査地点は南北に伸びる田切に沿ってのびる台地の西端にあたる。周辺の標高は744m内外を測る。当遺跡周辺は上信越自動車道及び佐久インターチェンジ建設とその周辺の区画整理事業の完成で佐久市内でも近年大きくその姿を変えている地域である。それら開発と背中合わせでまた多くの遺跡が調査された。遺跡群内では奈良時代の集落址を検出した西曽根遺跡や区画整理地内の各遺跡からは平安時代末の稀少な集落址が発見されている。また田切を挟んで西側の台地上には古墳時代から平安時代にわたる住居址1000軒以上が調査された聖原遺跡等がある。

今回、遺跡群内で進和商事株式会社により営業所建設が計画され、当教育委員会で試掘調査を行った。その結果遺構が確認され、保護協議を行い建物部分のみ記録保存を目的とする発掘調査を行うこととなった。



西曽根遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ位置図(1:10,000)



西曽根遺跡Ⅳ全体図

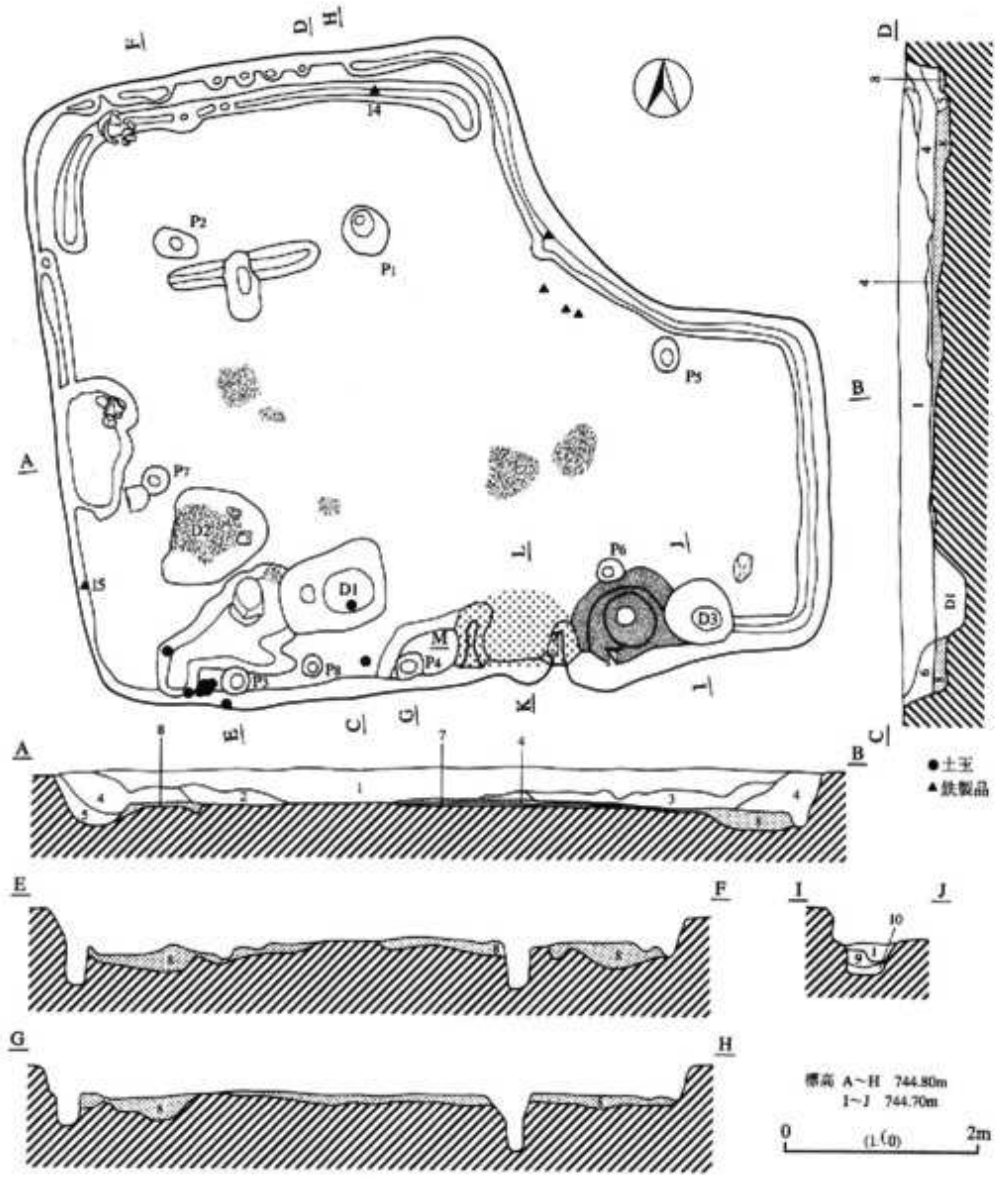
（1）H1号住居址

本住居址は、調査区南西側より検出された。本址脇からは調査区西側と北西側の低地へとつながる黒色土が検出され、本址の脇がすぐに田切地形となっていることが確認できた。

形態は東側に張り出し部分をもつ所謂「曲がり屋」と呼ばれるようなL字型の形態で、残存状況は良好で遺構の全体が検出できた。カマドは南壁中央部より検出された。住居址の規模は南壁7.32m・西壁5.77m・北壁4.72m・飛び出した部分の東壁3.18mで、壁高さは南西コーナー部分で47cm を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位は西壁を軸とするとN－6°－Wを示す。住居址の床面積は40.1㎡（張り出し部分8.88㎡）を測る。覆土は4層に分かれる。床は全体的に硬質であったが、特にカマド前面から北側張り出し部にかけてが顕著であった。貼床は薄いところで5cm程の厚さで貼られており、部分的に円形の焼土が広がっていた。壁溝はカマド脇の東側から張り出し部と北壁、西壁の一部で確認され、北側の一部は二重となっていた。壁溝の規模は幅が21～35cm・深さ4.5～8.5cm を測る。ピットは8カ所が確認され、規模はP1が径55cm・深さ60cm、P2が径46cm・深さ53cm、P3が径28cm・深さ48cm、P4が径28cm・深さ34cm、P5が径36cm・深さ18cm、P6が径28cm・深さ15cm、P7が径28cm・深さ16cm、P8が径22cm・深さ13cm を測る。検出位置よりP1～P4が主柱穴と考えられる。また北壁の一部には壁柱穴のような小ピットも確認された。住居址掘り方は中央部が高く壁下周辺部が一段下がる凸状であった。

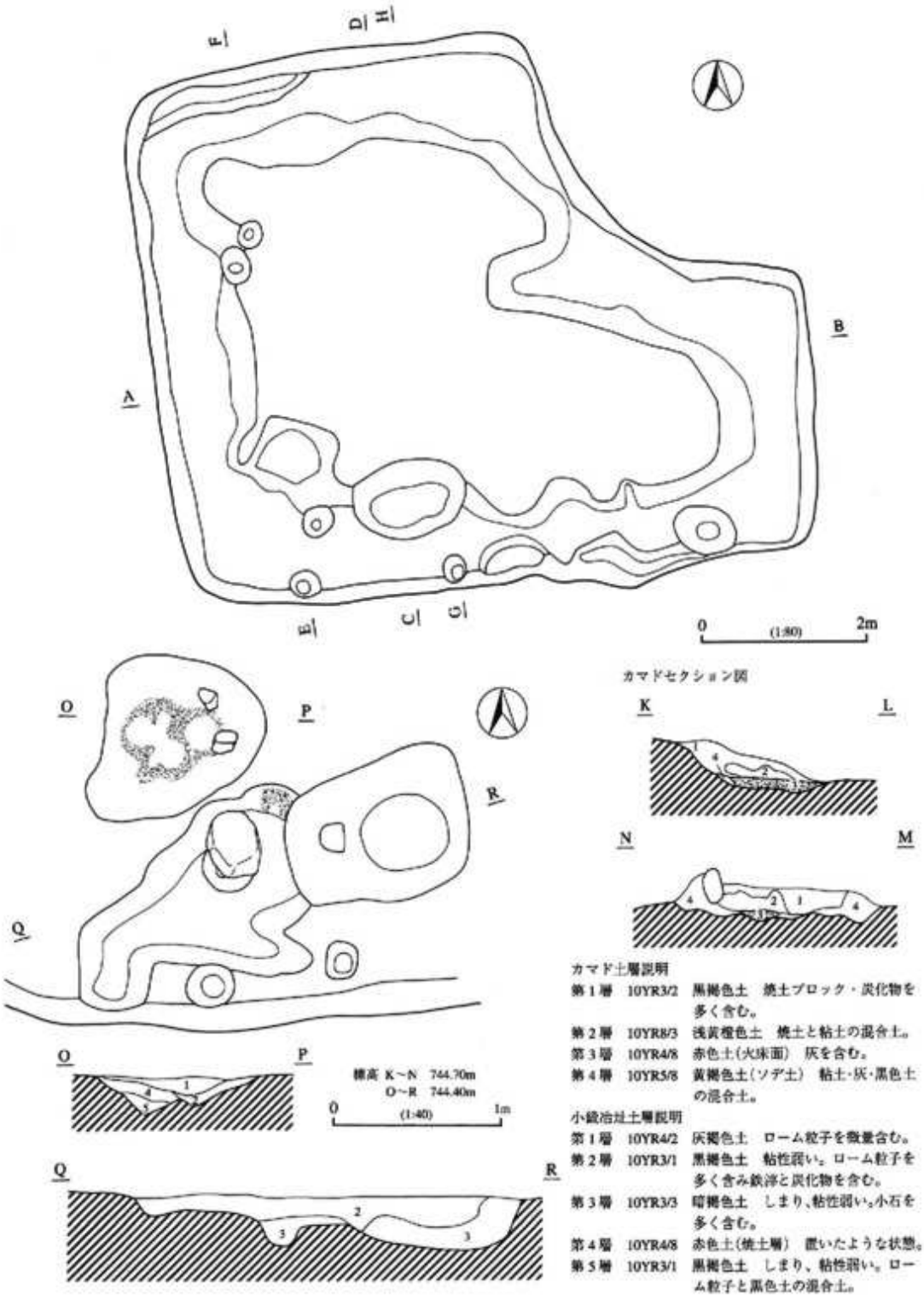
カマドは南壁中央部で検出された。残存状況は両袖と火床面が残るのみであった。形態は煙道部が壁外にあまり飛び出さないタイプで、袖は粘土と河原石を使用した物であった。規模は右袖長さ64cm・幅34cm・左袖長さ47cm・幅25cm である。火床面の焼土の厚さは8cm を測り、良く焼けていた。また、カマド東脇には粘土溜まりのような所が検出され、粘土が長軸1.15mの範囲で土手状に巡っていた。

本址のその他の付帯施設としては3つの土坑が確認された。この内、住居址南西コーナー付近から検出された2基の土坑はその形状や出土遺物から鍛冶址関連が推測される。まずD1号土坑は形態が長方形で、規模は長軸1.12m・短軸83cm・深さ36cm を測る。覆土は黒色土で焼土等は確認されなかったが、覆土を洗浄したところ鍛冶関連の遺物である所謂「湯玉」や鍛造剥片が確認できた。D2号土坑は不整形な擂鉢形の土坑で、規模は長軸98cm・短軸92cm・深さ21cm を測る。土坑の底面はよく焼けていたが、中心部は円形に焼土が検出されなかった。これら2基の土坑の間には不整形の浅い掘り込みがあり、中央部には長軸40cm 大の礫が平らな面を上に出土した。この礫は顕著な加工が確認できなかったが、上部の平らな面の表面は小さな窪みが無数に開き月面のような状態であり、窪みの周辺部はなめらかであった。なお、D1号土坑と南壁の間には図示した第6層の覆土が確認されたが、本層は上面が硬質化しており、堆積状態もローム土と黒色土が版築状を示し、或いはこの部分に土棚状遺構の存在した可能性がある。



第1層	10YR4/2	灰黄褐色土	しまり弱く、粘性ややあり。小石、火山灰を多く含む。
第2層	10YR4/4	褐色土	しまりややあり、粘性弱い。ローム土を含むがやや黒味あり。
第3層	10YR3/1	黒褐色土	しまり、粘性ややあり。黒色土がブロック状に混入する。
第4層	10YR4/6	褐色土	しまり、粘性弱い。火山灰粒子と軽石を多く含む。
第5層	10YR5/8	黄褐色土	しまりややあり、粘性弱い。ローム土主体で黒色土混入。
第6層	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性弱い。ローム土と黒色土が交互に堆積、上面は踏み固めたように硬質である。
第7層（貼床）	10YR5/6	黄褐色土	しまり、粘性あり。上面より踏み固められている。8層貼床との間に炭化物層がある。
第8層（貼床）	10YR5/6	黄褐色土	しまりあり、粘性弱い。ローム土と黒色土の混合土で壁ぎわの土ほど黒色土が多い。
第9層	10YR4/6	褐色土	しまり、粘性弱い。ローム土と黒色土の混合土。
第10層	10YR2/1	黒色土	しまりややあり、粘性弱い。上層は褐色のローム土で下層は黒色土が堆積。

H1号住居址実測図

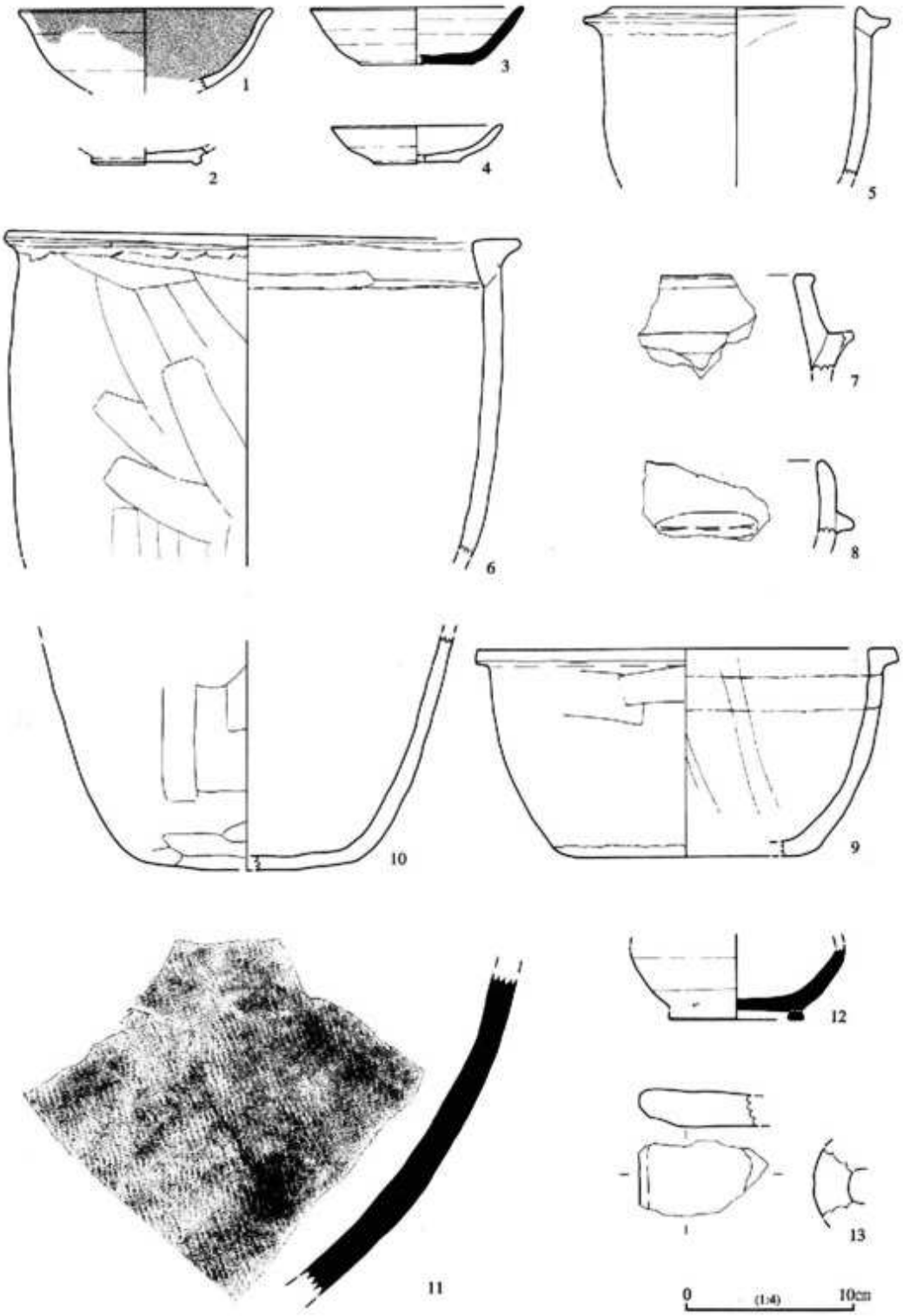


H1号住居址掘り方及び鍛冶関連土坑実測図

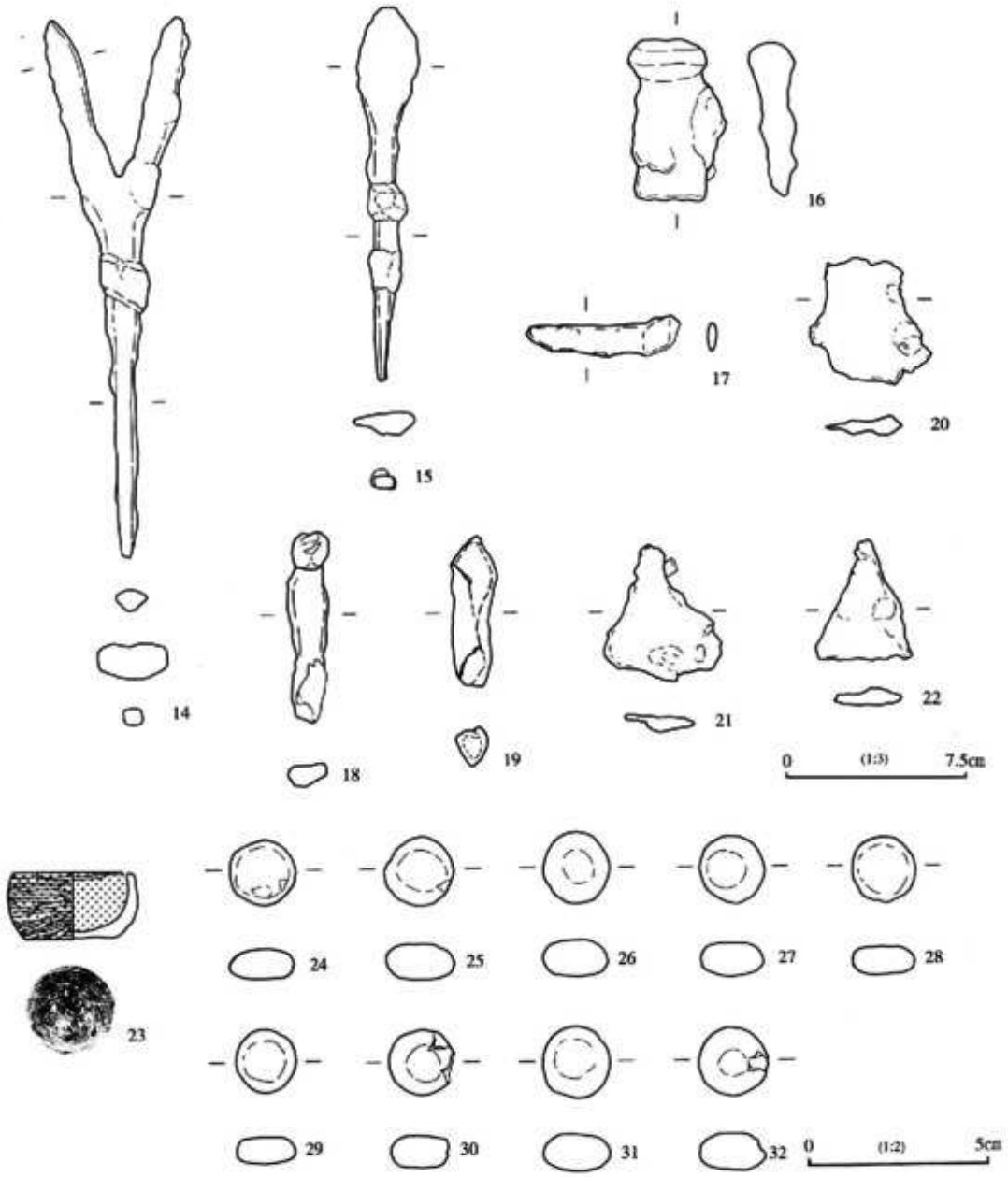
本址の出土遺物は少量であったが多彩なものがあり、土師器、須恵器、土製品、鉄製品等があった。1と2は灰釉陶器椀の破片である。1は口縁部から体部の破片であり、口縁部の1/4程が残存していた。出土位置は覆土上層から床面出土の破片がある。釉は漬け掛けと考えられる。2は底部の破片で、底部の1/2程が残存していた。出土位置は覆土上層である。調整は底部が回転糸切り離し、高台は貼付？である。3は須恵器坏である。全体の1/3程が残存している。出土位置は覆土中層である。成形はロクロで、底部は回転糸切り離しである。4は土師質土器の小皿で、1/3程が残存している。出土位置は住居址北西側の床面より3つの破片で出土した。成形はロクロ、底部は回転糸切り離しである。5・7・8は羽釜である。出土位置は5がカマド内と覆土中出土の破片が接合した。7と8はいずれも覆土中からの出土である。形態は3点とも異なり、5は鍔部分が口縁部に近接し非常に小型である。7の鍔部分は残存部分が少なく不明瞭であるが、逆台形を呈する。8は小型の鍔が貼付し、器面に全周しないタイプのものと考えられる。6と9は所謂「鍋」と呼ばれる器形であり、出土位置は6が北西コーナー部分から纏まって、9がカマド内よりそれぞれ出土している。残存状態は6は口縁部から胴部までがほぼ完形に近い。9は口縁部から底部までの内全体の1/8程が残るのみである。形態はいずれも口縁部に折り返しの肥厚した口唇部が巡り、内面に若干の輪積み痕を残す。また外面には煤の付着が顕著である。10は羽釜の胴部から底部の破片と考えられる。出土位置は住居址L字部分の壁際下から纏まって出土した。形態は底部がやや丸底ぎみであり、外面には煤の付着が認められた。11は須恵器甕の胴部破片で、出土位置は住居址L字部分の壁際下床面である。調整は外面が平行タタキである。12は須恵器瓶の底部から胴部である。輪高台が剥落している。出土位置は住居址L字部分の壁際下床面である。成形はロクロ成形である。13は羽口の破片である。

14～22は鉄製品である。14と15は鉄鏃であり、いずれもほぼ完形品である。出土位置は14が北壁西よりの壁溝上から、15が西壁南よりからで、床面より20cm程浮いた状態であった。鏃身部の形態は14が雁又、15が抉りの無い棄系の平造りである。箆被部はいずれも短く、箆被の形態は錆により不明瞭である。16は楔形の製品で頭部が楕円形を呈する。17は刀子の切っ先部分の破片と考えられる。18は頭部が曲がった様な鉄棒の形状を呈する。19～22は薄い鉄板の様な形状であり、19は故意に筒状に曲げられていた。この他本址からは釘のような砕片や錆びた鉄の粒・鉄板、また鉄滓や湯玉・鍛造剥片がD1号土坑を中心に出土している。鉄滓の出土量はみかん箱にして約1箱分程である。

23～32は土製品である。23は坏のミニチュアと考えられ、カマド東脇の粘土溜まりから出土した。完形品であり、底部は回転糸切り離し、内外面黒色処理されている。また、内面に鉄錆のような付着物がある。24～32は所謂「土玉」に似るが穿孔はなく、形態は円形の豆状である。出土位置はほぼ纏まっており、住居址の南西コーナー脇からD1号土坑にかけて出土している。



H１号住居址出土遺物実測図（１）

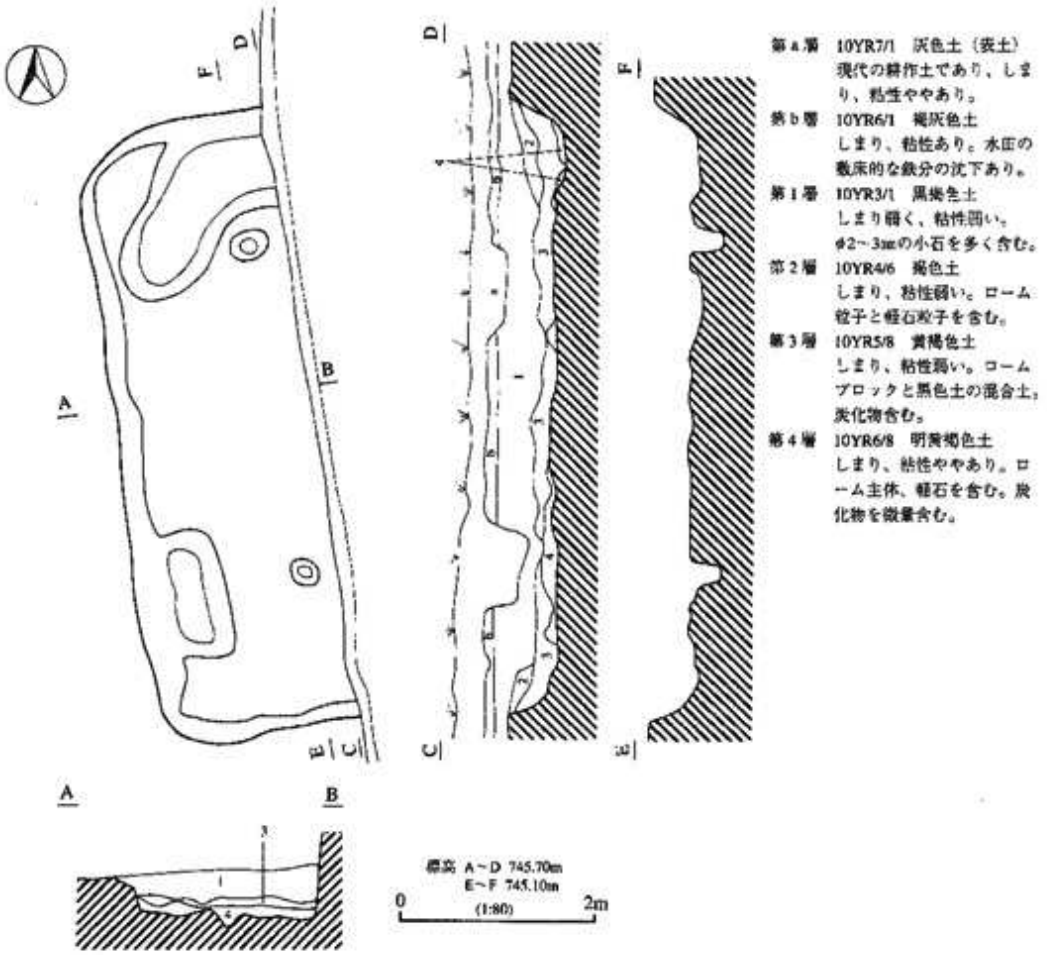


H１号住居址出土遺物実測図（２）

出土状態はいずれも覆土に混ざるような状況で、何か容器に納められていたと言う状態は観察されなかった。焼成はいずれも良好で、表面は磨いたような光沢があった。合計９点の出土があったがその使用方法や目的は不明である。

本址の帰属時期はこれらの出土遺物や周辺の「曲がり屋」形の住居址の調査事例から12世紀代と考えられるが、「鍋」など管見に触れない器種もあり、今後の検討を要する。

（2）2号住居址

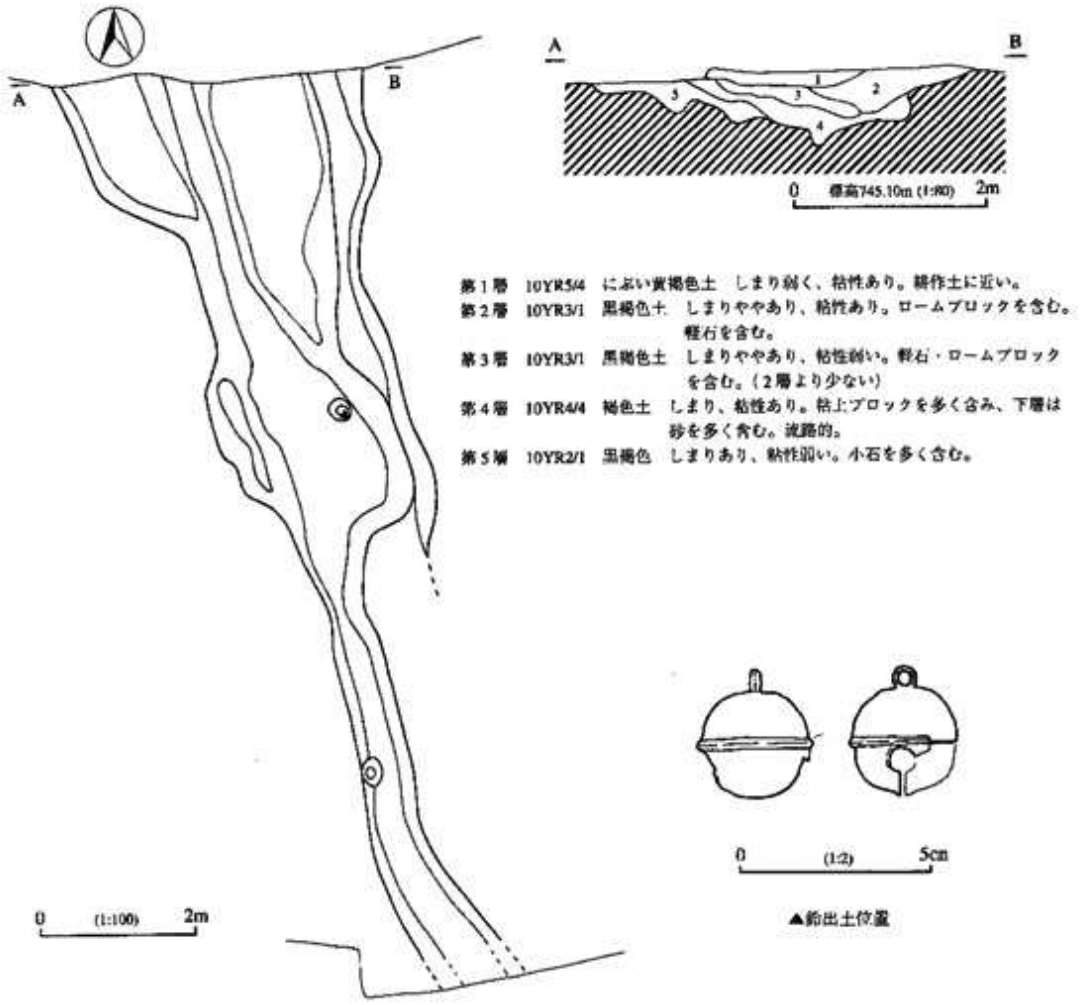


H2号住居址実測図

本址は調査区東端で検出された。形態は方形と考えられるが、住居址の大部分が調査区外となる為全容は不明である。検出された部分の規模は北壁長1.86m・西壁長5.80m・南壁長1.86mを測る。主軸方位は西壁を基準とするとN－10°－Wを示す。面積は調査部分で10.6㎡を測る。

本址の覆土は大きく2層に分かれ自然堆積と思われるが、顕著な床面が確認できなかった。図に示した第3層上面を床面として捉えるべきなのかもしれないが、他の住居址調査事例の様な踏み固められた土間部分は検出されていない。ただ、この理由によって本址が作りかけの竪穴住居址であるとか、住居址以外の使用例を推測するには状況証拠が乏しい。よって現段階では使用頻度が少なかったか、或いは住居址の壁際であるための状況としたい。掘り方は北壁側と壁南よりに一段低く掘り込まれた部分があり、また主柱穴と考えられるピット2カ所も確認された。ピットの深さは31～35cmを測る。

本址からの出土遺物は須恵器甕片2点、土師器坏片1点が出土しているのみである。



M1号溝状遺構実測図

（3）M1号溝状遺構

本址は調査区中央部で検出された。検出長は南北に12mで、溝幅は北側端で4m・中央で2.5m・南端で0.95mをそれぞれ測る。深さは11～63cmである。形態は北側に向かうに従い幅ひろとなり、深さも増していく状態で、底面は北側がゴツゴツとしていた。覆土の状態は溝下層に砂を多く含み、流水の跡が観察できた。

本址からの出土遺物は覆土下層の砂に混じって須恵器甕片2点・瓶片1点が出土したが図示可能なものは無かった。また、本址からは溝実測図に示した場所より、銅製鈴が出土した。鈴下部を一部欠損するがほぼ全容が把握できる状態で、高さ3.3cm・幅3cmを測る。

本址の帰属時期は出土遺物が少量であるため不確実ではあるが、周辺部の調査事例からすると古代の範疇に帰属するものと考えられる。

① H１号住居址全景 （北より）

② H１号住居址掘り方全景 （北より） 調査区奥に見える建物が西曽根遺跡Ⅰの調査範囲

① H１号住居址カマド全景

② H１号住居址内
鍛冶関連遺構近景

③ H１号住居址出土遺物
（西より）

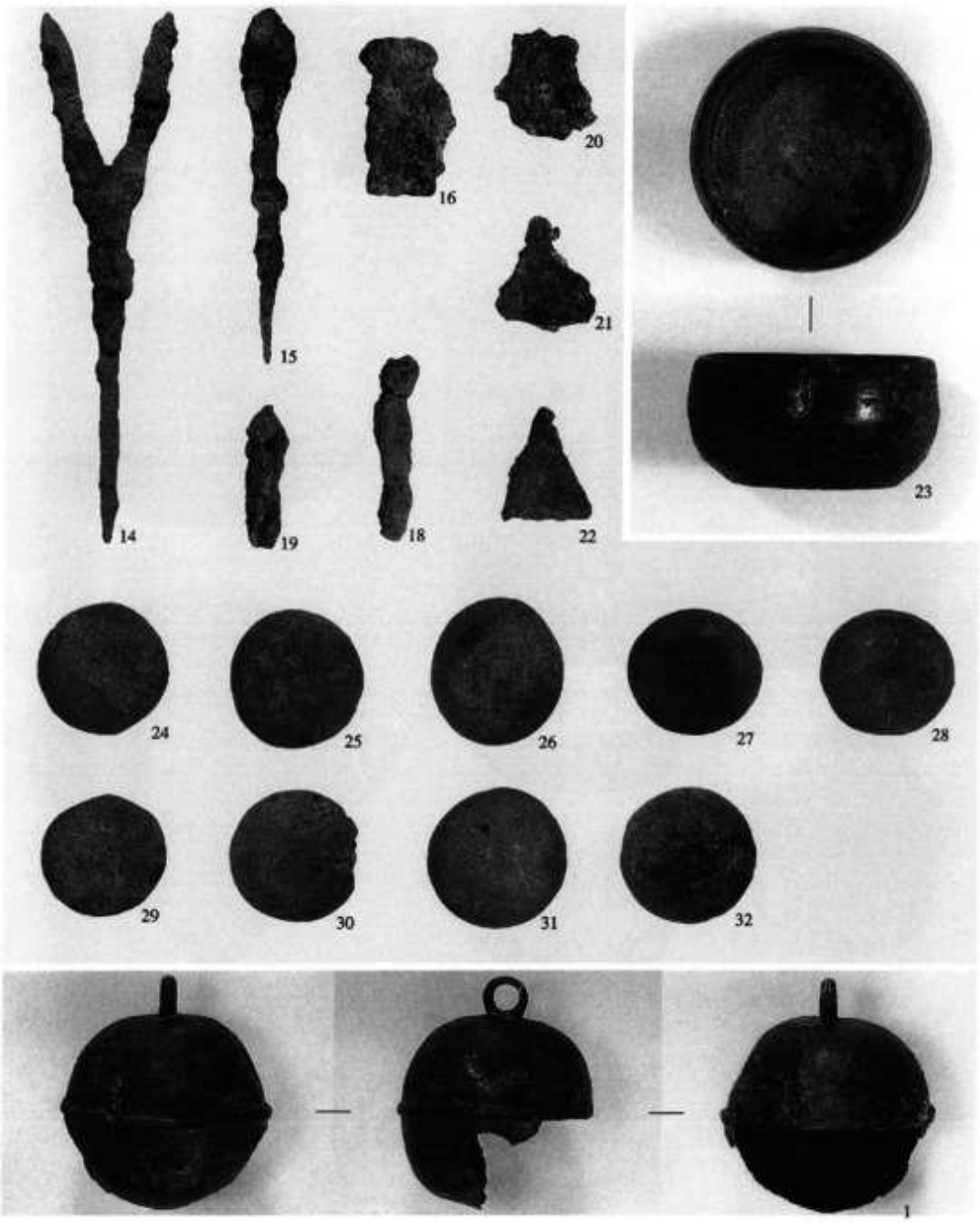
① Ｈ２号住居址全景
（北より）

② Ｍ１号溝状遺構全景
（北より）

③ 調査区全景（東より）
奥が上信越自動車道

H1号住居址出土遺物　1~13 $\frac{1}{4}$

H1号住居址出土遺物鉄分付着土器　スケール任意



H１号住居址及びM１号溝状遺構出土遺物　　14~22 1/3　23~32・鈴 1/1

六供後遺跡 Ⅱ
調査報告

14. 岩村田遺跡群　六供後遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字岩村田字六供後3598－1他
調査委託者　大塚菊次郎
開発事業名　集合住宅建設
調 査 期 間　平成13年1月30日～平成13年2月5日
調 査 面 積　174㎡
調査担当者　冨沢一明

六供後遺跡Ⅱ位置図（1：50,000）

例言・凡例

1．本報告は平成12年度に行った岩村田遺跡群六供後遺跡Ⅱの調査報告である。
2．遺構･遺物の縮尺は本文中に個々に記載した。
3．遺構図の海抜標高は水糸標高を「標高」として示した。
4．土層・土器の色調は1988年『新版標準土色帖』に基づいた。
5．挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

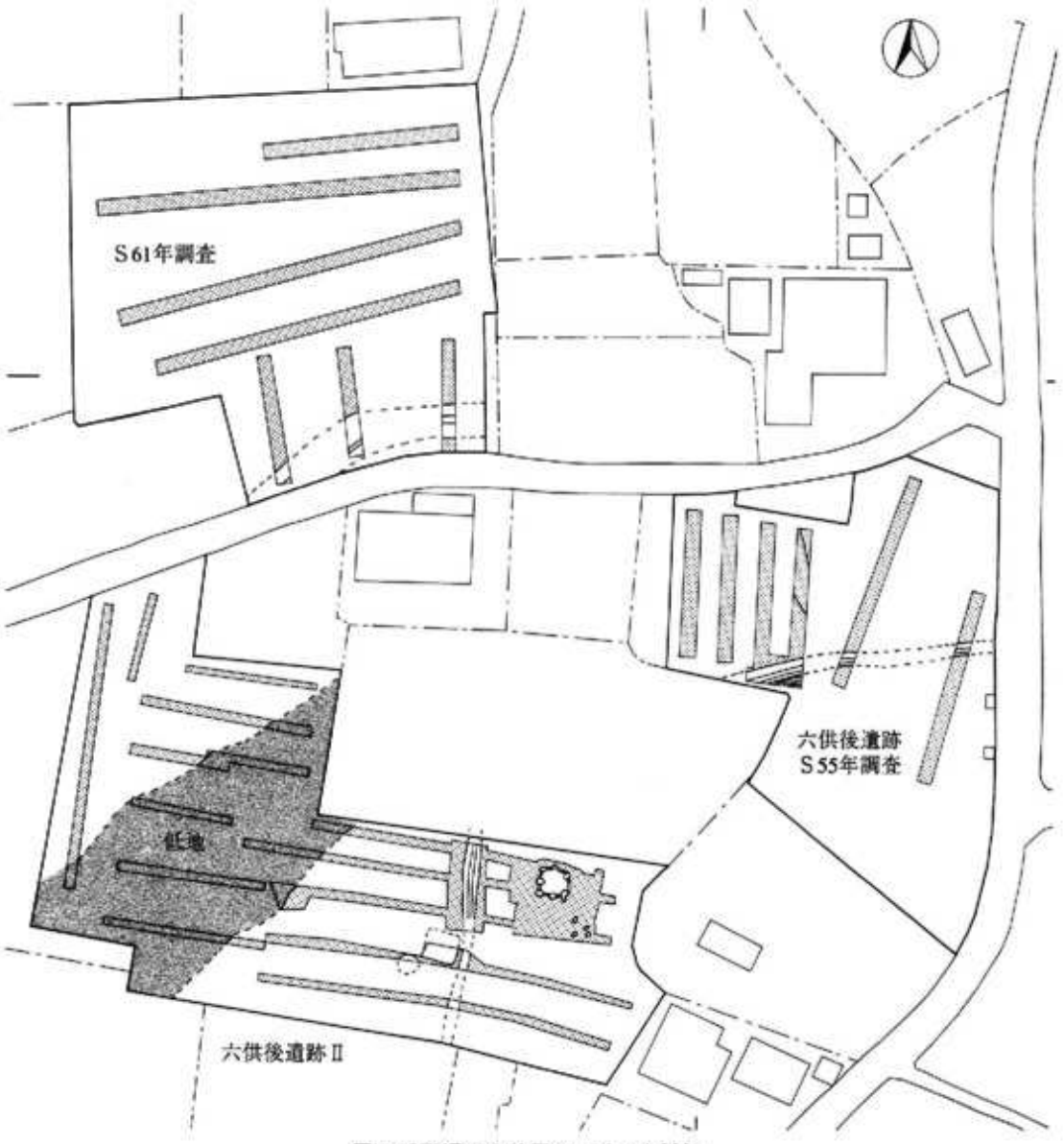
6．出土遺物は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
7．本報告の執筆は冨沢が行った。

経過と立地

六供後遺跡Ⅱは佐久市大字岩村田に所在し、今回の調査地点は岩村田市街地から北方1kmの小さな田切と湯川の段丘に挟まれた南北に細長い台地の中央部にあたる。周辺の標高は730m内外を測る。当遺跡周辺の調査例としては昭和55年に保育園建設に伴い東側の隣接が、また昭和61年に北側の隣接地が一部調査されている。発掘調査の結果、当遺跡の東側に広がる石並城跡の堀跡の一部が検出されている。この石並城跡はその南に連なる王城跡･黒岩城跡を合わせ大井城跡又は岩村田館跡と呼ばれ中世佐久を支配した大井氏の本拠地と考えられる城跡である。現在までに城郭域の一部が発掘調査され、竪穴状遺構等が検出されている。

今回、遺跡群内で大塚菊次郎氏により集合住宅建設が計画され、当教育委員会で試掘調査を行った。その結果遺構が確認され、保護協議を行い建物部分のみ記録保存を目的とする発掘調査を行うこととなった。

六供後遺跡Ⅰ位置図（1：10,000）



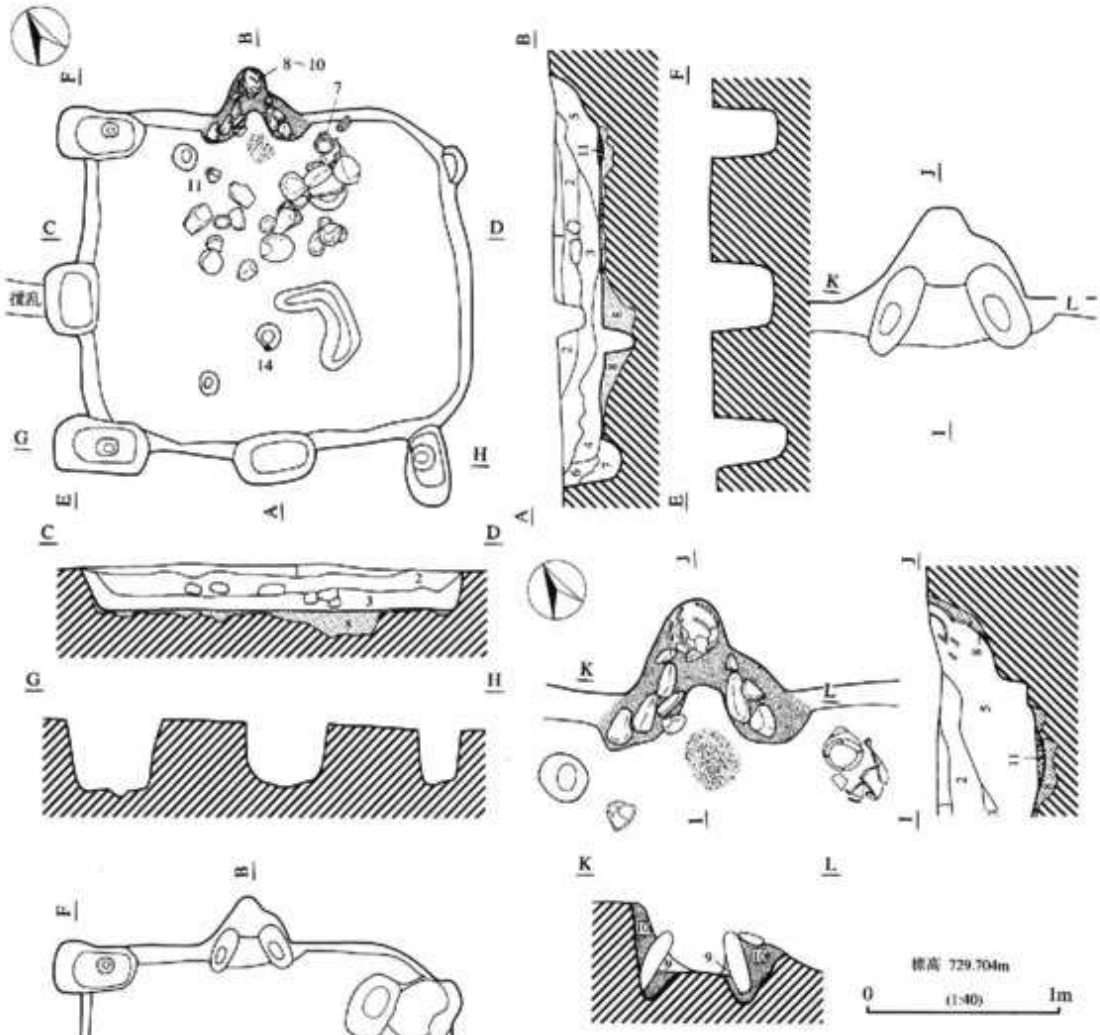
周辺部発掘調査位置図（1：1,000）

（1）H1号住居址

本住居址は調査区北東側より検出された。残存状況は良好である。形態はほぼ方形を呈し、カマドは北壁中央部に、西壁と南壁にピットの重複が確認された。住居址の規模は北壁3.62m・東壁2.96mで、壁高さは残りの良好な部分で43cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位は西壁を軸とするとN－24°－Eを示す。住居址の床面積は11.2㎡を測る。覆土は基本的に3層に分かれ、自然堆積であった。床は全体的に硬質であったが、特にカマド前面から住居址中央部かけてが顕著であった。貼床は2～27cmの厚さで貼られていた。壁溝は確認されなかった。ピットは3カ所が確認され、規模はいずれも径25cm前後で深さが23～28cmを測る。また、本址は西壁と南壁に重複する様な形でピットが検出された。これらピットは調査当初、その規模の大きさとそれぞれの堆積関係から本住居址とは所産時期の異なる掘立柱建物址と考えた。しかし、調査が進展していくにあたり、住居址の壁及びコーナーにきれいに配置されている。北辺と東辺の柱列が確認できない。AB間に示したセクションも柱痕以外の部分ではピット内の埋め戻し土により住居址覆土が埋没したような状況になる。以上3点の状況からこれらピットは本址の壁柱穴と判断したい。ピットの規模は北西コーナーから長軸89cm・深さ67cm、西壁中央部が長軸74cm・深さ63cm、南西コーナーが長軸100cm・深さ79cm、南壁中央部が長軸84cm・深さ68cm、南東コーナーが長軸83cm・深さ51cmをそれぞれ測る。形態はいずれも長方形でそれぞれのコーナー部ピットのみ底面に円形の一段深い掘り込みが検出された。本址の掘り方は住居址中央部と南東コーナー及び北東コーナー付近で浅い掘り込みが検出された。

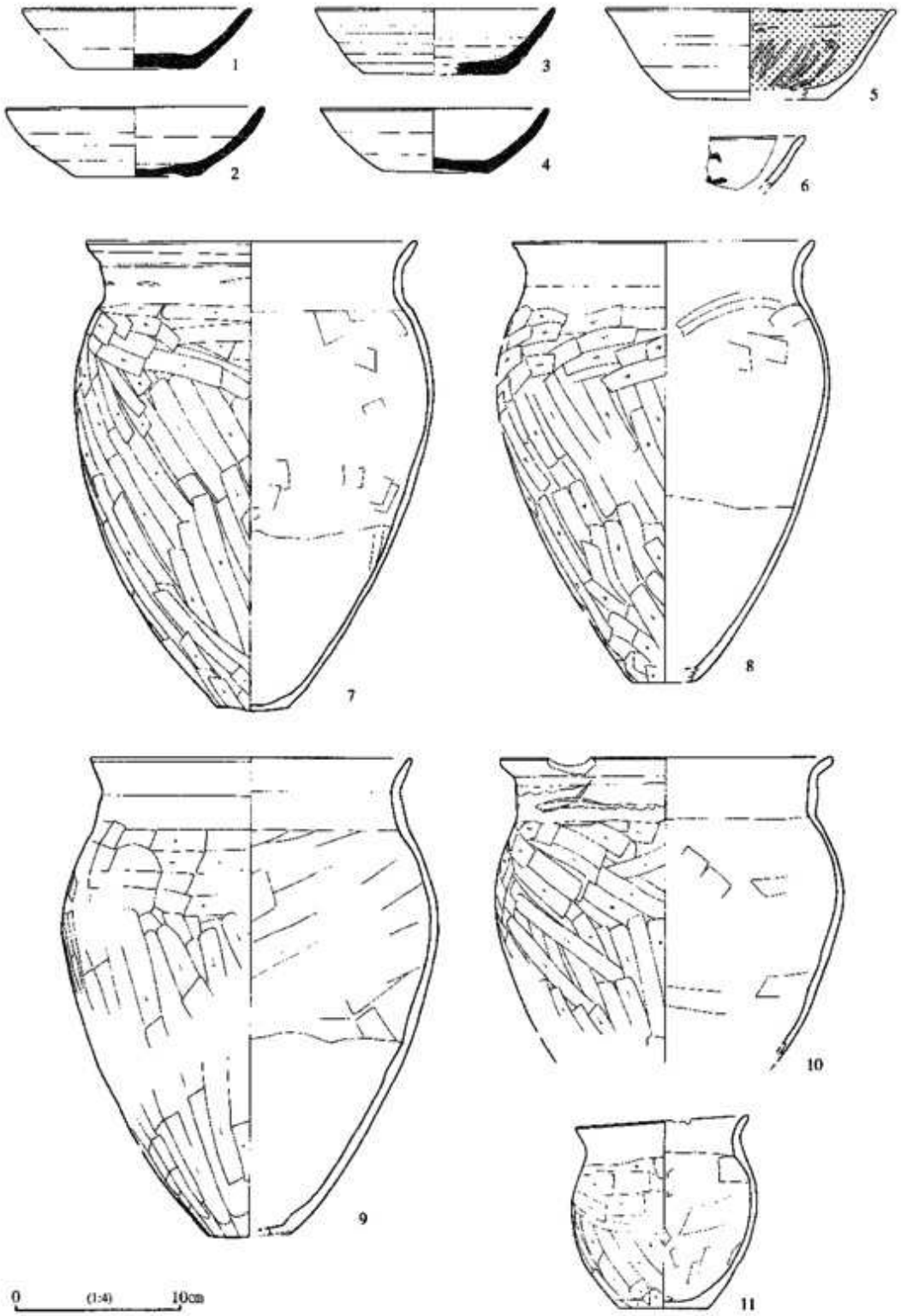
カマドは北壁中央部で検出された。残存状況は天井部は崩落し、袖部も礫と少量の粘土を残すのみであったが、煙道部には土師器甕が埋め込まれた状態で出土した。形態は煙道部が壁外に飛び出すタイプで、袖は粘土と河原石を使用していた。規模は煙道部長70cmで、火床面の焼土の幅は30cmを測り良く焼けていた。また、カマド前面にはカマド構築材と考えられる人頭大の礫が散乱した状態で出土した。

本址からの遺物はカマドを中心に出土し、土師器・須恵器・鉄製品・石製品があった。1～4までは須恵器坏である。出土位置は1と4がⅠ区覆土中、2と3がⅣ区覆土中である。残存率は4がほぼ完形の他はいずれも1/2以下の破片である。調整はいずれも底部回転糸切り離しであり、成形はロクロである。5と6は内面黒色処理された土師器坏である。出土位置は5がⅡ区、6がⅣ区の覆土中である。6は器面表に籾痕があるが判読不明である。7～10は土師器甕である。残存率は7がほぼ完形、その他は1/2強ほどの資料である。出土位置は8～10がカマド煙道部から出土し、7はカマド右袖脇の床面より出土した。形態は口縁部が「コ」字状となる所謂武蔵甕のタイプであり、調整はいずれも外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。胎土はいずれも粗い砂粒を含むが、9のみ金雲母を含み他の甕に比べ精練された粘土である。11と12は土師器の小型甕

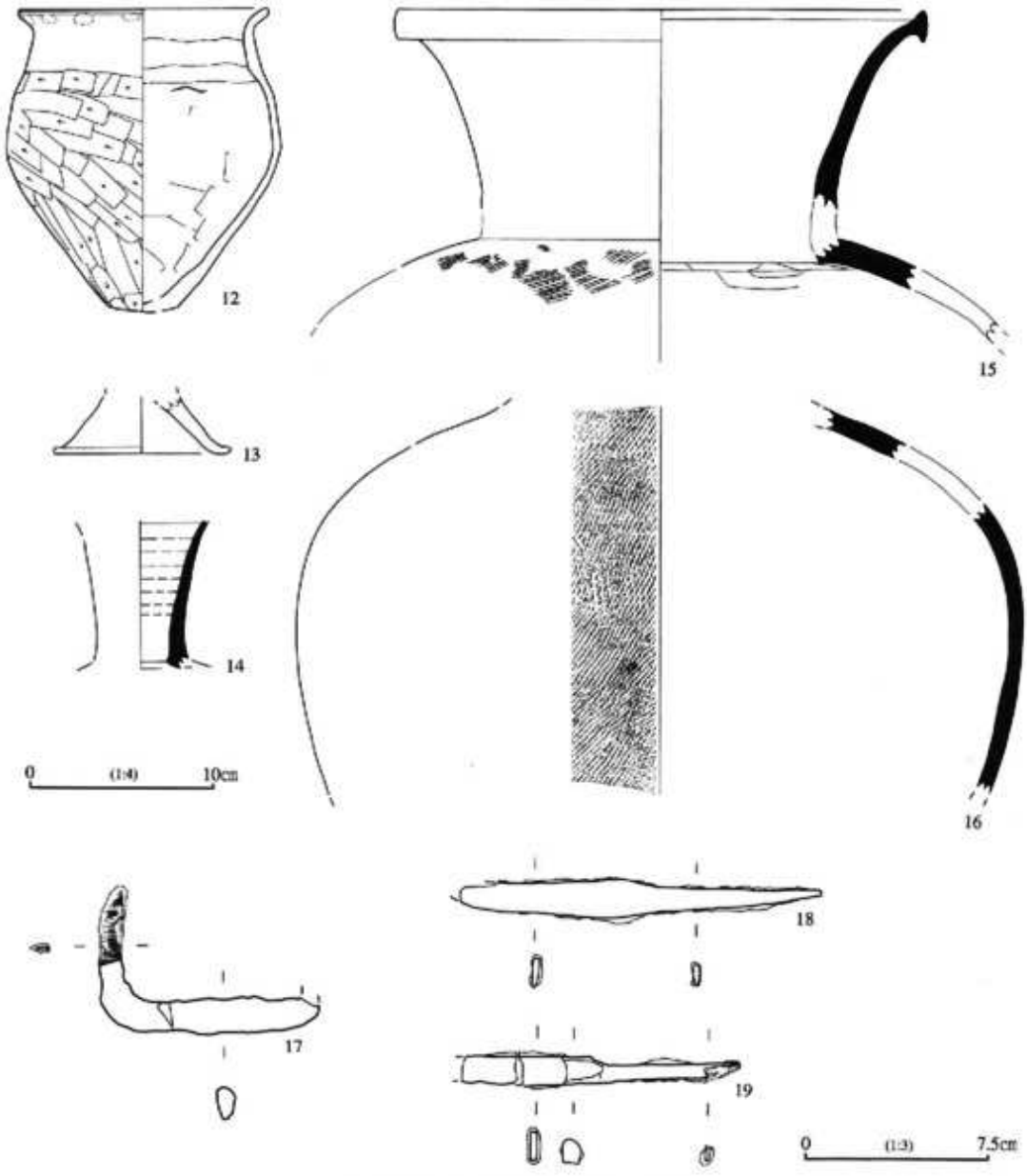


1層　灰黄褐色土　(10YR4/2)　しまり、粘性弱い。軽石を含む。
2層　黒褐色土　(10YR3/2)　しまりあり、粘性弱い。軽石・火山灰粒子を多く含む。
3層　黒褐色土　(10YR3/2)　しまりあり、粘性ややあり。2層より火山灰粒子を多く含む。炭化物を微量含む。
4層　黒褐色土　(10YR3/1)　しまり、粘性あり。粒子が少ない。
5層　褐灰色土　(10YR4/1)　しまり、粘性あり。粘土ブロックを含む。
6層　暗褐色土　(10YR3/3)　しまり、粘性あり。粘土と黒色土の混合土。Pit覆。
7層　黒色土　(10YR2/1)　しまり、粘性あり。炭化物粒子を微量含み、粘土と黒色土の混合土。6層より黒色土が多い。
8層　黒色土　(10YR2/1)　貼床。しまり、粘性あり。上面若干硬質化している。
9層　にぶい黄褐色土　(10YR4/3)　しまり、粘性弱い。焼土・炭化物を多く含む。
10層　黒褐色土　(10YR3/2)　袖。しまり、粘性あり。炭のブロックと粘土ブロックを含む。
11層　赤褐色土　(5YR4/8)　火床面。しまり、粘性弱い。あまり硬くない。

H1号住居址実測図



H１号住居址出土遺物実測図（１）



H１号住居址出土遺物実測図（２）

である。残存率は11がほぼ完形、12も３/４程が残っていた。出土位置は11がカマド左袖の前面床面から潰れた状態で出土した。12はカマド煙道部からである。調整はいずれも外面ヘラケズリ、内面ヘラナデである。13は土師器台付甕の脚部破片で、Ⅳ区覆土中より出土した。14は須恵器長頸壺の口縁部破片である。住居址中央部の床面から出土した。成形はロクロで、外面に自然釉が付着している。15と16は須恵器甕であり、出土位置は15がカマド・カマド袖と貼り床内から破片が、16がⅠ・Ⅱ区の覆土中である。調整は胴部がいずれも外面平行タタキ目が残り、内面はナデ

が残る。17～19は鉄製品で、出土位置は全てⅣ区覆土中からである。17は麻引具と考えられ、一部に木質が残る。18・19は刀子と考えられる。19には木質が残る。これら図示した遺物の他に写真に掲載した軽石製のカマド支脚石がある。いずれも面取りを施している。

これら出土遺物の特徴より本址は9世紀前半の所産時期が推定される。

（2）1号溝状遺構

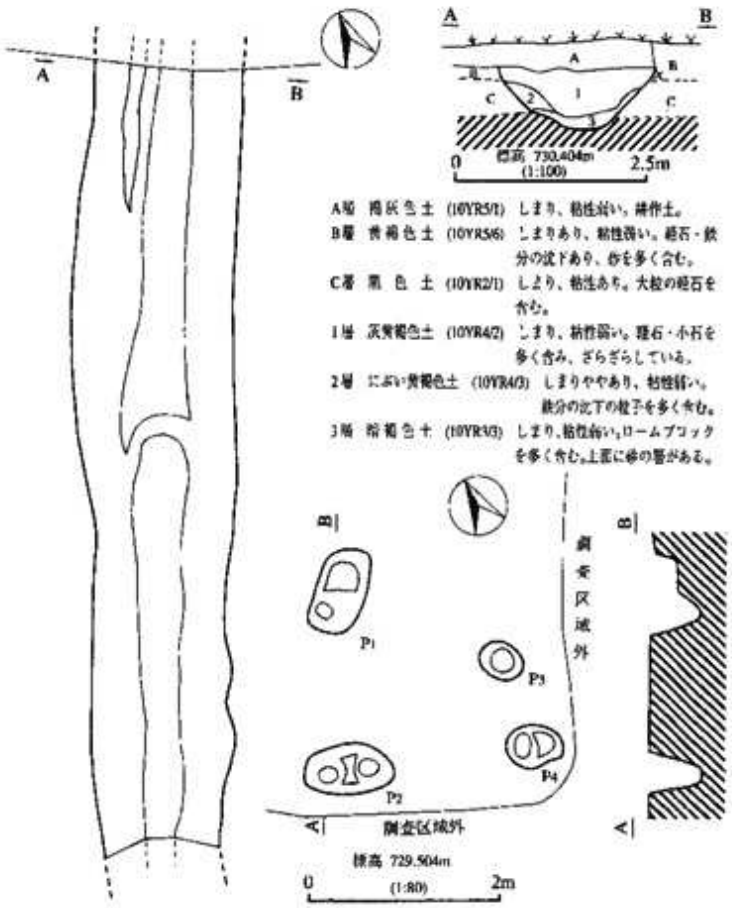
本址は調査区のほぼ中央部で検出された。試掘調査の結果、南北に伸びる溝状遺構であるが調査した部分は南北10mを測る。規模は溝幅が1.5～2.0m・深さ98～115cmを測り、南に緩やかに傾斜する。溝底面の形態は「U」字形を呈し、底面は抉れ等は確認できなかった。覆土の状況は自然堆積であったが、1層最下部に砂の堆積が確認された。

本址からの出土遺物はなく所産時期は不明であるが、覆土の状況から中世に近い時期が考えられる。なお、当調査地点から東にある六供後遺跡から東西に伸びる溝状遺構があるが、溝底面の形態の違いから同一遺構とは考えづらい。

（3）ピット群

本址は調査区西南東端より検出された。ピットは4カ所確認それ、規模はP1が長軸90cm・深さ50cm、P2が長軸90cm・深さ54cm、P3が径45cm・深さ27cm、P4が径68cm・深さ35cmを測る。覆土はいずれも黒色土にローム粒子を多く含み、H1号住居址の壁柱穴に似ている。

本址からの出土遺物はなかった。



溝状遺構及びピット群実測図

① H１号住居址全景（南より）

② H１号住居址掘り方全景（南より）

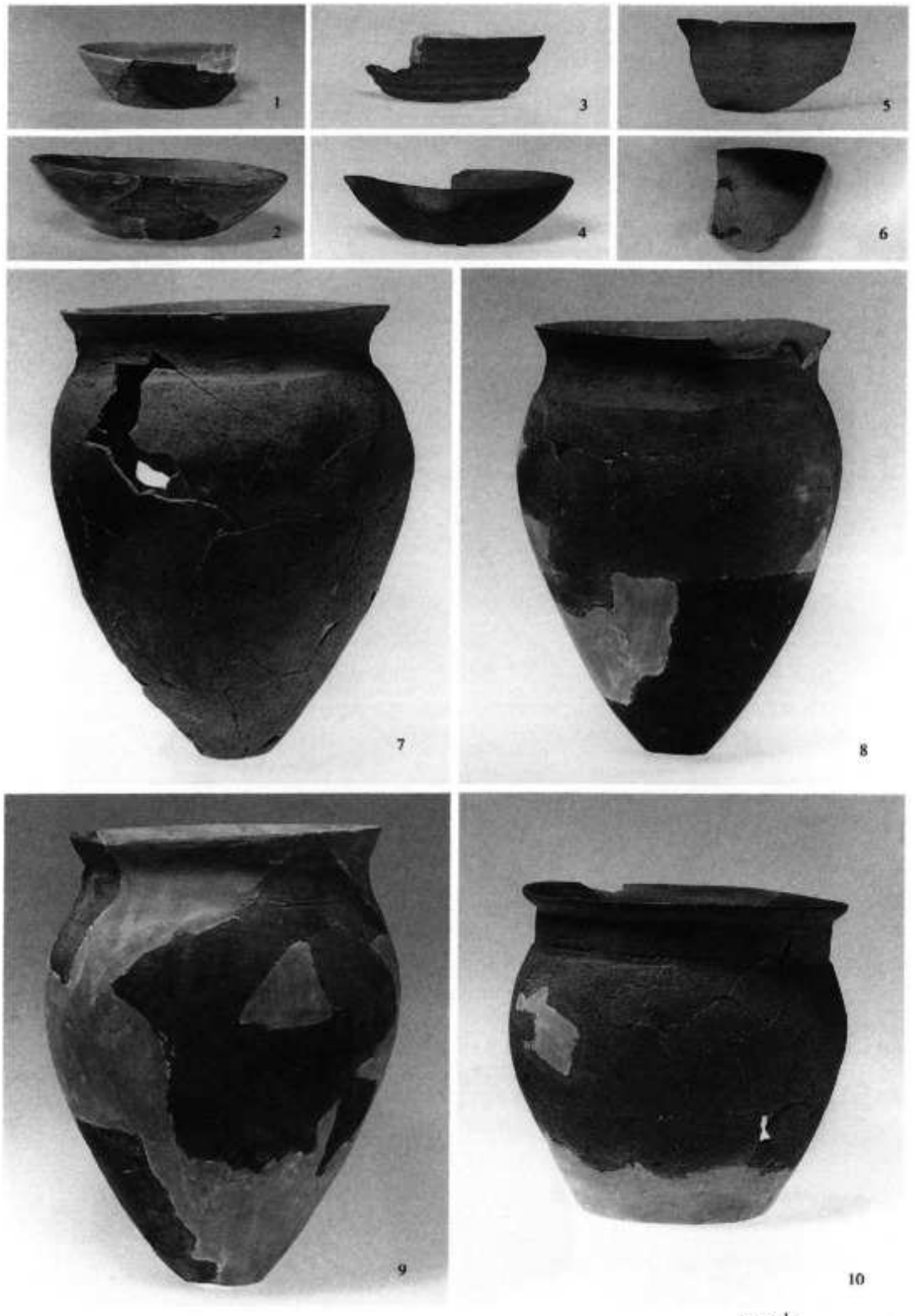
④ H１号住居址壁柱穴
（東より）

④ H１号住居址掘り方近景

① H１号住居址カマド全景（南より）

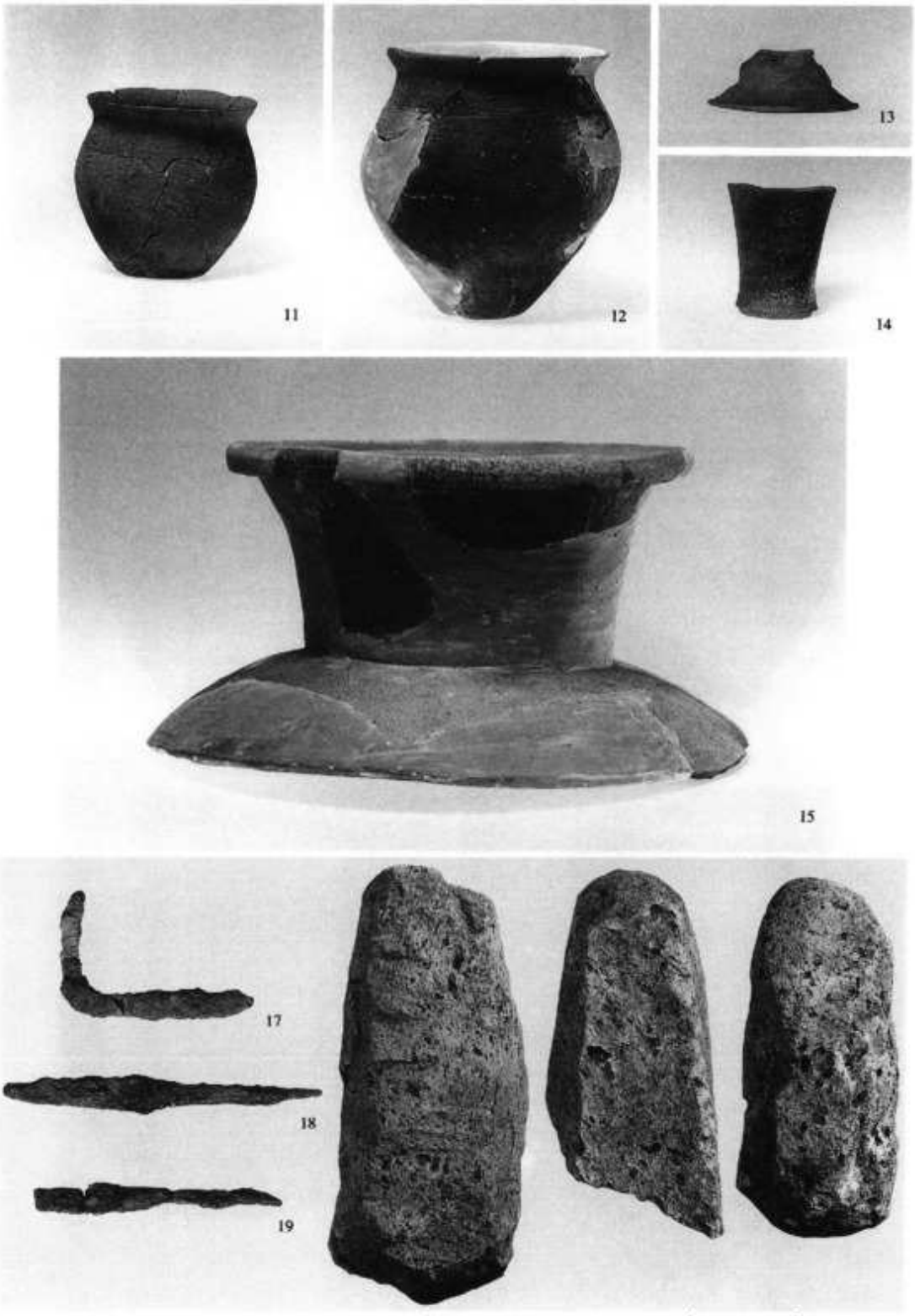
② １号溝状遺構全景

③ ピット全景



1～10 1/4

H１号住居址出土遺物（１）



1～15 1/4　鉄・石製品 1/3

H１号住居址出土遺物（２）

15. 樋橋遺跡調査報告書

所 在 地 佐久市大字岩村田字樋橋1656－1・2

調査委託者 佐久市高速交通課

開発事業 道路改良事業

調査期間 2000年4月13日～2000年4月19日

面　　積 370㎡

調査担当者 林幸彦

樋橋遺跡位置図（1：50,000）

樋橋遺跡調査地点近景（南方から）

第2図　周辺遺跡位置図（1：10,000）

立地と経過

樋橋遺跡は濁川の左岸にあり、標高687mを測る。西側一帯は塚原泥流分布域で、小丘が多く存在する。本遺跡の西方100mには、弥生時代後期の集落や環濠が検出された西一里塚遺跡がある。

佐久市高速交通課が市道改良事業を計画したため、平成12年3月27・28日に試掘調査を実施した。従来遺跡として周知されていなかったが、弥生時代や平安時代の土器片が出土したため、新発見の遺跡として今回記録保存発掘調査を行った。

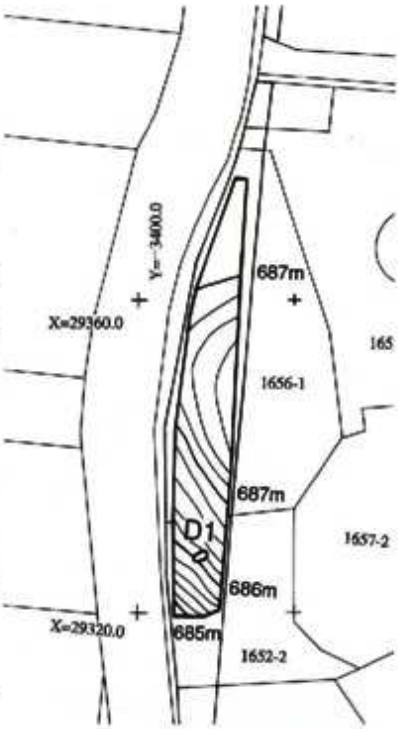
調査の概要

調査地点は、通称餓鬼塚と呼ばれる南北100m東西50m高さ6mを測る塚原泥流小丘の西裾部にあたる。

遺構は、弥生時代後期後半の土坑1基が検出され、付近の低地の上部に数片の平安時代須恵器下部に弥生時代後期土器の包含層が認められた。

土坑は、裾部南西の低地際から耕作土下30cm で検出された。方形の浅い土坑と長方形の深い土坑が重複しているような平面形態であるが、土層の状況から単独の土坑と判断した。

主体となる長方形土坑の上端長軸196cm 短軸78cm、下端長軸152cm 短軸52cm 深さ31～38cm を測る。長軸方位は、N－60°－Eを指す。底面の長軸両端は20cm の高低差があり、径15～25cm 深さ5～12cm の4個の円形小穴がみられた。南側の方形部分は、平坦なテラスで底面から10cm 確認面から30cm を測る。すべての覆土を篩ったが人骨・玉類等土器以外の検出はない。小穴を組合式木棺の小口ともみれようか。



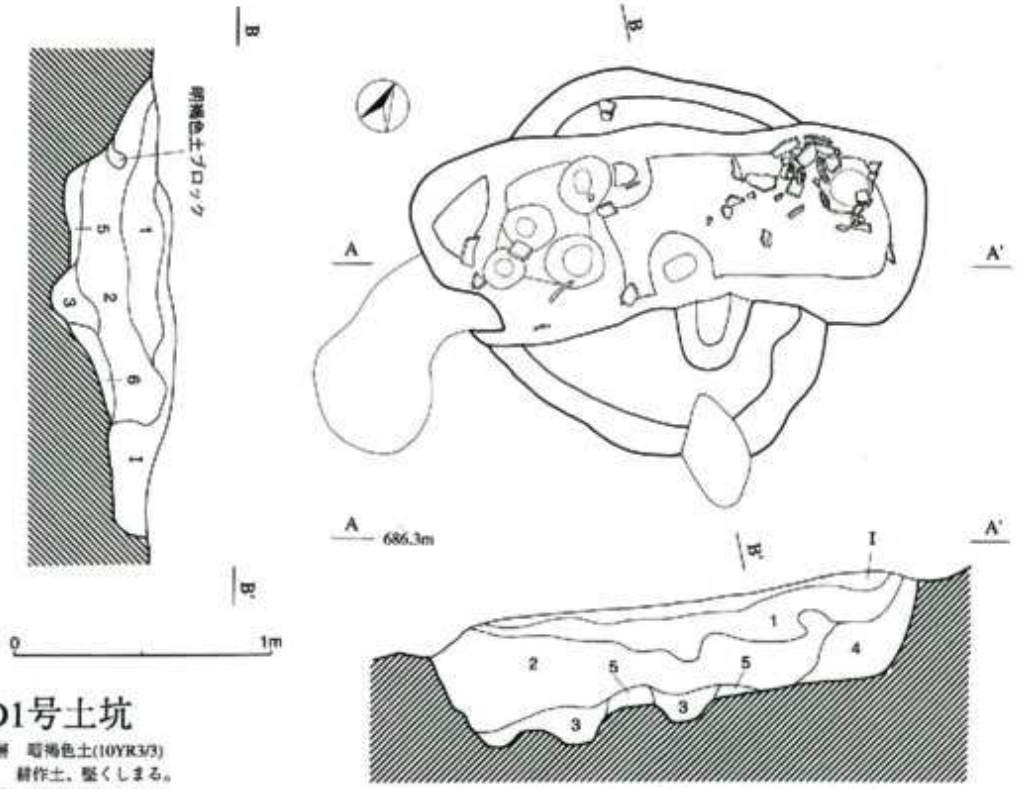
第3図　調査全体図（1：1,000）

遺物は第5図の弥生時代後期後半の壺・甕・鉢が出土した。第5図1・2・6・11は、D1号土坑から、他はD1号土坑の南西の低地から出土した。

1の壺は、外面赤色塗彩され、底径14.5cm 残存部高46.5cm を測る。同一個

D1号土坑（北東方から）

体とみられる破片は約110片で10片が土坑覆土４層から、他は１層とⅠ層からの出土である。胴下部のくびれは丸みを帯び、胴部は張り気味に太頸へと続く。箆描斜格子文が施された11は壺頸部で、１と同一個体とみられる。２の片口鉢は、内外面赤色塗彩された口径31cm を測る大型の鉢である。３～６は、壺で３・４は内外面赤色塗彩、５は外面赤色塗彩されている。３は口唇部に縄文、４には太めの櫛描簾状文、５には櫛描波状文、６には櫛描横線文が施されている。７～10は甕で、櫛描簾状文・波状文・斜走文がみられる。

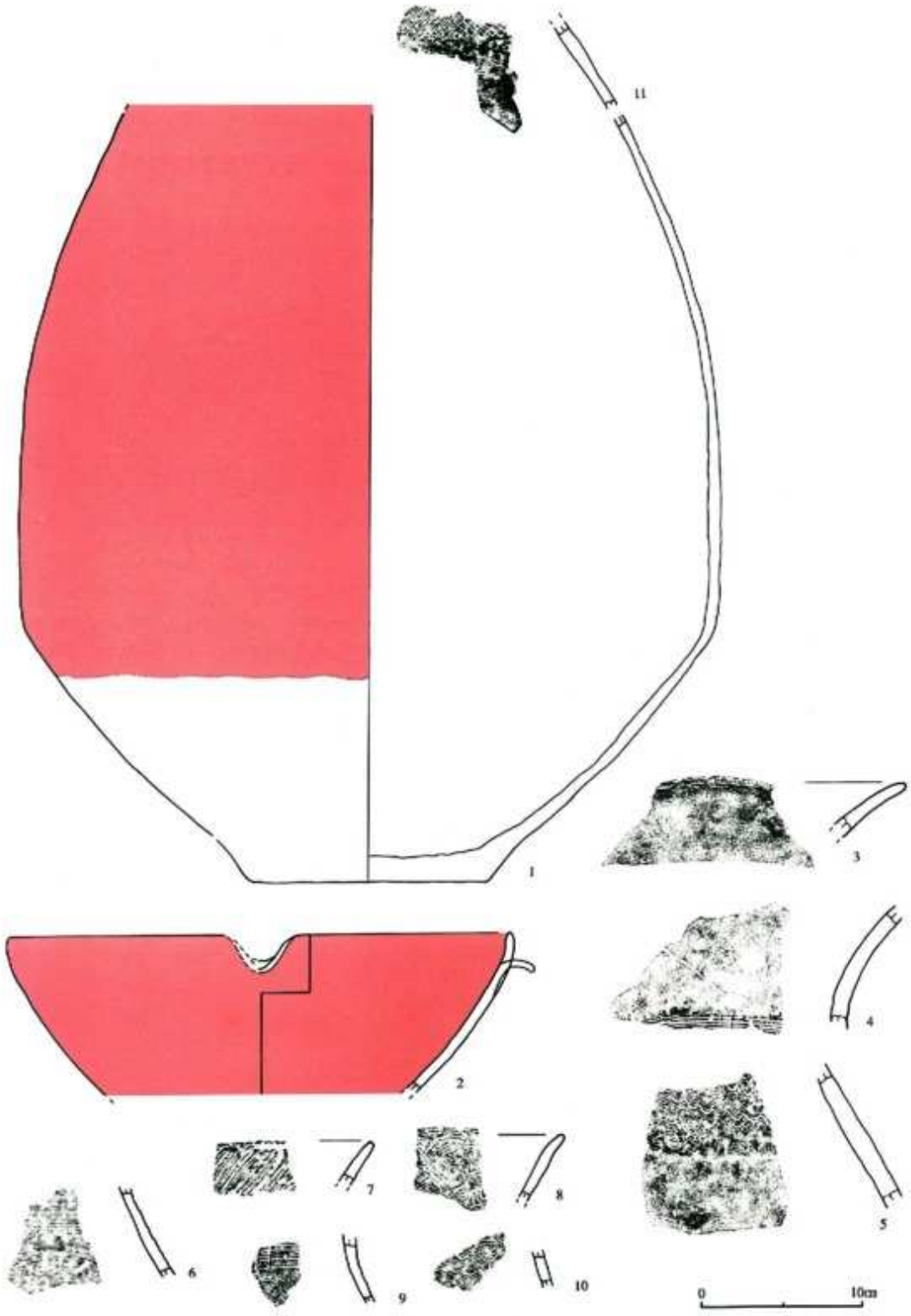


D1号土坑

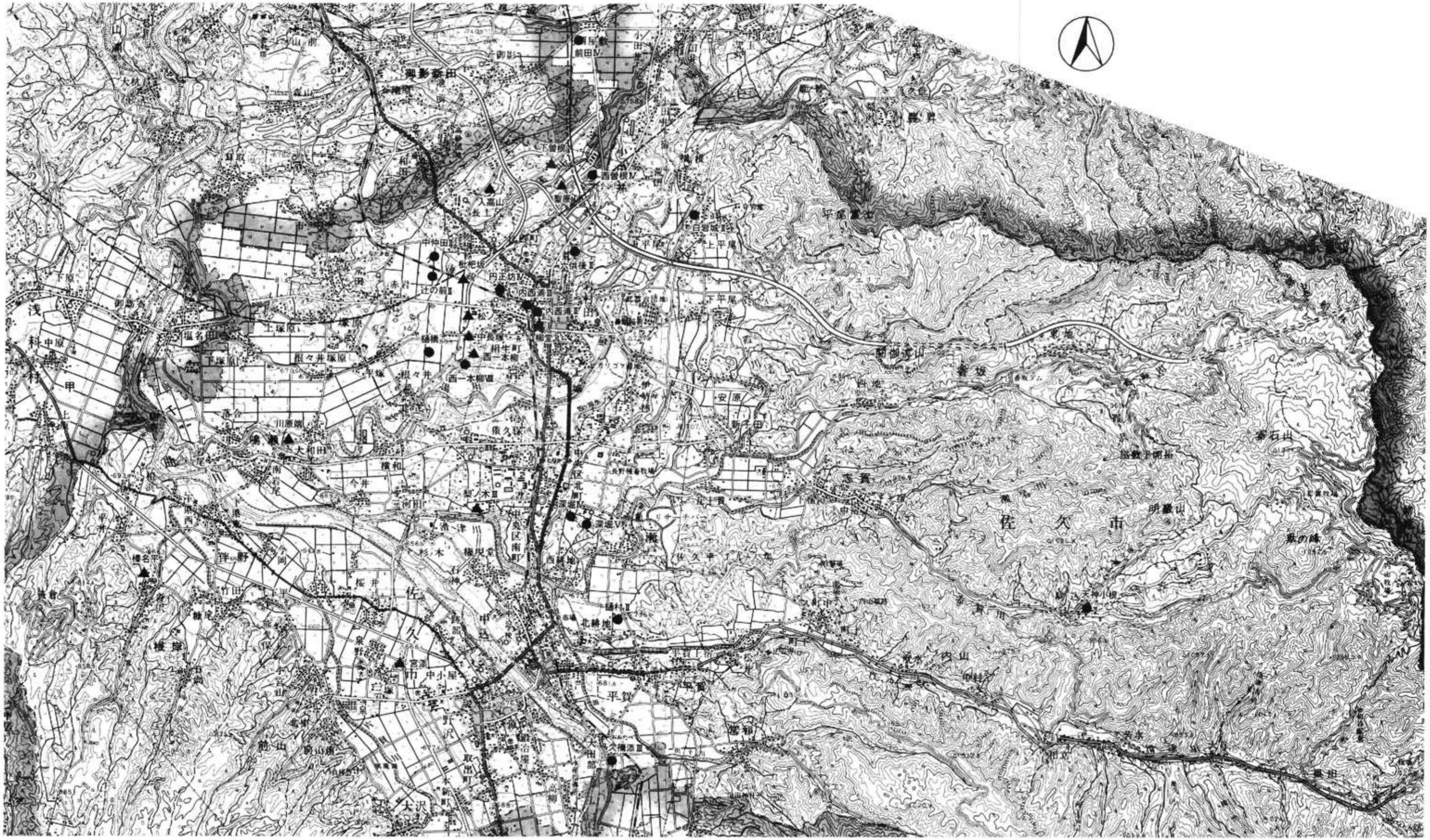
1層　暗褐色土(10YR3/3)
耕作土、堅くしまる。
1層　暗褐色土(10YR3/3)
炭化物少量・土器含む。堅くしまる。
2層　黒褐色土(10YR2/3)
粘質あり、しまり弱い。
3層　黒褐色土(10YR2/2)
しまり弱い。黄褐色土の小ブロックを多量に含む
4層　暗褐色土(10YR3/3)
しまり弱い。黄褐色土の小ブロックを少量。土器含む。
5層　黒褐色土(10YR3/2)
しまり弱い。黄褐色土の小ブロックを多量に含む
6層　褐色土(7.5YR4/4)
黒褐色土の小ブロックを多量に含む。

第４図　Ｄ１号土坑実測図（１：30）

Ｄ１号土坑遺物出土状態（北西方から）



第5図　D1号土坑・包含層出土遺物実測図（1：4）



平成12年度　発掘調査及び整理調査遺跡位置図（1：50,000）　●は発掘調査　▲は整理作業

Ⅲ　一般文化財事業

1　体制

佐久市教育委員会　文化財課

教　育　長　依田　英夫

教育次長　小林　宏造

文化財課長　草間　芳行

文化財係長　荻原　一馬

文化財係　林　幸彦　須藤　隆司　小林　眞寿　羽毛田卓也

冨沢　一明　上原　学　山本　秀典　出澤　力

文化財保護審議会委員

会　長　鈴木　公人

職務代理　小林　徳雄

清水　岩夫　堀籠　好夫　小林　壽三　並木　良子

中沢　忠人　小栗　集

資料館協議会委員

会　長　柳沢佐久平

職務代理　小林　信男

並木　良子　柳沢　和敏　相沢　昭子　臼田　隆雄　鈴木　公人

柳沢　陽　櫓松千鶴子

2　調査事業費

平成12年度一般文化財事業費　　予算額　5,167,000円

決算額　5,156,752円

3　国・県・市指定文化財

（1）無形文化財「跡部の踊り念仏」の国指定について

「跡部の踊り念仏」の例会を期に、文化庁文化財保護部伝統文化課より吉田純子技官が現地調査にみえた。3月30日（金）午後から例会に向けたリハーサルを見学・調査を行い、翌々日の4月1日（日）には例会の準備の様子から終了までの約6時間に及ぶ調査を行った。

同年11月17日に開催された国の文化財保護審議会において、「跡部の踊り念仏」を含めた11件が重要無形民俗文化財に指定するよう文部大臣へ答申され、平成12年12月27日に重要無形民俗文化

財の指定を受けた旨、官報に掲載された。

ちなみに同審議会における長野県関係の指定は、小県郡長門町の「星糞峠黒曜石原産地遺跡」が国史跡に、松本市の「松本のコトヨウカ行事」と上田市国分の「上田市八日堂の蘇民将来符頒布習俗」が記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財の選択を受けた。

翌年の2月28日には東京のグランドアーク半蔵門に於いて指定書等の交付式が行われ、「跡部の踊り念仏」をはじめとする11件が指定書を交付された。保存会からは茂原保存会長、小林事務局、文化財係山本の3名が出席した。

吉田技官による調査風景

［経過］

平成12年3月30日

文化庁より吉田技官が現地視察

保存会メンバーより聞き取り調査を行う。

平成12年4月1日

跡部西方寺に於いて例会が行われる。

平成12年11月17日

国文化財保護審議会において「跡部の踊り念仏」を重要無形民俗文化財に指定するよう答申される。

平成12年12月27日

「跡部の踊り念仏」が国の重要無形民俗文化財に指定される。

平成13年2月28日

指定証書等交付式が行われる。（東京：グランドアーク半蔵門）

指定書交付式

国・県・市指定文化財一覧表

No	指定区分	文化財名	名　称	員数	所在地	所有者	指定年月日
1	国指定	天然記念物	岩村田ヒカリゴケ自生地	1カ所	岩村田	佐久市	T10.3.3
2	〃	史　跡	旧中込学校	1カ所	中　込	佐久市	S44.4.12
3	〃	重要文化財	駒形神社本殿（附棟札4枚）	1棟	下塚原	駒形神社	S24.5.30
4	〃	重要文化財	絵本着色一遍上人絵伝第二	1幅	野　沢	金大寺	S9.1.30
5	〃	重要文化財	絵本書他阿上人自筆仮名消息	1幅	野　沢	金大寺	S9.1.30
6	〃	重要文化財	旧中込学校（附　建築文書3点）	1棟	中　込	佐久市	S44.3.12
7	〃	重要文化財	鉄鐘	1	跡　部	藤沢平治	S52.6.11
8	〃	無形民俗文化財	跡部の踊り念仏	1	跡　部	踊り念仏保存会	S61.12.17
9	県指定	県　宝	木造地蔵菩薩半跏倚像	1軀	根々井	正法寺	S44.5.15
10	〃	県　宝	木造阿弥陀如来坐像	1軀	岩村田	西念寺	S34.11.9
11	〃	県　宝	木像阿弥陀如来坐像及び両脇侍立像	3軀	安　原	安養寺	H6.8.15
12	〃	史　跡	三河田大塚古墳	1	三河田	故柳沢義一	S37.7.12
13	〃	史　跡	伴野城跡	1	野　沢	大伴神社・佐久市	S40.4.30
14	〃	史　跡	根々井氏館跡	1	根々井	正法寺	S40.7.29
15	〃	史　跡	北高禅師墓碑	1基	岩村田	龍雲寺	S44.10.2
16	〃	史　跡	大井城址（王城・黒岩城）	1	岩村田	個人34人	S46.5.27
17	〃	史　跡	平賀城跡	1	常　和	個人37人	S46.5.27
18	〃	史　跡	岩尾城跡	1	鳴　瀬	個人39人	S46.5.27
19	〃	天然記念物	王城のケヤキ	1	岩村田	荒宿十二社	S61.3.27
20	〃	県　宝	版本大般若経	582巻	安　原	安養寺	S63.3.24
21	〃	県　宝	清源山貞祥寺三重塔	1	前　山	貞祥寺	H4.9.10
22	市指定	史　跡	安原大塚古墳	1基	安　原	英多神社	S45.10.1
23	〃	史　跡	大梅禅師墓碑	1基	内　山	正安寺	S45.10.1
24	〃	史　跡	鵜繩沢城一里塚東塚	1基	岩村田	関口芳行	S45.10.1
25	〃	天然記念物	白山神社のイチイ古樹	1	常　和	白山神社	S45.10.1
26	〃	天然記念物	野沢町の女男木	1	野　沢	大伴神社	S45.10.1
27	〃	有形文化財	竹田の鐘（一）	1	根　岸	工藤光吉	S45.10.1
28	〃	有形文化財	竹田の鐘（二）	1	根　岸	工藤勇祐	S45.10.1
29	〃	有形文化財	金台寺の鐘	1	野　沢	金大寺	S45.10.1
30	〃	有形文化財	下桜井村寛永の五人組帳	1	桜　井	臼田繁雄	S49.12.1
31	〃	有形文化財	平賀村中善寺大般若経	600巻	平　賀	中善寺	S49.12.1

No	指定区分	文化財名	名　称	員数	所在地	所有者	指定年月日
32	〃	有形文化財	永禄十一年上原筑前御殿検地帳	1	源　戸	柳沢譲	S49.12.1
33	〃	有形文化財	桃源院木造地蔵菩薩坐像	1躯	向岩尾	桃源院	S49.12.1
34	〃	有形文化財	平尾大社本殿	1棟	上平尾	平尾大社	S49.12.1
35	〃	有形文化財	取出町百番観音	100躯	取出町	取出町区	S49.12.1
36	〃	史　跡	北西ノ久保の石像塔婆群	1群	岩村田	井上行雄	S49.12.1
37	〃	史　跡	正楽院の供養塔	1	平　賀	長福寺	S49.12.1
38	〃	名　所	皎月原	1カ所	小田井	佐久市	S53.2.1
39	〃	天然記念物	チョウゲンボウ	2カ所	長野県	佐久市	S53.2.1
40	〃	有形文化財	旧長命寺仁王堂応永在銘石柱	1基	大　沢	長命寺	S54.9.25
41	〃	史　跡	前山城跡	1	前　山	個人11人	S56.4.23
42	〃	有形文化財	歴歴在銘板碑	1	中　込	正楽寺	S57.3.1
43	〃	無形民俗文化財	岩村田祇園におけるお船様祭り	1	岩村田	荒宿区	S58.9.1
44	〃	有形文化財	安養寺の木造法燈国師倚像	1躯	安　原	安養寺	S62.10.20
45	〃	有形文化財	安養寺の中世文書	7点	安　原	安養寺	S62.10.20
46	〃	有形文化財	龍雲寺の中世文書	38点	岩村田	龍雲寺	S62.10.20
47	〃	有形文化財	栗一本柳古墳出土遺物	147点	岩村田	佐久市	S62.10.20
48	〃	有形文化財	上直路出土遺物	35点	岩村田	佐久市	S62.10.20
49	〃	有形文化財	北西ノ久保遺跡出土の遺物	83点	岩村田	佐久市	S62.10.20
50	〃	有形文化財	中溝遺跡出土遺物	2点	野　沢	佐久市	S62.10.20
51	〃	有形文化財	周防畑B遺跡出土遺物	34点	長土呂	佐久市	S62.10.20
52	〃	有形文化財	後沢遺跡出土遺物	26点	小宮山	佐久市	S62.10.20
53	〃	有形文化財	蓬の峯古墳群出土遺物	31点	根　岸	佐久市	S62.10.20
54	〃	史　跡	後沢遺跡	2基・5棟	小宮山	佐久市	S62.10.20
55	〃	史　跡	蓬の峯古墳群	1～4号	根　岸	個人6名	S62.10.20
56	〃	有形文化財	木造愛染明王坐像及び脇侍木造両界大日如来坐像	3躯	志　賀	法善寺	H1.11.6
57	〃	有形文化財	大井法華堂修験関係文書	859点	岩村田	大井道也	H1.11.6
58	〃	有形文化財	旧大沢小学校	1棟	大　沢	佐久市	H8.6.6
59	〃	有形文化財	倉沢薬師堂（本殿、宮殿、石像薬師如来立像、加舎白雄自筆奉納俳額）	4点	前　山	貞祥寺	H10.4.30
60	〃	有形文化財	正法寺多層塔	1基	根々井	正法寺	H10.12.28

国指定8件　　県指定13件　　市指定39件　　合計60件

4 普及・公開事業

旧中込学校・藤村旧宅入館者状況

	開館日数	入館者数
旧中込学校	288日	9,732人
藤村旧宅	130日	1,901人

旧中込学校資料館

Ⅳ　庶務日誌

平成12年

4月4日　月例会
4月5日　調査員委嘱状交付式・発掘調査開始
4月10日　大沢小学校　旧中込学校　消防器具点検
4月11日　県庁報告（係長）
4月13日　旧中込学校保存会総会（ＪＡ中込支所２階会議室）
4月15日　旧中込学校藤の木の樹木医による診断（藤牧昇氏）
4月24日　調査員健康診断
5月2日　月例会
5月15日　野沢中学校職場体験学習
5月26日　文化財保護審議会（教育長　次長　課長　係長　係）
5月29日　資料館協議会（展示計画）
6月1日　月例会
6月6日　文化財保護担当者会議（塩尻市）
6月7日　泉小学校遺跡見学（三河田大塚古墳）
6月29日　資料館協議会委員視察研修（課長　係長　係）
6月29日　月例会
7月4日　ＦＭ佐久平出演　（少年考古学教室案内　係長）
7月6日　平尾大社現状変更現場立ち会い（係）
7月7・8・9日　課研修　（釜山・慶州）
7月11日　坂城町文化財担当者　旧中込学校視察
7月11日　野沢中学校職場体験学習
7月13日　貞祥寺岡本有光氏より貞祥寺山門・総門の文化財指定申請書受理
7月31日　月例会

8月2日　文化財パトロール（県文化財保護指導委員出浦晃彦　係）
8月3日　旧中込学校　藤の木の手入れ
8月4・7・8日　第21回少年考古学教室開催（西一本柳Ⅶ）
8月7日　文化財パトロール（県文化財保護指導委員新海節生　係）
8月22日　藤村忌出席（藤村旧宅　係）
8月24日　中込大塚古墳アメシロ防除
8月31日　文化財保護審議会（貞祥寺山門・総門）
8月31日　月例会
9月14日　前橋市文化財保護審議委員　旧中込学校視察
9月22日　前山城跡土砂崩落現地調査
9月29日　月例会
10月10日　東小学校展示室見学
10月19日　樹木医藤牧氏の剪定研修
（旧中込学校）
10月24日　野沢中学校職場体験学習
10月25日　旧中込学校藤の木の剪定
10月26日　中込中学校職場体験学習
10月31日　月例会
11月2日　中込中学校職場体験学習
11月6日　浅間中学校職場体験学習
旧中込学校消火訓練

旧中込学校消火訓練

11月7・8日　出土遺物整理・撤出（旧前山小学校）
11月14日　文化財保護研修会（県立歴史館　堀籠委員　係）
11月22日　旧中込学校保存会との話し合い（保存会三役　課長　係長　係）
11月30日　月例会
12月22日　課防災訓練
12月27日　跡部の踊り念仏が国の重要無形民俗文化財の指定を受ける
12月27日　月例会
12月28日　仕事納め

平成13年
1月4日　仕事始め
1月26日　文化財防火デー（旧中込学校消火訓練）

1月30日　月例会

2月16日　遺跡報告会

2月21日　岩村田円満寺　十一面観音調査（小林住職　係）

2月22日　文化財パトロール（県文化財保護指導委員新海節生　係）

2月27日　月例会

2月28日　跡部の踊り念仏指定証書交付式（茂原保存会会長　小林香苗　係）

3月28日　月例会

3月30日　FM佐久平出演（茂原保存会長　係）

V　施設

施設は佐久市大字志賀に在り、旧志賀小学校の一部を改修・修繕し使用している。事務所棟として使用する平屋の南校舎は明治34年に、整理棟として使用する北校舎は大正12年にそれぞれ造築された。平成9年には北校舎の一部が老朽化の為取り壊しとなり、新たに平屋の整理棟（2部屋）を増設した。

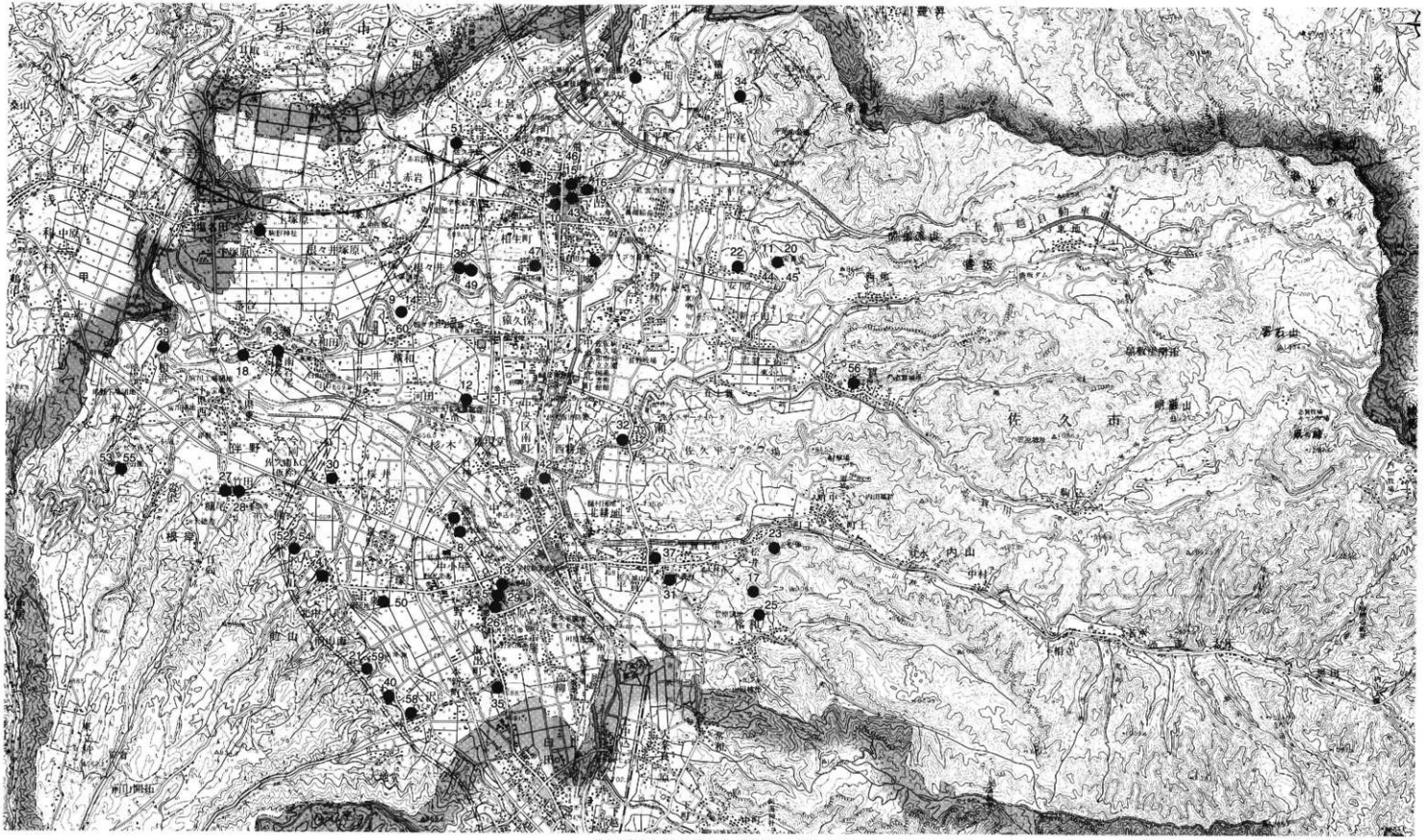
施設面積　8,050㎡（グランドは除く）

事務室1室（2室分）	管理・更衣室・事務用品倉庫1室		図書室1室
資料展示室1室	調査整理室15室	水洗室2室	スタジオ1室
保存処理室1室	木製品収蔵室1室	機材整備室1室	機器材倉庫2箇所
測量用具倉庫1室	大型遺物収蔵庫1棟	耐火収蔵庫1室	小倉庫2室
防火器具庫2箇所	防火水槽1箇所	給湯施設3箇所	屋内トイレ2箇所
屋外トイレ2箇所	休憩室1室	シャワー室1室	

南側事務所棟

北側整理棟

スタジオ



佐久市指定文化財位置図（1：50,000） P105・106圏・県・市指定文化財参照

佐久市文化財　年報 10

平成12年度

2002年 3 月

編集・発行　佐久市教育委員会

〒385-8501　長野県佐久市大字中込3056

文化財課

〒385-0006　長野県佐久市大字志賀5935

TEL　(0267) 68-7321

印　　刷　株式会社 中信社